

会 誌

恵迪

「都ぞ弥生」百年記念号

— 第12号 —



平成 24 年

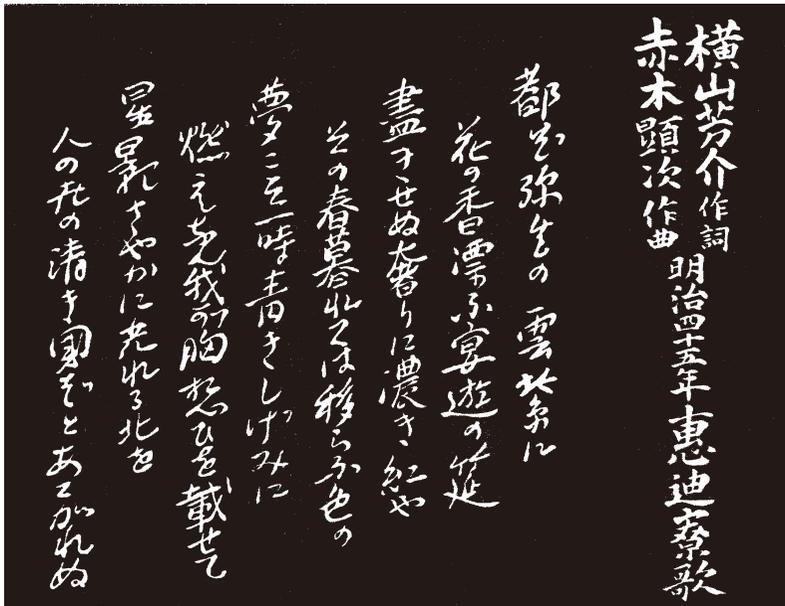
恵迪寮同窓会

会誌

恵迪

「都ぞ弥生」百年記念号

(第12号)



「都ぞ弥生」永遠なれ！ 百年記念祭

平成24年6月9日(土)

■ 記念式典・コンサート・講演 (クラーク会館 大講堂)



百年記念祭に鈴木章先生から
ビデオメッセージが届く



記念式典で挨拶する横山会長



講演後、「都ぞ弥生」を高唱する佐川君（中央）と
横山会長、司会の藤田君



ほぼ満席のクラーク会館講堂で熱弁をふるう佐川君



聴衆を魅了した植村理葉さん（バイオリン）と
一宮明代さん（ピアノ）のコンサート

■「都ぞ弥生」大合唱（中央ローン）



ソーレ！ 札幌農学校はクマが棲む



ストームのステップも軽かに



現役の応援団長のエールで大合唱スタート



韓国語で「都ぞ弥生」を歌う
李准教授のグループ



スワヒリ語の「都ぞ弥生」も負けてはいない
大阪から参加した訳詞の中島君



出席者が殺到し、大混乱の寮歌祭受付風景

予科出身者も登壇し、健在ぶりを発揮



総勢 12 人の役員、
来賓者で鏡割り

応援団の太鼓で
寮歌高唱も一段と弾む



友情参加の小樽商大応援団 OB らと
放歌高唱

■大寮歌祭（京王プラザホテル）



寮歌祭の会場を埋め尽した参加者



同窓会員の家族も出席



青春時代にお世話になったモツラの母さんも出席、登壇



赤木顕次氏のひ孫・田島優君（恵迪寮生）も登壇して挨拶



三・三・七拍子で氣勢を上げる土田実君

■百年記念植樹祭・名札掲示式 (平成24年5月13日(日) 開拓の村 旧恵迪寮舎)



新たに360数人の仲間が加わった名札掲示式



懐しい仲間たちの名前でびっしり埋まった名札掲示板



大きく育てと、ハルニレを植樹する参加者



横山芳介氏三女、故純子さんから寄贈されたチシマザクラ

■「都ぞ弥生」百年記念展 (平成24年5月20日(日)～6月20日(水) 総合博物館企画展示室)



予科時代のマネキンが人気を集めた



会期中3000名もの入場者があった展示会

恵迪第12号もくじ

巻頭言

祝辞

ご挨拶

「都ぞ弥生」百年記念特集

われら同期生

各支部の記念イベント

百年記念祭を支えた仲間

「都ぞ弥生」百年！ 迪に恵えば吉し〜Boys, be Ambitious 恵迪寮同窓会会長 横山 清 9

「都ぞ弥生」の心を歌い続けよう 北海道大学総長 佐伯 浩 10

「都ぞ弥生」に込められたクラーク精神 北海道大学連合同窓会会長 敷土 文夫 10

時空を超えて輝き冴えわたる 恵迪寮同窓会代表幹事 白浜 憲一 11

墓前祭と地域恵迪会の設立 恵迪寮同窓会東日本支部長 山中 義正 11

継続は力なり 恵迪寮同窓会西日本支部長 伊藤 靖久 12

記念祭の熱気 伝えよう全国へ！ 恵迪寮同窓会北海道支部長 氏平 増之 12

クラーク博士の教えと「都ぞ弥生」 藤田 正一 13

「都ぞ弥生」百年記念講演 「都ぞ弥生」これまでの百年とこれからの百年 講師・作家 佐川 光晴君 司会・同窓会常任幹事 藤田 正一君 15

「都ぞ弥生」大寮歌祭で乾杯三唱 恵迪寮同窓会名誉会長 中瀬 篤信 21

恵迪寮入寮半世紀記念 祝賀会 「昭和37・38年入寮同期会」 諏訪 正明 22

「モツラの母さん」の卒寿をお祝いして 「39・40会」 魚山 和春 24

朋有り遠方より来たる 「44年逍遙の会」 岩本 栄一 25

静岡・長源院墓前祭と寮歌祭 朝倉 仁樹 26

百年記念祭・西日本支部前夜祭 清酒「都ぞ弥生」と豚の丸焼きで大盛會 植松 高志 28

「都ぞ弥生」百年記念コンサートを終えて 新井 三郎 29

新しい世紀へ向け健やかに育て〜旧寮舎の周りに植樹 木村 正博 30

「都ぞ弥生」百年の思い 大谷 文昭 30

百年祭は未だ続く 佐藤 市雄 31

百年後の推理 千川 浩治 32

モツラの母さんと医療班 内藤 春彦 33

寮で培ったチームワークと「本番力」 瀬上 玲子 34

寄稿

百年記念祭に参加して……………坂倉 雅夫 34

「都ぞ弥生」の思い出 河合 惣吾 36／スローテンポの「都ぞ弥生」 飯田 喜俊 38／寮歌と共に 工藤 信彦 39

大志を実践した学生ボランティア達に巡り会えて／選手村でのホスピタリティーサービスの実践記録から 増子 忠恕 41

追憶の「都ぞ弥生」讃歌 加藤 雄志 44／リンゴ事件と「都ぞ弥生・二番」 酒井誠一郎 46／俳句 新涼 小沢 久弥 48

都ぞ弥生の「都」とはどこか 刈谷 純一 49／懐かしくも気になる思い出 合田 寅彦 51

50余年前の恵迪グラフィティ 菅野 溥記 52／人の世の清き国ぞとあこがれぬ／迪を求めて 清水 宏 53

最南端の沖繩寮歌祭 上江洲安宏 55／それぞれの新しい「都ぞ弥生」を／百年記念祭に参加して 新蔵 利熙 56

「わらび会」と「都ぞ弥生」 石嶋 紘 56／「都ぞ弥生」のポピュラリティに関する一考察 加藤 秀弘 57

全小節版「都ぞ弥生」寮舎オルゴールの制作 榊原 悟志 60／「都ぞ弥生」よ、とこしえに 木村 政明 61

復興支援「お茶キャラバン」／被災者に寄り添う恵迪寮OB 松本 靖治 63

熱血の人 厚谷純吉君を悼む……………高井 宗宏 65

「都ぞ弥生」百年記念事業協賛者／芳名録……………66

平成23年9月17日 校歌「永遠の幸」のルーツをたどって……………講師 野呂 雅之君 68

「Be Gentleman」という教え……………第299期執行委員長 加藤 友彬 73

平成23年度寮歌「広がるはただ青き旅路ぞ」……………作詞 安田龍平君 作曲 我如古弥司君 74

「都ぞ弥生」が生まれた100年前の時代相……………古川 俊実 76

横山芳介の世界……………前島 一淑 87

「酒、歌、煙草、また女」続きの物語……………金 武彦 川原 幸則 前島 一淑 92

恵迪寮同窓会第12期平成24年度理事会報告……………96

編集後記……………96

表紙は銅板画「旧恵迪寮」 菅間 慧一氏（元北海道水産研究所職員）作

表紙は銅板画「旧恵迪寮」 菅間 慧一氏（元北海道水産研究所職員）作

追悼

「都ぞ弥生」百年記念事業

恵迪寮同窓会西日

本支部 開識社講演

現 寮 から

寮歌研究 その一

寮歌研究 その二

寮歌研究 その三

恵迪寮同窓会通信

編集後記



「都ぞ弥生」百年！ 迪に恵えば吉し

～Boys, be Ambitious

恵迪寮同窓会会長

横山

清

(S 31年入寮)

札幌農学校寄宿舎から初代、二代、そして現在は三代目の恵迪寮に至るまでの歴史は、北海道大学の歩みと共にあり、同窓生の数は一万数千名余に達しています。北大合同同窓会でも一際群を抜いて、その結末の強さ、多彩な人脈、世界的な拡がりに存在感があります。そして何よりも毎年、寮生のみで創られる寮歌と脈々と歌い継がれていく伝統は、卒業する、青春時代を濃密に生き抜いた体験がそれぞれの時代の人生で尽きることなき思い出と共に、恵迪精神とも言うべき〈Boys, be Ambitious〉が強かな人材を輩出し続けています。

五年前の恵迪寮命名百年記念は記憶に新しいところです。初代同窓会長、星光一先生から四代目、中瀬篤信氏が類なき指導力を発揮され、不肖私も学生時代に建立に携わった「都ぞ弥生」歌碑の再建事業を始め、寮歌祭、記念誌作成などの成功により同窓会活動も一気に活性化し今日に至りました。

そして次なる大事業が、初夏の北大構内に全国の同窓生が参集した「都ぞ弥生」百年記念祭でした。横山芳介氏御息女とその家族、赤木顕次氏令孫らの参加は、人間生活の動的平衡とでもいうべき継続していく命のエネルギーを痛切に体得しました。また、先輩、後輩、現寮生のほか、市民や観光客も飛び入りした大合唱はエルムの森を揺るがす津浪や木霊となり、学園のあらゆるものに確実に染み込んでいくことを実感しました。

百年記念祭は大成功裏に終わりましたが、時は刻一刻と進みます。同窓会の催す大寮歌祭が時代のエポックメイキングである以上、次なる催事が望まれます。記念祭でも申し上げましたが、名文がゆえに「都ぞ弥生」の前口上に誤用されてきた、昭和11年寮歌「嗚呼茫々の」（宍戸昌夫君作歌並序）をメインテーマに誕生80年祭を3年後に開催したく提案します。宍戸先生は、豊饒たる生活の中で医学を究め、寮歌を愛しみ、恵迪寮の未来に大きな希望を抱かれる偉才です。

記念祭事業としては来春の映画製作が残っていますが、同窓生の皆様と北大はじめ関係各位に心から御礼申し上げると共に、恵迪精神を高揚した「尊き野心の教え培い」を肝に銘じ唱い続けていく所存です。



「都ぞ弥生」の心を
歌い続けよう

北海道大学総長 佐伯 浩
(S35年入学・工学博士)

明治45年、北大恵迪寮の6番目の寮歌、横山芳介氏作歌、赤木頭次氏作曲の「都ぞ弥生」が生まれて100年が経ちました。北海道の自然とその魅力を見事に謳い、道内外の若者の心を今も引き付けています。我が国の数ある寮歌の中でも名寮歌の一つと言えらると思います。旧制高校では、寮歌を作る伝統がありました。一高の「嗚呼玉杯」は明治35年、三高の「逍遙の歌」は2年後に作られています。

さて、1907年は本学にとって極めて意義深い年でした。札幌農学校の悲願であった帝国大学へ昇格した年でした。当時、帝国大学への昇格条件は複数の大学校（現在の学部相当）で構成されるのが条件でしたが、新たに仙台に理科大学を新設する条件で、札幌農学校は東北帝国大学農科大学へ昇格しました。これは当時の札幌農学校長 佐藤昌介と原敬 内務大臣が同郷であったことが幸いしたと言われています。ちなみに、東北帝国大学が設置されたのは、それから4年後でした。

1907年、予科が設けられ、寄宿舎も恵迪寮と命名され、最初の寮歌「一帯ゆるぎ」が作られました。その5年後に生まれた「都ぞ弥生」が今、100年の歴史に耐え、多くの人々に歌い継がれているのです。大切に歌い続けていきたいと思えます。



「都ぞ弥生」に込められた
クラーク精神

北海道大学連合高窓会会長 數土 文夫
(S35年入学・JFEホールディングス相談役)

「都ぞ弥生」百年祭、おめでとうございます。青春の血潮をたぎらせながら、仲間と輪になり「都ぞ弥生」を歌うことで、私たちは北海道への愛着を深め、北大人に脈々と受け継がれる「クラーク精神」そして「絆」を感じたものです。

現在、我が国は長期経済停滞・東日本大震災という大きな困難に直面しています。未曾有の危機の中、社会に対して義務を果たすよりも、自身の権利を声高に主張する人々が増えているのは誠に残念なことであります。如何なるコミュニティにおいてもセーフティネットが必要ですが、それとは別に義務を果たし、その上で人と人との「絆」を深め、力を合わせていくことが強い社会・国家の形成に繋がるのではないのでしょうか。「都ぞ弥生」には、このように社会人としての義務を尽くし、国家・国民に貢献するのだという強い思いも込められていると思います。

私は、クラーク博士が残した「Be Ambitious.」や「Be Gentleman.」の教訓を受け継ぐ「都ぞ弥生」を通して、人と共に生きることの大切さ、そして「絆」の重みを噛み締めることで、日本が真の「清き国」になると信じています。



時空を超えて 輝き冴えわたる

恵迪寮同窓会代表幹事

白浜 憲一

(S40年入寮)

横山芳介君が1番に「人の世の清き国ぞと あこがれぬ」と起句し、5番で「貴き野心の訓え培い」と渾身の一行を結句とした明治45年から一世紀。私たちは何を経験し、21世紀を生きる世代に何を託すのか。

まず、彼は人・モノ・金で動く世の中において、憧れの北斗には人の世があると見極め、2番から5番で北の大地の四季と自然が織り成す芸術と畏敬を余すところなく歌い上げた。正しく自然と調和するこそ人間らしく生きられるのだと。この百年の科学と人間の前進と後退を真摯に受け止め、深い教訓と戒めとし、次の百年の明るく希望に満ちた国の創造に生かさなければならぬ。

次に、貴き野心の訓え (Be gentleman with lofty ambition) を培うことを人生の不易流行の迪として生きよということ。時代は流れ移ろうものであるが、私達にはその流行を取り込みながら、その底流にある「不易」を見失わず、誠実にその迪を究め続けることが求められている。

「都ぞ弥生」誕生百年の節目の年に、この二つのメッセージを北の大地と日本の未来の進むべき道標として再認識できることの喜びは大きい。百年歌い継がれてきた私達の「都ぞ弥生」は、未だ色あせることなく、北斗の光として燦然と輝き、時空を超えて益々冴えわたっている。



墓前祭と 地域恵迪会の設立

恵迪寮同窓会東日本支部長

山中 義正

(S32年入寮)

今年「都ぞ弥生」が発表されてから百年を迎え、札幌での記念行事に先駆けて、5月19日に作詞の横山芳介氏が眠る静岡市の菩提寺・長源院にて墓前祭、市内のホテルで記念寮歌祭を行いました。

横山芳介氏ご長男芳男氏の奥様はじめご親族の方々や地元静岡市在住者ら80名近い方々の参加を頂きました。「都ぞ弥生」の歌碑前にて参加者全員で「都ぞ弥生」を声高らかに斉唱し、墓前に線香をあげた後、記念寮歌祭に移りました。

また、東日本支部で長年の懸案であった地域恵迪会がようやく設立の運びとなりました。名称を「仙台東北恵迪会」とし、今年7月7日に仙台で設立記念寮歌祭を行いました。「都ぞ弥生」誕生百年のこの記念すべき年に初の地域恵迪会が設立されたのを機会に、今後第二、第三の地域恵迪会設立を目指します。

我々同窓会の存続発展には新規会員の増強が不可欠です。しかし、現実には「言うは易く、行うは難し」です。「都ぞ弥生」百年を迎え、青春時代を想い、「高鳴る血潮のほとばしりもて」の情熱で会員獲得に邁進したいものです。



継続は力なり

恵迪寮同窓会西日本支部長

伊藤 靖久
(S 38年入寮)

昨年の西日本大会で支部長を仰せつかった伊藤靖久です。3年間のお付き合いをよろしくお願い申し上げます。私は、「都ぞ弥生」百年記念祭で副実行委員長として参加させていただきました。百年と言えば一世紀歌い継がれてきたわけですが、その間恵迪寮は何度も廃寮の危機に直面してきました。今回、作家佐川光晴君の記念講演を聴き意を新たにいたしました。現寮（コンクリート新寮）の姿形（食堂も談話室もなし、雪の結晶を形づくったというものの刑務所の造りそのもの）は、誉められないものの、息づく寮生活は知恵と工夫に満ち、我等が寮を誇らずやと、歌い継がれる素晴らしさを垣間見せてくれます。これも新寮を契機に国家管理の体制を築く策動を大変な犠牲を払いながら廃寮の危機を乗り越えたからこそ、今の「都ぞ弥生」があるのだなと思います。

これからの百年は、寮歌を愛し継承する若人と集団生活の器としての恵迪寮が両者相俟って継続してこそ、北大生としてのアイデンティティーが発露され、いわゆる伝統力として永遠に栄え行くのではないのでしょうか。



記念祭の熱気 伝えよう全国へ！

恵迪寮同窓会北海道支部長

氏平 増之
(S 38年入寮)

去る6月9日、北大クラーク会館、中央ローン、京王プラザホテルを中心に行った「都ぞ弥生」百年記念祭は無事終了。実行委員各位の献身的尽力と後援を頂いた北海道大学に対し厚く御礼申し上げます。

今回の出席者実数は約500名でした。北海道支部寮歌祭は概ね100名前後で、いつもの5倍もの参加者でした。私がかつて研究していた岩盤発破では、爆薬を球状と見なしたとき、同じ破壊力が生じる爆源中心からの距離は装薬半径に比例するという相似律があります。少し乱暴な比喩ですが、出席者数を装薬と見立てると、いつもの出席者100名に対する500名の場合の装薬半径比は1:71倍となります。

「札幌の寮歌祭に百名ほど集まり盛り上がった」という東京に伝わる同じレベルのニュースが、今回は直線距離で1:71倍遠方の九州北部、大分市付近にまで伝わるのではないかと推測されます。

全国各地から出席いただいた皆様には、札幌での記念祭がどのような話か、外国語「都ぞ弥生」はこのように歌ったなどの話を、弾性波が伝わるようなように、周りの仲間にも伝えていただきたくお願いいたします。

クラーク博士の教えと「都ぞ弥生」

藤田正一

(S 38年入寮)

明治43年に東北帝国大学農科大学予科に入学した横山芳介は、明治45年寮歌「都ぞ弥生」の一節に「星影さやかに光れる北を 人の世の清き国ぞと憧れぬ」と歌った。なぜまだ見ぬ札幌を「清き国」と思ったのであろうか。憧れて入学した後、現実とのギャップに失望することはなかったのだろうか。

「都ぞ弥生」の歌詞一番は旧制中学校（東京高等師範学校付属中学）からの卒業を間近に控えた東京の春3月を歌ったものである。爛漫と咲き誇る桜の花、やがてその春も暮れ、木々の色も新緑から濃緑へと移る頃、「星影さやかに光れる北」の夜空を仰ぎながら、北海道の地に思いを馳せ、かの地こそ、「人の世の清き国ぞ」と、強い憧れを抱いて6月の予科受験に臨んだのであった。

二番は秋の描写である。9月の入学当初、手稲山の夕焼けに故郷を遠く離れた横山の心はいかばかりであっただろうか。しかし、石狩平野の秋を雄々しくうたっている。「厳かに北極星を仰ぐかな」。三番は冬。厳しくも美しい北海道の冬をうたう。「樹氷咲く壮麗の地をここに見よ」。四番は

春。北国の春の息吹は素晴らしい。新緑、延齡草や水芭蕉の真っ白な花。「春の日のこの北の国幸多し」。五番は初夏の朝、昇りくる朝日に低くたなびく雲が金色に染まっている。陽の動きとともに刻々と移ろう広い平原の向こうの青き山並の色。日の出前、紫紺に染まっていた残雪が、今、まさに朝日を浴びてキラリと輝く。美しくも雄大なるかな自然の芸術。我も大志を抱かん。「高鳴る血潮のほとばしりもて、貴き野心の訓え培い、栄え行く我らが寮を誇らずや」。「貴き野心」はクラーク博士の札幌農学校開校式辞にあるA lofty ambitionの直訳であるが、博士が別れ際に残したBoys, Be Ambitiousとあわせて、「尊き野心の訓え」としたのであろう。

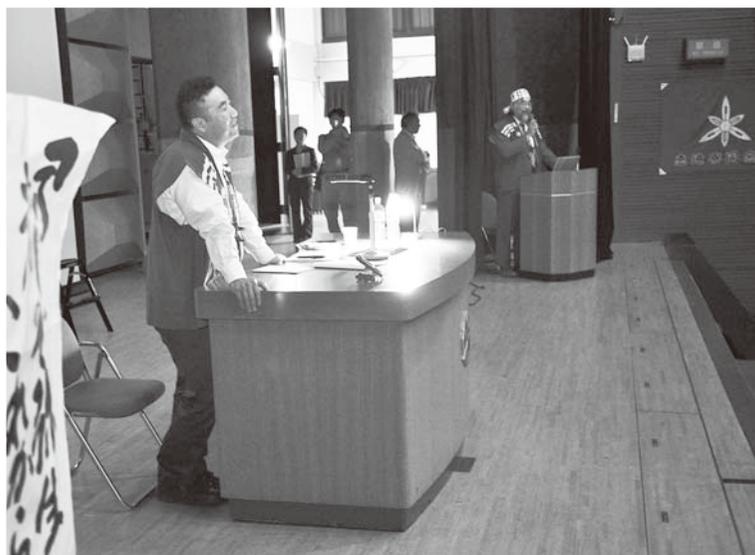
1915年（大正4）のサンフランシスコ万博に配布された「北大略史」の一節に「クラーク博士はBoys, Be Ambitiousと言われた。金銭や私利私欲や人が名声と呼ぶようなはかないものに対してではなく、知識や正義や人々の向上のために、そして、人としてあるべき最高の姿に到達できるように大志を抱け。これがクラーク博士のBoys

Ambitious の真意である」とある。立身出世が青年の立派な生き方とされていた時代に、札幌農学校の、富や名声を求めたのではなく、知識、正義、社会貢献、人格の完成を大志の目標とせよという教育精神は、芳介の目に清い精神と映ったことであろう。この精神は1898年（明治31）に札幌農学校の学生だった有島武郎が作詩した札幌遠友夜学校校歌にも分かりやすく歌い込まれている。遠友夜学校は1894年に新渡戸稲造が設立した、昼間学校に行けない貧しき者のための夜学校で、授業料は無料、北大生達が無償で先生を務め、1944年までの50年間継続した。彼らにとつてここはクラークの訓えの実践の場であった。横山もこの遠友夜学校の熱心な学生教師であった。仲間達との無償の献身に「清き国」を実感したことであろう。

「都ぞ弥生」全体に流れる自然讃歌は美しいものを美しいと感じることが出来る曇りなき心の讃歌でもある。歌詞二番の秋の入学から五番までで北海道の四季の移ろいを歌い切った。最後の一節だけは「尊き野心の訓え」の下で育ちゆく自分たちの寮を誇る気持ちを吐露している。美しい北海道の自然讃歌で札幌農学校の清き精神を見事に歌い込んだ。「野心」も上述のような精神と知れば違和感はない。彼の憧れた「清き国」は存在していた。求めればこそである。横山は卒業後、静岡県の小作官となり、常に弱者の側に立って任務を遂行し、多くの農民から感謝された。また彼は孤児を引き取って育ててもいる。彼の生来の優しい性格と生い立ちに加えて、恵迪寮や遠友夜学校で札幌農学校以来の清き精神に触れた経験が彼のこうした行動の基になっ

ているものと思われる。48歳の若さで閉じた彼の生涯は札幌農学校の子らが、己を利するよりは万民のために、支配する側よりも支配される側の、強者よりも弱者の側の立場に立って彼等の救済と正義を脈々と主張してきた、本流にそそぐささやかな清き流れの一つであった。札幌農学校の清き精神は世紀を超えてこの歌を歌い継ぐ我らの胸のうちに宿り、明日を照らす光となる。北海道の文化遺産とすべきこの清き精神と寮歌「都ぞ弥生」が次の世紀にも語り継がれ、歌い継がれんことを願つてやまない。

（元北海道
大学副学
長）



記念講演で講師の佐川君（左）をユーモラスに紹介する藤田君（右奥）

「都ぞ弥生」これまでの

百年とこれからの百年

講師●作家

佐川 光晴君（S58年入寮）

司会●同窓会常任幹事

藤田 正一君（S38年入寮）

司会 高尚なコンサートを楽しんだ後に、髭ずらの男が現れて申し訳ありません。記念講演の講師として小説家の佐川光晴さんをお呼びしました。講師の選考に当たり、色々の方が候補に上がりましたが、その道の先生方よりも、未だある若者に世代交代した方が良いかと考え、彼にお願いしました。また、佐川さんは、東電福島原発事故の後、自分のHPに、「事故現場で働いている若い人の代わりに45歳以上のロートルが行くべき。これから結婚、子育てする若い人に被爆させてはならない」と書かれています。こうした信念をお持ちなら間違いないだろうと来ていただきました。

屠畜業から作家に 波瀾万丈の半生

佐川さんは昭和40年2月、5人兄弟の長男として東京に生まれ、茅ヶ崎北陵高校卒業後、58年4月北大文III系に入寮。開寮したばかりの新寮に入り、翌年6月から11月まで

第3期執行委員長を務めた後、民間の奨学資金で1年間、南米を漫遊旅行した強者でもあります。

1988年法学部を卒業後、出版社勤務を経て10年間、埼玉県の食肉処理場で牛の解体作業に従事した変わった経験の持ち主です。この時の体験記『生活の設計』で作家デビューし、大学卒業と同時に結婚した小学校教員の奥さんの代わりに主夫をしながら作家活動をされておられます。芥川賞候補に5回もノミネートされ、昨年は坪田譲治文学賞を受賞。今年2月には恵迪寮を題材にした作品集『静かな夜』を発表された将来、有望な作家です。今日は、旧寮から新寮に移行した激動の時代を中心に、恵迪寮と「都ぞ弥生」を語っていただきます。

ただ今、藤田先生からたつぷりと紹介された佐川光晴です。私が生まれた頃、今回の講演でお世話になった藤田さんをはじめ諸先輩が恵迪寮で青春を過ごされていたと伺い、何十年もの世代を隔てたOB同士が、「都ぞ弥生」を歌い、喜びや悲しみを共有できることに不思議な縁を感じ、嬉しく思います。

最近ふと考えたことですが、我々は自分達を「元」恵迪寮生だと思っていない。確かに恵迪寮は卒業したが、今も腹の底から「都ぞ弥生」を歌い、寮で何を考え、何をやって来たのか、そして寮で得た物は何だったのか、絶えず考えながら、世知辛い世の中を生きている「恵迪寮生」なの

です。ここにいられる同窓会の皆さんもきっと同じ思いでしょう。

自治寮ゼロからスタート

最初に言っておかなければならないのは、僕らが入った新しい寮は北海道大学男子学生寮と呼ばれていたことです。恵迪寮を名乗ることもできず、旧寮のように入寮選考権もなく、自治会の存在すら認められていませんでした。寮歌指導もうるさいから夜9時以降は禁止、赤ふんも外国人留学生の目に奇異に映るからやめる。それまでの伝統が全て否定された状態での入寮でした。それをどうにかこうにか、元の恵迪寮の看板を復活させ、自治寮の形を取り戻すまで6年ほどかかるのですが、私がいた時期とちようど重なるので、今日はその辺りを中心に話したいと思います。私は5人兄弟の長男で、父親が病気になるため、寮がある国立大学に入ろうと考えて、北大を志望しました。そして、懸命に受験勉強をしていた秋口に、「赤ふん、バンカラ気質の恵迪寮が消える」という新聞記事を読みました。

幸い昭和58年3月に現役で合格、合格通知と新寮のパンフレットを手に夜行列車、連絡船を乗り継ぎ北海道にきました。案内書には雪印型と書いてありましたが、どう見ても刑務所型と言った方がよく、「また、団地生活かよ」というのが最初の印象でした。大学側から個室の鍵をもらい、D棟4階「士幌小屋・チセフレップ」に入ります。そこはすでに個室を改良して、二段ベッドの寝部屋、みんながたむろする居部屋、そして勉強部屋といった具合に一定の共

同生活を行なっていました。

私は、生まれて初めて持った個室に満足していましたが、先輩たちから誘われて、学部も年齢も違う人たちとの共同生活も刺激がありそうだと思います。

今から考えると、恵迪寮に入る前と、恵迪寮に入った後で人生観がまったく違っています。ずっとあとに思いついた言い方ですが、私は大学で外国語を学ぶよりも、「恵迪寮語」をきちんと話せる人間になりたいと考えたのだと思います。

およそ清潔とは言いがたい暮らし方ですが、高校までの生活と違い、お互いが密接に関わりあうこの空間は面白いと感じるようになっていきます。

寮に入って最初の大きな事件は、5月の畳撤去事件でした。午前6時前だったと思いますが、「大学の事務員が廊下の畳を外に投げ捨てているから阻止しよう」と、早朝アピー



激動期の新寮時代を熱っぽく語る

ルが入りました。行ってみると、事務職員たちが、寮内での畳の使用は消防法違反で、撤去作業を妨害した場合は公務執行妨害だと脅すわけです。大学側が、どうしてここまで強制的で乱暴な方法を取るのかショックでした。

この事件をきっかけに寮内で学習会が活発に開かれるようになり、私も旧寮の第237期から仮執行委員会を経て発足した新寮の第1期（旧寮第238期）執行委員会に入ります。最初に取り組んだのは、自治会による水光熱費の一括支払いでした。大学側は、寮生の共同生活を認めていないため、電気料金等を個室ごとに請求してきました。しかし、我々は自治の精神から、寮全体の一括金額を頭割りにして支払おうとしたわけです。これは、お金のやり取りですから、大学側もしぶしぶ寮自治会から合計の金額を受け取ります。ただし、領収書は個人宛に発行するという手続きをとり続けます。

次に考えたのが、入寮選考を自分達で実施することでした。大学側の入寮選考は否定しないが、我々も自治の根幹である入寮選考を行なおうというわけです。

そして来春の入学者に向けて入寮案内のパンフレットを作り、3月4日の入学試験日に寮生はもちろん、教養部をはじめとする各学部の自治会やサークル連合も参加して、全受験者にパンフレットを配りました。

すると、大学側はよほど慌てて、全受験者に対して「寮自治会による入寮募集は違法であり、応募しないように」という文書を配布して対抗します。さらに、3月15日には突然、「入寮募集の一時停止」を決定し、執行委員長ら2人

に処分警告を出してきます。大学自らが、寮を必要としている新入生に門戸を閉ざすという態度に我々は大い驚き、また強い憤りを覚えました。

そして、もしここで寮自治会が募集を取りやめたら、寮に入れないために北大への進学を諦める新入生が出るかもしれない。それは許されないと考えて、自主入選の継続を決定します。すると、33名の入寮希望者が願書を送ってきました。その後の補充入寮を含めると、新寮生は50数名にものぼった。しかし彼らは、大学側からすれば、「不正入居者」という扱いになるわけです。

この年の6月、私は第3期執行委員長に当選します。最初に行なったのが、寮事務室の封鎖でした。寮に常駐している事務職員が寮内を勝手に巡視し、不正入居の寮生を捜し出そうとするのはけしからんと、事務室をバリケードでロックアウトするわけです。たまりかねた事務員は寮から退去しました。

ほんの1年前まで受験勉強をやっていた人間が、寮の自治を守るために事務室を占拠したり、目の前に無期停学がぶら下がったりしている状況を受け入れるわけです。これが恵迪寮の魔力というか、受け継がれてきた自治の伝統というものなのでしょう。寮史編纂委員会の先輩に聞くと、明治の頃からリベラルな学生たちは大学（文部省）の攻撃に抵抗し、自治を守るために闘ってきた歴史があるのとこのとでした。

北大当局や文部省がどうしてこうまで強行姿勢で臨んできたのかといえ、北大の先で東大の駒場寮と京大の吉田

寮という自治寮を解体したい。大学が管理する完全個室の学生寮を広めるモデルケースとしてオープンしたはずの北大で、失敗するわけにはいかないと考えたからでしょう。しかしながら、恵迪寮の場合は旧寮の寮生たちがそのまま新寮に移行したことで、自治の伝統と生活スタイルが見事に保たれたわけです。大学側にとっては、大変な誤算だったと思います。

その結果、開寮からわずか1年で、北大当局は自ら「入寮募集の一時停止」を決定せざるをえない事態に追い込まれてしまった。しかし、寮生と大学が対立したそもそもの原因は、大学が出してきた「完全個室」「食堂なし」「水光熱費の個人徴収」「入寮選考権を認めない」という4条件にあります。寮を福利厚生施設としか考えず、教育的施設とは位置づけられない大学側の根本的な間違いを正すための交渉を我々は求めましたが、ことごとく門前払いをされます。

私が執行委員長として在任していた期間には、他にも大変な事件が起きました。9月に、当時の中曽根康弘首相が北大を訪問します。現職総理大臣としては戦後初めて国立大学訪問で、それも低温研究所にピンポイントで来るという。日本列島浮沈空母論などを唱える首相が、極地専用兵器の素材研究を見学するという噂もあり、学生たちは反対運動を起しました。恵迪寮は募集停止状態にありましたから、いたずらにトラブルに巻き込まれないよう寮生に注意しましたが、中曽根首相の到着時に発生したトラブルで、寮生一人を含む4人の学生が機動隊に逮捕されてしまいます。

そうした中、新寮の開寮から1年半後の昭和59年11月、ようやく学生部長交渉が始まります。春まで時間もないことから、月に3回も話し合ったのですが、大学側はいつさい譲歩の姿勢をみせず、ラチが開かないまま私の任期が終わります。

これから先に起きた出来事は、先ほど紹介された「静かな夜」に収録されている「二月」という短編に書きました。私は入学以来3期連続で執行委員等をつとめたため、さすがにへばっていました。その時に、私の同期で函館出身のI君が次の執行委員長に手を挙げます。私と違って真面目で信望があるI君は、9割の得票を集めて当選しますが、大学側は不法占拠状態の寮に業を煮やして恵迪寮の閉鎖を打ち出していきます。

混迷の自治闘争で犠牲者も

私としては、大学側が非公式にでも「不正入居者」の入居を認めるなら、妥協点を探り閉寮だけは避けたいと考えていました。しかし、強行方針を訴える寮生もいて寮内の意見がなかなかまとまりません。そうこうするうちに1月19日、I君が寮内で縊死します。

大変な衝撃で、大学の心ある教授たちもショックを受けました。ここはいったん後退するしかないということになり、開寮時の状態に寮内を戻して、4月の入寮募集は通常通り実施されました。

その後も一進一退はあるのですが、しだいに大学側も諦めたのか、寮名を恵迪寮とすることや、水光熱費を一括払

い、それに部屋替えなどを黙認するようになり、私が6年目の春に卒業する頃には、現寮に近い状態になってゆきました。

それにしても、なぜ大学が、文部省の意向もあつたにせよ、恵迪寮に対してここまで厳しく仕打ちしてきたのか。我々にも見通しの甘さがあつたかも知れませんが、どうして不幸な犠牲者を出さなければならなかったのか。その理由が未だに分かりません。

現在の寮にも恵迪寮の名前が付けられて、札幌農学校の寄宿舎に由来する自治の伝統が受け継がれるまでには、これだけの出来事がありました。恵迪寮史にはきちんと言語として記されていますが、いつかはこうして自分の言葉で話したいと思ってきました。

執行委員長の任期を終えてからしばらくして、京大・吉田寮から自治寮闘争の話を書きたくて招待されました。先方の寮に着いて感じたのは、吉田寮で交わされる言葉が、我々のように独自の「恵迪語」になっていないことです。吉田寮が京大周辺にある京都文化圏に入り、文化人の言葉がそのまま寮内で話されているような感じでした。

これに対し、我々の寮は純情というか、海を越えて北の地に慣れ、恵迪寮と共に暮らすという強烈な思いの中から生まれた文化が存在していると思えました。この後、東大・駒場寮にも寄り、寮生と話しましたが、ここはすでに在寮生の数がわずかで、事実上崩壊状態でした。

恵迪寮という存在は、クラーク博士よりもさらに遡り、榎本武揚の蝦夷共和国の系譜にまで繋がると思うのです。

が、薩長による明治政府の近代化路線とは違うルートで、リベリズムや民主主義を根付かせようという発想が札幌農学校の底流には流れていると思います。

恵迪寮の自治活動は、寮生同士がどう暮らしていくのかを第一に考えている。恵迪寮自体が価値なのであって、なにかのイデオロギーを証明するために恵迪寮があるのではない。

そうした、極めて恵まれた環境の中でのことを考えることができたのは、実に幸せだったと、私は思っています。



恵迪精神と寮歌について持論を展開する佐川君

恵迪寮でのエスキスを小説に

私は、北大生であり、恵迪寮生であるというエスキスを思い切り吸わせてもらったわけですが、その後が大いに弱りました。卒業したあとに、どうやって世の中に出ていき、何をしようかがわからない。必死になって考えているうちに、気がつくとも大宮で牛の皮をむいていました。そして、また気がつくとも、今度は小説を書いていたわけです。

私の作品のほとんどは、恵迪寮は何だったのかということとを考えながら書いてきたものです。新潮新人賞をもらったデビュー作『生活の設計』はもちろん、一昨年坪田譲治賞をいただいた『おれのおばさん』もそうです。14歳のエリート中学生が、銀行員の父が横領で捕まったため、おばの経営する札幌の中学生専門の養護施設「鮎鯉舎ほういしや」に引き取られる。年齢の近いもの同士が共同生活の中で切磋琢磨していく。本当は恵迪寮を舞台にしたかったのですが、共同生活の魅力や楽しさは正さに恵迪寮を意識して書きました。

『おれのおばさん』はたくさんの読者に迎えられて、亡くなった児玉清さんにも誉められました。純文学の小説というと、世の中に受け入れられず、何かにつけてひがんだ態度をとるような人間を書くことが多いようです。しかし、私にはそれが出来なかった。何とか苦境を耐えて強くなっていこうと努力をしながら、みんなと交わっていく若者の姿を描きたいと思っていました。

私も入寮した時はそうでしたが、どうしたって最初は個室がいいと思うものです。しかし、いったん複数部屋の魅

力を知り、そこで揉まれていくことの大切さが分かったとき、その経験がかけがえのない一生を律する原理に変わっていく。『おれのおばさん』では、主人公の陽介をはじめとする中学生たちが、我々にとつての恵迪寮であるところの鮎鯉舎で、そうした経験を積んでいきます。

そんな物語がたくさんの読者に受け入れられ、共感を得ていくさまに、生意気な言い方ですが、世の中まだまだ捨てたものじゃないと感心しました。

最後になりますが、かつて17、18歳で海を越えて清き国に渡ってきた内村鑑三、や新渡戸稲造らは札幌農学校のエスキスを身に付け、広い社会に出て行き、出会った人それぞれの精神を伝え、おびただしい人達を感化してきました。我々も恵迪寮に入り、自治を担うことは大変苦しいことでしたが、そこで身に付けた人と人との接し方、自然でおおらかな感覚。例えば、声がでかいとか、大声で笑うとか、堂々と肩開いて歩くとか。そんな姿勢は変えようもないことですが、尊く大事なことと思います。たとえアナクロと言われようが、そこでつかんだ感覚は、今日、ここに集まっている皆さんと共感し合える事実です。

そうした感覚を携えながら、札幌でも東京でも、アメリカでもいいのですがこれからも、元寮生としてではなく、現役の恵迪寮生として、至る所で「都ぞ弥生」をはじめ「一帯ゆるぎ」や「タンネの水柱」「永遠の幸」などの寮歌、校歌を胸張って歌える気概を持ち続け、これから先の人生を歩んでいこうではありませんか。僕も小説を書いていこうと考えています。ご静聴有り難う御座いました。

「都ぞ弥生」大寮歌祭で乾杯三唱

恵迪寮同窓会名誉会長 中瀬篤信
(S26年入寮)

戦時中に少年時代を過ごした私は、予科練の歌など軍歌ばかりを歌って育ちました。それが戦後の昭和26年、北大というより恵迪寮に入学し、その洗礼を受け、先輩から「都ぞ弥生」など数々の寮歌を教わりました。「都ぞ弥生の雲紫に、花の香漂う宴の筵」と聴いた時、詩というものは、歌というものは、こんなに色彩豊かな香ばしいものかと、完全にカルチャーショックに打ちのめされました。

この寮歌の特徴は、1番から5番まで彩りの豊かさで、四季の花々が息づき、自然の尊厳さに畏敬の念を抱いて真摯に生きる若者たちへの応援歌でもあります。単に恵迪寮生のみならず日本中の若者の心を揺さぶり、その詩情を育てたのは当然のことと思います。

本日の「都ぞ弥生」百年祭に当たり、歌の都・札幌は、ツツジ、シャクナゲ、スズランが満開の花の都でもありません。ライラックの香りが満ち溢れるこの札幌に、「都ぞ弥生」の作詞者、横山芳介氏のご親族の方々、名寮歌を作詞作曲された大先輩の宍戸昌夫先生、「時潮の波の」作曲者・寺井幸夫ご夫妻ら、日本全国から多くの仲間たちが集い、大寮歌祭を開催できることは望外の喜びであります。

さらに、佐伯浩北大総長、北大連合同窓会の齋藤副会長らご招待者をはじめ、北海道はもちろん、東日本、西日本

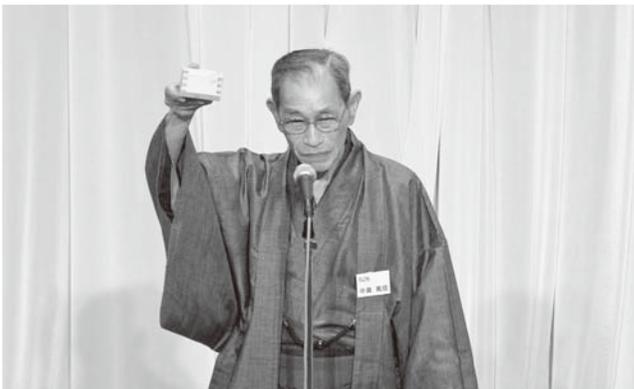
の各支部、遠くは九州・沖縄、さらにノールウェイのオスロからも北極圏研究の太田昌秀君ご夫妻、そして80歳を過ぎた高齢の仲間たちや現役の若き恵迪寮寮生諸君に心からの歓迎の意を表したいと存じます。

また、数年前に他界された幸健一郎前北海道支部長の奥様、この百年祭を企画されながらこの日を見ずに亡くなられた厚谷純吉前副会長の奥様、ご参会下さり有り難うございます。共に亡き人を、亡き友を偲びたいものであります。今夜はあまりの嬉しさに「万歳三唱」の代わりに「乾杯三唱」の音頭を取らせていただきます。

一番目は「恵迪寮を育んだ歌と花の都、札幌に乾杯！」。二番目はここに
お集まりの同窓諸君と参加下さった皆様のご健康を祈念して「恵迪寮同窓会に乾杯！」。三番目は本日の「都ぞ弥生」百年祭に乾杯！」であります。
それではご唱和下さい。

(乾杯三唱)

有り難うございました。



乾杯三唱する中瀬名誉会長

恵迪寮入寮半世紀記念 祝賀会

「昭和37・38年入寮同期会」

諏訪 正明

(S 37年入寮)

「都ぞ弥生」誕生百年の記念すべき年に、恵迪入寮半世紀を迎えるも天の計らい、これを寿がずして如何にせん。さればと、昭和37・38年入寮の有志相計り、「都ぞ弥生100年記念祭」の前夜祭との位置づけにて同期会開催を企画した。6月8日、北海道大学構内のフアカルティハウス「エンレイソウ」内にあるレストラン「エルム」に参集したのは、昭和36年組1名、昭和37年組36名(同伴夫人2名を含む)、昭和38年組23名の計60名であった。

開宴に先立ちその逝去を知り得た仲間41名(37年組23名、38年組18名)に黙祷を捧げた。

続いて「都ぞ弥生」、福田紀之君(37年)の音頭で1、2番を高唱した。かつての青年の胸中に去来するは何ぞ、さやかに光れる星影に己の馬車を繋がんと苦闘した青春の日々か。寮友と歌うからこそその「都ぞ弥生」に半世紀の時の流れも瞬時に遡り、今は皆まなざし清き若武者寮生、まこと、この北の国幸多し。

宴の開始は往時の寮長、新蔵利熙君(37年)が「吾に友あり吾強し」の思いを述べて乾杯の音頭をとった。あの木造二階建ての四棟の寮舎のたたずまいが、寮祭打ち上げのファイアーストームの高々と上がる炎が甦る。

しばし歓談の後、諸富隆先輩(36年)、平良健康君(37年)、土屋進君(38年)よりスピーチがあった。寮での日々はそれぞれ疾風怒濤、まさに「多感の児等の情懐熱く 懐古の涙溢るべし」(昭和14年「時潮の流転」)。

あまり酔わないうちにということで、恵迪寮同窓会北海道支部長の氏平増之君(38年)から、翌日の「都ぞ弥生百年記念祭」の案内があった。「恵迪」三昧の至福の時が今日も明日もと続くのだ。

懐旧歓談、あれこれ寮歌を歌う内、お互いの顔のしわが取れ、髪が黒々と蘇り、記憶が戻りつながら不思議、恵迪寮は確かに「人の世の旅にして 結ばれし二年の宿なれや」(昭和35年「茫洋の海」)。

「津軽の滄海の渦潮わけて 雄大き想いを北斗に馳する」
「魔人の呪アルペンの 白雪永久に清からず」などなど次々歌うに、金武彦君(37年)のリードにより今は亡き友を偲んで「みんなみんな 今はない ああ なつかしい 古い顔」と歌えば、「歌声喫茶」の青春までもが甦るのであった。のどに自信が戻り、「都ぞ弥生」は矢張り5番迄歌わなければとの声高まれば、伊藤靖久君(38年)の音頭で「栄え行く 我らが寮を誇らずや」と歌いきった。古稀前後の往年の若者が歌い継がれて百年の「都ぞ弥生」を自分たちの歌として歌うことの幸せ、有り難さ、恵迪よありがとう、友どちよありがとう、心のかたみとわに謳わん。

記念の宴も終わりに近づいた。今日の笑顔を写真に残そう。一期一会、次にまた揃うとは限らない。ここに掲載し、後日の証拠とせん。

締め乾杯は木村壬一君（38年）の音頭。さあ、今回は何周年祝賀になるか、友よ、古い先延ばし、再びを期すべし。

楽しき時は疾く過ぎ行く。氏平増之君（38年）の音頭による「別離の歌」。二十歳前後の若者が、送り、送られ、尽きぬ名残の涙で歌った「光る瞳は幸福星か 強く正しく友よ生きなむ」、半世紀の後の今にもじむ涙に、かの寮が思い浮かぶ。

醒めよ迷いの夢さめよ——屋外へ出でのストーム、足腰に自信ある者も
 気遣う者も、「札幌農学校は蝦夷ケ島、コチャエコチャエ」。かくして前夜祭は終わった。明日は盛りだくさんの本祭だ。深酒することなく素直に帰るべし。
 この恵迪寮入寮半世紀記念祝賀会の世話人は次の通り。



夫人同伴も目立った37年入寮組

昭和37年入寮 石川 尚 大木捷利 下野勝昭
 新蔵利熙 諏訪正明 根岸正充
 福田紀之 向山征哉 六宗一征
 氏平増之 沖田紘昭 片桐政司
 佐藤市雄 司馬武彦 藤田正一
 宮田睦彦 安彦和之

出席者全員の名前を挙げ得なかったこと、寛恕ありたし。なお、この同期会の企画をよしとして、36年入寮の玉井勇先輩から金一封が届けられた。ジンギスカンの「義経」さんからもカンを頂戴した。さらに、恵迪寮同窓会からは清酒「都ぞ弥生」の差し入れがあった。ここに記して深甚なる感謝の意を表する次第である。

（昭和37・38年入寮同期会代表幹事）



寮歌を歌いながらハイポーズの38年入寮組

「モツラの母さん」の 卒寿をお祝いして「39・40会」

魚山 和春

(S 39年入寮)

昭和39年、40年入寮生の集まりである「39・40会」（芝垣美男会長）は、当時の寮生から親しみをもって「モツラの母さん」と呼ばれ、多くの寮生が楽しみに通ったラーメン店「亭北軒」の鈴木トクさんの卒寿のお祝いを兼ね、「都ぞ弥生」百年記念祭の大寮歌祭に招待しました。

一連の百年記念行事が感激、感動のうちに進行し、最後の大寮歌祭も大盛会で終宴を迎えるころ「モツラの母さん」が娘さんに付添われて車いすで登壇。芝垣会長がトクさんを紹介し、「一度でもモツラに通った経験者は壇上へ」と呼びかけたところ、当日参加した30数名の39・40会メンバーに加え、モツラの母さんを知る昭和30年代から50年代前半の入寮者も次々にステージに上がりました。

会からお祝いの花束を贈呈した後、彼女を囲んで全員で寮歌「一帯ゆるぎ」を高唱して卒寿を祝福しました。「今日こうして元気でいられるのも、皆さんのお陰です…」と感極まって言葉を詰まらせるモツラの母さん。どうかこれからも健康に充分留意されお元気で過ごして下さい。39・40会一同、再会を楽しみにしています。



同窓生からの花束贈呈に感涙の鈴木トクさん

朋有り遠方より来たる 「44年逍遙の会」

岩 本 栄 一

(S44年入寮)

「オレもカミさん連れて行くよ」。恵迪寮で共に過ごした後も文字通り家族ぐるみで付き合ってきた仲間は何でもノリがいい。「テイネサミット」と銘打ち、「都ぞ弥生」百年祭の前夜に北大山スキー部が管理する山小屋「手稲パラダイスヒュッテ」に集結する計画を立て呼び掛けた。間もなく仲間のほぼ全員から参加するとメールしてきた。そして当日、ファーストレディ5人を含む総計15人が国内外(東京、埼玉、群馬、岡山、フランス)から集まった。フェースブックでこれを知った寮外生も40年ぶりに顔を出した。幸い天候も味方し、ヒュッテ横のサイトでジンギスカンを賞味しつつ、夜更けまで飲み、語り、謳った。

思えば、入寮当時大学内外に吹荒れていた紛争の嵐の最中、われわれ昭和44年入寮組を中心とした自称ロマン系硬派ノンポリ集団「逍遙の会」は生まれた。内地出身で酒と寮歌が好きという共通項を持つ我々はすぐに意気投合した。友情と言えばこそばゆいが、青春の只中、カネもプライバシーも無い恵迪特有の共同生活の中でお互いがぶつかり、助け合い、影響し合ったことが今日まで続いた関係の原点だと思ふ。そして今、我々も全員が還暦を通過したが、孫を巻き込んでストームをするヘンな爺さんの集団であり

続けることは間違いないようだ。

翌日の京王プラザ会場でさらに1名が駆けつけた。前夜の「サミット」に続き諸先輩に混じって高歌放吟し、思い出深い2日間であった。ともあれ、「魂の故郷」札幌の地でたつぷりと懐かしさに浸り、青春の息吹と気概を取り戻せたことは各々の人生においてもエポックであったと思う。あらためて、名歌「都ぞ弥生」と、恵迪寮同窓会・百年祭実行委員会に心から感謝申し上げる次第である。



卒寮以来、40年ぶりの懐しい顔も

静岡・長源院墓前祭と寮歌祭

朝倉 仁 樹

(S52年入寮)

「横山芳介君作歌、赤木頭次君作曲」——北大入学以来、何百回と耳にし、何百回と口にしたこの名前。大声でフルネームを叫んだ回数なら、間違いなく自分の子どもよりも多い。その横山芳介の墓前祭が5月19日、「都ぞ弥生」生誕百年を記念して、菩提寺の静岡市・長源院で行われた。

JR静岡駅から北東に30分ほど歩いたところにある長源院の本堂の前に、「都ぞ弥生」の歌碑が立っている。横山芳介本人の遺稿ノートから写した1番の歌詞を彫ったものだ。昭和33年、静岡の同窓生らにより建立され、平成11年には台座が作られ、同時に日陰の場所から境内で最も目立つところに移されたそうだ。

「都ぞ弥生」百年を祝うかのようにカラリと晴れ上がった午後1時、長源寺の境内に関東や静岡を中心に、岩手県や札幌からも駆けつけた同窓生、それに旧制静岡高校のOBら計70人が集まった。芳介の遺族にも参加をお願いした。芳介の長男・横山芳男氏は今年2月に亡くなられたが、夫人の久子さん、さらに芳介の四女・中村安子さん、五女・横山朝子さん、孫の横山康恵さん、三女・純子さんの夫・川内脩司氏、川内氏の息女・瀬戸真純さんとその夫・信義さんに、この墓前祭に参列していただいた。

歌碑の脇に芳介の学生時代の写真を遺族が用意し、それに向かって焼香、そして「都ぞ弥生」の献歌。しばし明治45年に思いを馳せ、先人の足跡を偲んだ。

川内氏は「日本三大寮歌のひとつとして『都ぞ弥生』が人々に愛されているのは、本当にうれしく思います。特にこの歌は、厳しくも豊かな自然を賛美しているのが他校の寮歌と比べても際立っており、素晴らしいところです。次の一世紀、さらに未永く『都ぞ弥生』が歌い継がれていくことを願っています」と挨拶され、遺族がこの歌に深い愛着と誇りを抱いていることを強く滲ませた。

読経に続いて、墓地に回って横山家の墓の前で、一人ずつ手を合わせる。平べつたい、モダンな墓石だ。最後に、万感の思いを込め、「都ぞ弥生」を1番から5番まで歌い上



墓前祭に参列した横山家の遺族



静岡寮歌祭 北大以外の予科からも友情参加

各支部の記念イベント

げ、墓前祭を締めくくった。

合間に、赤木顕次の関係者として参加された、顕次の妹の夫の兄の娘のさらに娘である堀井嘉子さんから、堀井家に伝わる顕次の妹の写真を見せていただいた。顕次の妹は、たぐいまれといって過言でないほどの美人だ。先に述べた横山康恵さん、瀬戸真純さんも若くて清楚できれいな方で、ここに集まった平均年齢約70歳の男性集団の中であって、原始林に咲く延齡草のように輝いていた。

静岡駅前のカールポール会館に場所を移して、引き続き2時間半にわたって「百年記念寮歌祭」が行われた。この席で、横山芳介が静岡県の小作官として農民の生活向上に尽力し貧農の人に神様と慕われたこと、孤児を引き取って育てたことなどが紹介された。その孤児・河田悠紀恵が長源院の歌碑の建立を働きかけたという。「貴き野心」を改めて思う。

寮歌祭では、中国語版「都ぞ弥生」の披露を含め、おなじみの寮歌が次々に歌われた。蛮声といえばきこえはいいが、少々調子はずれて酒の入った赤い顔をして法被や鉢巻姿で大声をあげている。寮歌を知らない人にとっては何とも奇妙な光景だろうが、それだけに我々には濃密な時間である。杖をついて参加した人も、最後のストームになればちゃんと足を上げて「札幌農学校はくく」とやるのだから不思議なものだ。

百年を迎えた「都ぞ弥生」。古典となつて、いつまでも歌い続けられることを祈つてやまない。

(東日本支部広報幹事)



墓前祭終了後、歌碑の前で記念撮影

百年記念祭・西日本支部前夜祭

清酒「都ぞ弥生」と 豚の丸焼きで大盛会

植松高志

(S44年入寮)

西日本支部の親睦・団結と、「都ぞ弥生」百年記念祭の前夜祭を兼ねて5月27日、誕生100年を祝う記念祭が行われました。

関西北大会館で正午から午後3時過ぎまで開かれた前夜祭には、近畿一帯から総勢32名が結集。冒頭、伊藤靖久支部長が「学士会報」7大学をめぐる歌「下道郁子氏著」を引用し、寮歌「都ぞ弥生」の素晴らしさを紹介。乾杯の後、支部寮歌祭の名物料理となった「豚の丸焼き」を囲んで大いに飲み、食い、歌い、懐かしき寮を語り合いました。本部から頂いた清酒「都ぞ弥生」2ダースを皆で回し飲みすると一気に場が盛り上がりました。北大時代の青春を語る参加者全員のスピーチはそれぞれに味があり、お互いの一体感を高めるのに充分でした。

校歌「永遠の幸」を皮切りに、明治40年の「一帯ゆるぎ」から21曲、声を限りに歌いました。締めくくりは恒例の肩を組み「都ぞ弥生」を5番まで大合唱。参加者一同お互いの健闘を讃え合い、記憶に残る良き記念祭となりました。

(西日本支部幹事長)



恒例の豚の丸焼きで盛り上がった西日本支部前夜祭

「都ぞ弥生」百年記念コンサートを終えて

新井 三郎

(S 32年入寮)

「都ぞ弥生」百年記念事業の目玉の一つとして普及版のCDを作り平成23、24年の北大新入生全員に贈呈した。クラーク会館で斉唱録音、編集など制作を担当した川原君（31年入寮）から紹介されたのがピアノストの一宮明代さんだった。彼女は北大構内の散策やクラーク会館で伴奏した後、「北大はすばらしい。このホールで演奏が出来たら」とふともらした。それから1年半後、「都ぞ弥生」百年記念事業のメイン企画として、一宮さんとヴァイオリニスト・植村理葉さんのジョイントコンサートが実現した。まさに音楽と「都ぞ弥生」を愛する人々の縁や絆がもたらしたビッグイベントである。

実行委員会でコンサート案が決定すると、私は委員会の責任者になり、

ディレクター紛いの仕事をする事になった。今までの演奏会は聴く側だったが、今度は聴かせる側で全く未経験の分野だ。会場は50年前の建物で、設備、照明等も新しいホールと比べ決して良い環境とはいえない。その中で我々に出来ることは演奏者に如何に気持ち良く演奏してもらおうことだ。その一つが演奏中の出入り厳禁である。演奏者の希望で曲目が変更され、一曲目は演奏時間37分のヴァイオリン・ソナタ「クロイツェル」から始まったため、遅れて来た人をかなり待たせることになった。このため、年配者の一部からブーイングもあったようだが、演奏者の情熱、極度に集中する姿を舞台の袖で見ていると、良い演奏をしてみようためには仕方がないと思つた。

「都ぞ弥生幻想曲」が終わると、ほぼ満席の会場からブラボーの声が聞こえ、コンサートは好評だったと安堵した。花束贈呈に学生服姿の現役寮生を使えとは横山会長のアイディアだったが、会場から笑いが漏れて、コンサートに花を添える格好になった。コンサート委員の諸君、特に金武彦君（37年入寮）には多くの助言をもらい感謝している。

(百年記念実行委員会副委員長)



公演後花束を贈られる植村さんと一宮さん

新しい世紀へ向け健やかに育て

旧寮舎の周りに植樹

木村 正博

(S41年入寮)

「開拓の村」を吹き抜ける爽やかな春風と抜けるような青空の下、「都ぞ弥生」百年記念事業の幕開けを祝して5月13日、同窓生やご遺族らが出席して記念植樹と旧寮舎の名札揭示が行われました。

はじめに寮舎玄関広場で谷口哲也君の発声で「都ぞ弥生」の1番から5番まで献歌。

この後、寮舎の前庭や中庭で記念植樹。昨年亡くなられた横山芳介氏三女・純子さんの夫・川内脩司氏寄贈のチシマザクラ1株のほか、カツラ、ハルニレ、エゾヤマザクラなどいづれも「都ぞ弥生」の歌詞にゆかりの樹木、苗木合わせて6株を、参加者全員が次々にスコップで客土していきます。

ちょうど5年前の恵迪百年記念で植樹したエゾヤマザクラが満開で、

恵迪花壇のクロユリ、エンレイソウなどとともに「花の香漂う宴の筵」といった風情でした。

名札掛けは、全国の同窓生からの寄付金をもとに名札を制作。前年までに掲示された名札とともに、この

「都ぞ弥生」百年の思い

年年歳歳花相似たり
年年歳歳恵迪同じたり

開寮以来の恵迪精神は風雪に耐え脈々と継承されている――。

これは、恵迪寮生でもなかった私が「都ぞ弥生」百年記念行事を手伝わせてもらった時の実感です。

以下は、入学してから応援団で「都

日参加した同窓生らが自分の名札を自分の手で掲げ、誇らしげに記念写真に収まっています。

寮舎の名札揭示板のスペースは約400名ですが、この日ではほぼ埋め尽くされました。

参加者は思い思いに寮舎内外を散策した後、開拓の村レストランで昼食をとり、来る6月9日の記念祭成功を誓い合いました。

(記念植樹委員長)

大谷 文昭

(S43年入学)

「都ぞ弥生」に象徴される寮歌の真髓を教えられ、恵迪寮同窓会の仲間として今日に至った経緯です。

高校時代から兄の影響で寮歌に憧れ、昭和43年春、信州上田から「都ぞ弥生」の北大に入学。恵迪寮に入るべく揚々と門を叩くと、「今頃来ても遅い。もう入寮選考は終了した」

と門前払い。しかたなく、同郷の先輩の世話で下宿に落ち着き、第60代応援団に入団しました。長髪に髭面、一年中汚れた羽織、袴姿の先輩たちは、その容姿からは想像出来ないほど純情で優しく、すっかり魅了されました。

以来、大学に行けども教室には行かず、もっぱら恵迪寮や体育館横の部室に入り浸り。恵迪精神を少しでも体得しようと、寮歌を一生懸命に覚え、寮の壁に幕末の三傑（州）を



「都ぞ弥生」大合唱で応援団OBの本領を発揮する大谷君

もじって、「大谷星州」と落書きしたこともありました。

社会に出てからは、多忙な仕事にかまけて、応援団（OB）の行事に足が遠のいていました。齢五十五を過ぎた頃、多少時間に余裕が出来たので、現役時代にお世話になった先輩に相談したところ、「都ぞ弥生」百年記念事業を手伝ってくれと、嬉しい返事をもらいました。恵迪寮同窓会にも快く入会させてもらい、北海道開拓の村の旧恵迪寮舎玄関にある寮生名札掲示板にも掛けさせていただけました。

百年祭は未だ続く

平成21年夏、会社を退職後、北海道支部・八重樫幸一幹事長から恵迪寮同窓会の幹事にと誘われた。恵迪寮には恩義と愛着はあるものの、寮歌を熱心に歌うほどではなかった。だが、退職後のこれといった目標も

昨年2月の新入生にプレゼントする「都ぞ弥生」CDの吹き込みから、記念祭の企画、準備まで充実した毎日でした。本番でも、総合博物館の「都ぞ弥生」百年展で保安員兼説明員をはじめ、外国版大合唱、大寮歌祭などに参加させてもらいました。

それにしても、あのような大記念事業を手弁当で完璧に成し遂げた恵迪寮（同窓会・現寮生も含め）の力は、驚異的で感激、感動しました。

「都ぞ弥生」百年記念祭に関わったすべての人に心から感謝します。

（大合唱副委員長）

佐藤 市雄

（S 38年入寮）

なく「自分ができることがあるなら」と引き受けた。

安易な気持で飛び込んだ同窓会活動だが、百年記念祭の企画が本格化してくると、いきなり白浜憲一実行委員長から映像委員長に指名され

た。果たして何をしたらよいのか逡巡していると、間もなくテレビドラマ制作の話が持ち上がった。これは自分の範疇外のもので、いささかわたてて辞任も考えたが、幸い周りには素晴らしい才能の持ち主が多く、この人達と一緒にやれば、きっと良いものが出来そうな気がしてきた。

映像委員会の主題は、今や来春HBCで放映予定のテレビドラマ「清き国ぞとあこがれぬ」となった。記念祭終了後「清き国ぞとあこがれぬ委員会」（白浜憲一委員長）が立ち上がり、これからはオール北大でスポンサー探しや協賛金集め、完成したDVDの普及・販売など大仕事待ち構えている。

今回の記念祭では、素人で出来映えに自信はなかったが、記念式典や講演会の幕間に流れる映像を制作した。これからは、記念祭の記録映像の整理も残っている。

ドラマ制作を成功させるために、これから様々な問題をクリアしていかなければならないが、「都ぞ弥生」百年祭を成功させた恵迪寮同窓会の無限

のパワーを信じて、前へ進んで行く。皆さんも6・9記念祭で満足せずに、恵迪精神を未来に繋ぐドラマとして映像制作にも目を向けて協力

百年後の推理

百年記念実行委員として、大寮歌祭の番組編成の職分にあずかった。

その中で大正3年寮歌「我が運命こそ」を選抜した。理由は、樋口桜五さんの作歌だったからだ。

昭和40年日本寮歌祭に1年生の時、参加した折、樋口さんにお会いした。もちろん、作曲が赤木顕次さんと言うのも理由だった。これから制作する、ドキュメンタリードラマのシナリオ「清き国ぞとあこがれぬ」に登場する、「樋口」は桜五さんのことだろう。

さて、選抜したが、皆が歌えるか？ 先ず、私自身がと楽譜を追ってみた。「我が運命こそ」のフレーズが、校歌

をお願いしたい。百年祭のゴールはまだ先にある。
（百年記念映像委員長）

千川浩治

（S40年入寮）



大合唱で楳文を披露する千川君

「永久の幸」のメロディが一寸違わぬ事を発見した。あの赤木さんが？と思った。

山口哲夫編「都ぞ弥生」の「我が運命こそ」の項を読みなおしてみると、樋口さんは有島武郎さんを尋ねて添削を願った、とある。赤木さん

モツラの母さんと医療班

百年記念祭では受付係と、超高齢者の参加に備えて救急医療係を仰せつかった。このほか、大寮歌祭に合わせ昭和39年と40年に在寮した「39・40の会」の有志が中心に開いた「モツラの母さん」こと鈴木トクさん（90）の卒寿を祝う会の幹事でもあった。

当日の受付はてんでこ舞いの忙しさで、気になるモツラの母さんが何時来場したのかも分からなかった。会場も足の踏み場ないほど大盛況で、39・40会の仲間から募金しトク

の作曲に関する記載はない。

以上のことから、赤木さんは、あえて「永遠の幸」のメロディから曲を作り始めたのかも知れない。当時からほぼ百年後の推理である。

（大合唱委員長）

内藤 春彦

（S40年入寮）

さんに贈る花束やエスコート代の微取もままならない。テーブルに割り込んで会食、懇談する余裕もなく、車いすの鈴木トクさんが「39・40会」会長の芝垣美男君にエスコートされて来場していることだけを確認して、ひとまず別室で待機。

すると、昭和40年から50年代の栄養士さんだった川越幸江さんが、「気分が悪い」と入ってこられた。何十年ぶりの再会だが、ゆっくり懐古話をする時間もなく、ベッド代わりに並べた椅子に休んでもらった。幸い、

しばらくすると症状は落ち着き、川越さんは「せっかく楽しい場でこんなことになり済みません。皆さまによりしく」と言い残してタクシーで帰られた。

気が付くとすでに会は終りに近づいていた。最後に、嬉し涙と笑顔でくしゃくしゃのモツラの母さんにも会い、フィナーレの「都ぞ弥生」「ストームの歌」は仲間と共に思いきり歌うことができた。

会の終了直後、もう一人、60代の参加者が、目の前で転倒し、頭部打撲された。ヒヤッとしたが抱え起すと、ゆっくり歩かれ意識もすっかりとしており、ホッとした。年配者には何らかの持病があるわけで、今回のように混み合う長時間の立食形式は少しきつかったのではないだろうか。

（広報・宣伝副委員長）

寮で培ったチームワークと

「本番力」

「都ぞ弥生」100年記念式典で、司会を務めさせていただきました。お話しです。

この日に向けて、一年以上前から何度も打ち合わせを重ねて来られた実行委員会の皆様には、心から敬意を表します。というのも、私自身実行委の一員でしたが、会社の仕事と夜間の専門学校通学に追われ、事前の準備作業にほとんど携われませんでした。今回の司会のシナリオも、フレンド会員の奥田晋一さんに作成していただいたもので、当日はほぼぶっつけ本番に近い状態で臨みました。しかし、皆様のご協力と、恵迪寮で培った「本番力」で何とか無事に式典を最後まで進行することができました。

それにしても、舞台から見た参加者の方々の、それぞれに想いのこ

湖上玲子

(H8年入寮)

もった表情は壮観でした。あの式典の時間は、単なる儀式としてはなく、参加者それぞれの人生において、一瞬一瞬が何か特別な時間として流

百年記念祭に参加して

「都ぞ弥生」百年おめでとう。白浜憲一実行委員長を始めとする関係の皆様が、遠大な計画を周到な準備で見事に実践し百年記念祭は大成功であったと思う。東日本支部からは山中支部長以下役員9人が参加した。私は記念実行委員に名を連ねていたが、8回を重ねた実行委員会には1回も出席せず、忸怩たる思いを抱きながらせめて当日だけは役割を

れているのだな、という想いが致しました。また、以前から道新のコラムでファンだった佐川光晴さんと直接お話することもでき、当日のお手伝いだけでおいしいところを頂いてしまったようで、申しわけなく思います。繰り返しになりますが、実行委員会、事務局の皆様、本当にありがとうございます。

(記念式典司会・進行委員)

坂倉雅夫

(S44年入寮)

精一杯こなそうと札幌にやって来た。

当日9時30分からの最終打合せ、結団式を終え、いよいよ午後からの記念祭が始まった。一連の行事は大学当局、連合同窓会の強力な支援のもと、まさに全北大人を挙げて取り組んでいると感じた。大合唱の少し前からポツポツと小雨が降り始めたが、参集した人々の熱き心が吹き

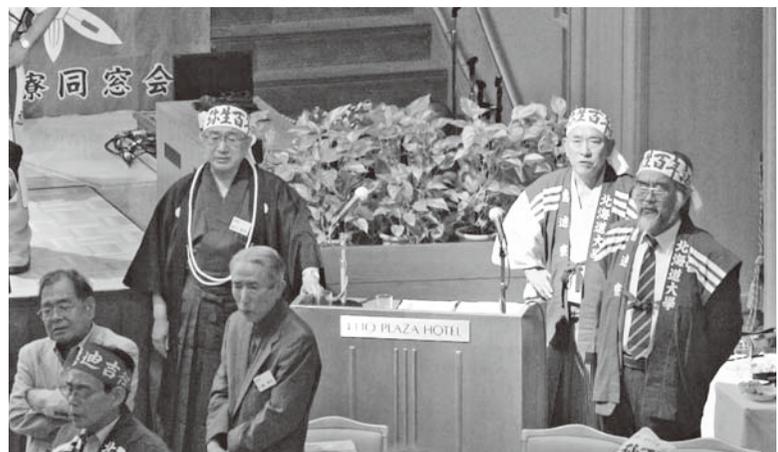
飛ばしたのだろう、時間になるとピタリと止み、大きな歌声が広い中央ローンに響き渡った。会場を移した最終行事の大寮歌祭は、最年長90歳の宍戸大先輩がお元気な姿を見せ、小樽商大の参加やかつて多くの寮生が関わった「モツラ」のおぼさん招待の好企画もあって大いに盛り上がり成功裡に閉会となった。

百年記念祭に参加して思い浮かべたのは「廻り合わせ」という言葉である。横山芳介、赤木顕次という二人の奇才が明治末期の同時代に廻り合い、稀代の名歌は生まれるべくして生まれた。私はその名歌に出会い、百年という節目にうまく居合わせたのはなんと幸せな巡り合わせであろうか。

(東日本支部幹事長)



大寮歌祭の受付で慌しく動き回るスタッフ



大寮歌祭を盛り上げた司会団

「都ぞ弥生」の思い出

河合 惣吾
(S10年入寮)

私が中学の5年になり、さて次はどここの高校へ行こうかと考えておったところ、父がどこからか聞いてきたのか、「お前、札幌にある北大予科を受験してみたらどうか」と言いました。

早速、受験雑誌を買って北大予科という学校を調べてみると、そこに「都ぞ弥生」という寮歌で有名な学校であることが記されていました。この「都ぞ弥生」という寮歌に心を打たれて札幌に憧れ、遂に北大予科を受験することになりました。昭和10年の春、北大予科の入学試験に合格して目度く入学することができ、

私の人生において初めての喜びを味わい、その夜はとうとう眠れなかったことを今でも憶えています。そして4月、先輩のお陰で恵迪寮に入ることになりました。寮に入っただけでなく経つと、毎日夕食後、新入生が一堂に集められ、先輩から最初に教えられたのが「都ぞ弥生」でした。一生忘れることができないほど、叩き込まれました。北大を卒業して70年が経つ今日まで、何かにつけて「都ぞ弥生」を歌い続けております。

この「都ぞ弥生」作詞者である横山芳介さんは明治43年の北大予科に入学し、45年3月、20歳の時に「都ぞ弥生」を作詞されました。そして大正6年に北大農学部農学科を卒業して、大正13年まで静岡県農会の技師、その後、昭和13年まで静岡県小作官として農民のために尽くされましたが、惜しくも昭和13年1月30日現職のまま静岡市において46歳で亡くなられ、市内の長源院に埋葬され、今も静かに眠っております。

昭和32年、北大同窓会の手によって長源院に墓碑が建てられ、さらに

平成11年に私達、静岡県北海道大学有志一同で長源院に「『都ぞ弥生』の碑」を建立しました。ここに「都ぞ弥生」の碑文を掲げました。

この歌碑は、北海道帝国大学予科恵迪寮の明治四十五年寮歌「都ぞ弥生」の碑である。

作詞者横山芳介氏が、北海道の新天地で学ぶ若者の燃ゆる想いを北国の美しい自然の移ろいや牧歌的田園の情景にこめて謳いあげたものであり、今日に至るまで、北大同窓生の心のふるさととして歌い継がれ、旧制高等学校の三大寮歌の一つとしても、多くの人々に愛唱されている。

横山氏は、卒業後、国の小作調停官として静岡県勤務を命ぜられ、昭和初期の小作争議の調停に尽くし、多くの農民の信望を集めた。氏は昭和十三年、当地で没し、此処 長源院に眠る。

この歌碑にその由来を刻し、永遠に歌の心を遺さんとするものである。

平成十一年三月

静岡県北海道大学同窓生有志一同
振り返ってみると、偶々北大予科
を選択し、入学して6年間、北海道
の雄大な自然にふれ、札幌農学校以
来の北大の真髓である開拓精神を学
び、以後、動乱の世を何とか生きて
まいりました。

しかし、有り難いことに、この北
大には「都ぞ弥生」というほんとう
にすばらしい名寮歌が、横山芳介氏
のお陰で作られ、私達はこの寮歌を
歌う度に、北海道の大自然とともに
懐かしい母校と恵迪寮が思い出さ
れ、しばし回想の念にかられること
を禁じ得ません。

(静岡市島田市)



河合惣吾さんが募金して完成した長源院境内に建つ
「都ぞ弥生」の歌碑

スローテンポの 「都ぞ弥生」

飯田 喜俊
(S 20年入寮)

「都ぞ弥生」がスケールにおいても荘厳さにおいても他の寮歌に比べて抜群に優れており、わが国の三大寮歌の一つに選ばれているのは論をまたないところです。私は「都ぞ弥生」が三大寮歌のうちでもっとも優れていると思っておりますが、これは身びいきでしょうか。

私は昭和20年4月に恵迪寮に入寮したのですが、寮生であった時はもちろんのこと、現在でも北大関係の会合や同期会等において一同が揃って「都ぞ弥生」を歌うのが恒例になっており、そこで互いに北大スピリットを鼓舞し、さらなる前進や発展を期すのです。

私は札幌を離れて長く大阪に住んでいます。大阪の旧制高校を卒業している当地の友人は、「そのようなことはもはや私どもは行っていない

い」と驚くやら感心するやら、羨ましがるやらの反応を示しています。「都ぞ弥生」はまさに私共の魂の故郷であり、心の奥深く根付いているものであつて、何ものにも替えられない宝であると思えます。

時折、テレビなどで歌手が「都ぞ弥生」を歌うことがあります。それを聞く時に何か大切なものが抜けており、物足りない感じを覚えることが少なくありません。しかし、寮歌集を出して該当する譜面をみる時、歌手が正しく楽譜通りに歌っていることを知ります。言い換えるると私どもが歌っているのは、先輩から代々歌い継がれてきた過程で本来の曲が変えられているのを知らされるのです。しかし、私共の歌い方の方が特有な「都ぞ弥生」の味が出ており、何とも言えない深い趣きを覚えるのです。このことについて、作曲した赤木顕次氏や作詞した横山芳介氏はどのように受け取るでしょうか。「都ぞ弥生」が完成するまでに多年を要し、作詞についても作曲についても多くの苦勞がなされて出来上

がったと聞きますが、私共がこれ自分たちの好むように変曲して歌うことに対して両氏は反対されるかも知れません。

次に取り上げるのは「都ぞ弥生」を歌うテンポです。楽譜ではこの曲のテンポを「♩|| 90 | 100」と指定しております。ところが、私が恵迪寮にいた時に時折、これをスローテンポで歌うことがありました。例えば一息二文字で1節を10分くらいかけて歌い、5節全曲を歌い終えるのに50分くらいをかけるというものです。読者の多くも在寮中にこのようにして歌った経験があるかと思えます。そして、北18条にあった恵迪寮を出た時に歌い始め、歩きながら歌って終わる時には札幌駅に着いたというものでした。思うに、この歌い方の方が本来の歌い方に比べてはるかに思索的であり詩的であつて、北海道の自然と人生を謳歌するといふ意味でより味があつたことを思い出します。

このスローテンポで歌う所以は、山口哲夫編「都ぞ弥生」(昭和49年)

の69頁によりますと「二次大戦のおり、学徒出陣する学友を見送る際に、戦争に対する怒りを込めて、わざとゆっくり歩き、寮から駅までに、ちょうど5番まで歌い終えて見送った時からそうだった」とか「大正年間か昭和の初めの柔道部の全盛時代に、柔道部の連中が（当時は、柔道部の多くは応援団も兼ねていたと聞きます）、試合の結果に気を良くして、寮の風呂の中で、のんびりとスローテンポで歌ったのが初めである」などといわれています。

近年、物に対するあり方、考え方が著しく変わってきております。例えば、パソコンやスマートフォンなどITの進歩は日常生活をスピーディーかつ合理的にさせ便利になっております。しかし一方では、そのために考え方が表面的、機械的、能率主義的になってしまい、思索的、哲学的な風調が薄れてきています。もちろん、現代のペースに沿って進まなければ周囲から取り残され、この世から敗北することになるため、スピーディーに進むことは必要なこ

とでしよう。しかし、「都ぞ弥生」をスローテンポで歌う精神は、人生をかみしめ、味わいながら進むという、現代人にとってはややもすれば失われがちな人間性や自然を再び呼び戻すためのよすがとなるのではないでしようか。常にとはいいませんが、時にはこのような歌い方を思い起こし、全曲ではなくても1〜2節を10〜20分かけて歌うことは、深い精神生活を呼び戻し、人生は如何にあるべきかを深潜させることになると思いうのです。

(大阪市住吉区)

寮歌と共に

工藤 信彦

(S 25年入寮)

81歳になる人生の中で、「都ぞ弥生」を何度歌っただろう。現在、恵迪寮昭和25年入寮の東京在住同期会の忘年会は、集まれば「都ぞ弥生」の一番を斉唱する。まずそこから始

まる。黙祷よりも寮歌を歌うことで、寮生活を思い出して寮友を偲ぶ。こうして八年になる。毎年15人前後が元気な顔を見せてくれる。

「都ぞ弥生」だけが寮歌ではない。寮を出た後も、一人口ずさむのは「湖に星の散るなり」であったり、「魔神の呪い」であったり。仲間と、酒飲む時は、「時潮の波の」や「別離の歌」で涙した。生地、樺太の母校・豊原中学の大先輩、須田政美さんの作詞になる「黒潮鳴れる」も、フランス・アルザスの野に一人で生活していた時、須田さんが樺太とは知らず口にしていた。二番の「古塔にひびく懐かしき鐘」のしみじみとした響きは、異郷の鐘の音にも共鳴し、孤独を味わい深くしてくれた思いをもつ。

10年ほど前になるが、児島仁さんを囲む在京の恵迪寮の会が毎年あって、久しぶりに多くの先輩たちと共に寮歌を思い切り歌って涙が止まらなかつた。その際、大先輩の田澤雄三さんだつたらうか、輪になって肩組む中で突然、「これ私の葬式歌だ」とおっしゃって、ハンカチを三角に

して鉢巻で止め、みなの前で横たわられたのには驚きもしたが十分納得し、私ならと思ったものである。殊更に正装の歌というわけではないが、生活の中で寮歌を歌うことなど年1回となれば、やはり歌うのは「都ぞ弥生」であろう。そして、いささか行進曲風の早めなりズムにはなっているが、ゆっくり歌詞を味わいながら歌っていると、〈夢こそひと時青き繁みに〉以下のフレーズには、寮時代の自らの生きざまが甦り、懐かしいだけではない衝き上げる思いがしてくる。〈清き国〉など夢見たことはなかった日常であったが、逆に今となつては、あのおぞまじき青春の日々の中に、北を生きた自らの生の出逢いがあり原始林の風景と共に〈清き国〉の人間の輪が甦ってくる。得難い、そしてかけがえのない1年半の寮生活であったと思つてゐる。

私の過去の日々の中で「都ぞ弥生」を歌つて忘れられない思い出が二つある。一つは、我が札幌南高の教師時代と思うが、北海道で初めての近代日本文学会の総会が催され、その一日、札幌市内見物のバスの中で歌つた「都ぞ弥生」である。お歴々が多数参加された満杯のバスの中で、当時北大国文の助手をされていた、後の小樽文学館館長で「位置」や「北方文芸」を創設した畏友の亡き小笠原克君から、「都ぞ弥生」を正調で歌えと私に要請があり、寮時代の歌い方そのままに、思い出しつづ学者諸氏の中で歌つた。後に東京の学会で、早稲田の紅野敏郎さんが、〈あの時の「都ぞ弥生」は忘れられない〉と話して下さつたことを思い出す。一番のみだつたか、五番までだつたかは覚えていない。しかし、文学と出会つてしまったことの諸々が、歌う自分の歌の調べの中で走馬灯のように奔つていたのを忘れない。

寮時代に即せば、1951年6月十何日か、非公開の寮祭ですべてが終わった後、展示に使つた材木などを持ち寄つて、原始林の中で夜が明けけるまで寮歌を歌つた時のこと。偶然入学した北大、何とか入れてもらった恵迪寮、アイスホッケー部で温かく育てられる中で、突然、樺太の中学の先輩、上林晟さんから炊務の財庫を仰せつかり、髪を伸ばせ、羽織袴になれと言われて、ひたすら消耗しつつ日々の献立にカロリー計算までして。

やがて寮祭後一月で委員が終わる。消えゆく篝火を掻き立て掻き立て明けゆく野の中で歌い続け、語り続けたあの夜。一人一人何かを語ろうと誰かが言い、みんなが交々に語る。何が話され、何を話したかも覚えていないが、たくさん歌つた中で「都ぞ弥生」に涙したことは忘れていない。覚えておられる方もあろう。最後は20人は居なかつたが、何かの終わりを見つめながら。

寮歌つて何だろう。詩人を夢見、詩を書く生の中にあつたから、詩じゃないと別扱いにして。あれは歌だった。しかも寮友たちと共に歌うことで歌になる歌だった。もう少し言葉を添えれば、旧制高校の教養の匂い立つ、古典への憧憬が私には在つた。漢詩の語感、西洋詩の翻訳の言葉の駆使——、今改めて読むと、十分そこには、詩語が生きていた。

ただ、あの独特のリズムが、言葉の美学よりも何か全身の肉体のリズムを誘うような、そして個や孤よりも、寮生活全体の情景が生み出す魂の合唱のようなものが、私には当時、詩ではないと思わせたところがあつたのであろう。あと何度、友と共に「都ぞ弥生」が歌われるのか。そう思いつつ。

(東京都世田谷区)

大志を實踐した学生ボラン ティア達に巡り会えて

〜選手村でのホスピタリティー
サービスの実践記録から

増子 忠恕
(S26年入寮)

国際大会選手村の 支援サポーター事始め

小生が国や都道府県が招致するスポーツ国際大会選手村のサービスというイベントに携わるきっかけは昭和58年、50歳で半身不随の松葉杖生活に入った人生転換時の頃。顧客や

国民本位のスーパー経営を實踐されていたダイエー創設者の中内功氏と出会い、彼の人柄や説得力に感動し怪我した選手や身障害者のパラリンピック選手に、選手村がどの様な設備や食事サービスで指導、対応すべきか考えて、松葉杖の身を省みず支援をしたのが始まりでした。

そのイベントは昭和60年8月、神戸市が招致した第13回ユニバーシアード国際スポーツ大会です。日本の夏季に行われる国際スポーツ大会では東京オリンピック以来21年振りの大イベントで、参加国は106か国・招待選手や役員数は5000人以上にのぼり、東京五輪をしのぐ過去最高の参加者数でした。一日4回の食事サービスとティータムサービス、食事喫食量はカロリーで6000kcal/1人(普通の人の3倍量)、しかもメニューは全食事を通じて4日間は同一メニュー禁止の約束でした。客席数は3000席という呆然とするような当時としては超大規模な食事サービス内容でした。この時、選手村での運営サービス

は、クラーク精神を継承する同志社大学の学生ボランティア達の真心あふれる奉仕で、世界の選手から感謝され、その高いホスピタリティーサービスは、「真心サービスは軽く国境を越えた」と報じられました。

選手村での学生ボランティアの 真心サービス実践

運営に携わる人、ボランティアの学生たち、地元のサーバーの女性たちとの安全なサービスと真心のサービスとは何か。安全で健康的な食事とメニューの検討などの細部の詰めが始まったのは約1年前の昭和59年8月からでした。

それから10年後の1995年には第18回ユニバーシアード福岡大会が招致されました。福岡大会スローガンとして『スポーツは軽く国境を越える』が採択され、サポーター達の国境を越えた選手村サービスの実践となったのです。

メダリスト以外は敗者となり祝福はない。勝者と敗者とが一堂に会する選手村レストランは、将に笑顔高

声と涙顔啜泣の選手が共存する場であり、奉仕するサービス側は思いやりサービス地獄ともいえるべき、敗者への必死の心配りのサービスが行われたのです。大部分の選手は敗者で、悲しみにくれる多くの選手にはランティアサーバー自身がこれまでに経験した悲しい悔し涙のシーンを瞬時に思い出しながらの涙溢れる真心で涙顔啜泣の選手を思い遣り、接してサービスする姿がいたる所で見受けられました。私も高校時代に被災経験した水害被害で、一瞬に激濁流に呑まれ九死に一生を得た時期の絶望時期を思い浮かべつつ敗者の心になつて選手に接し言葉をかけることができました。敗者の悔しさ悲しさには国境も民族差や年齢差や性別もなく同じ感涙によって慰めや癒しに少しでも役立つことを肌で感じたのでした。「一緒に泣いてくれてありがとう」という海外選手からの感謝の言葉は私たちやサポーター学生の一生の忘れ得ぬ言葉でありました。

ボランティア達と共に命をかけ、国境を越えた思いやりのサービスは

敗者に癒し・励まし・再起への勇気を与え、正に聖者のサービスでした。世界中からの選手達から国境を越えた思いやりのサービスに感動し感謝する言葉が無数に寄せられました。

国際スポーツ大会のボランティア達 彼等のその後の人生に対し大きな影響を与えている事は、神戸大会の10年後のユニバーシアード福岡大会への再参加やアテネや北京オリンピック大会での敗者へのサービスを気に懸けるメールからも、容易に分かります。国境に関係なく相手を思いやる聖者のサービス経験から得た思い遣りの心を知る事が出来ます。彼等の今後の人生に更なる心の幸せを願っています。

一隅を照らして選手達への真心 サポーターの実践記録

国際スポーツ大会では、マスコミは競技の勝者を賑わせていますが、選手村では勝敗の裏で泣く敗者が大勢いて、世界中からの招待客である勝者にも敗者にも懸命に聖者のサービスをするサポーター学生達がい

大会の成功が保証されるのです。参加選手達への選手村サービスや競技施設の運営サービスも主催国サービスの質が問われているからです。

華やかな国際スポーツ大会の裏側で必死の聖者サービスをするサポーター学生達と共に世界中からの招待選手達へのホスピタリティサービスから得られる感謝・感動・感激・感涙を共有経験出来た事は人生で最高の経験でありました。ユニバーシアード神戸大会と福岡大会の2大会のサポーター活動を通して国際スポーツ大会の重要な役割の選手村サービスや競技場レストルームサービスのサポーター達の活動を「選手村サービスから得られた真心の食事サービス方法論」として拙著に残しました。敗者の気持ちに成りきって懸命にサービスに生きたボランティア達の生き方に光を当て、一隅を照らす機会に恵まれた事は私にとって人生最高の感動イベントでありました。1995年ユニバーシアード国際大会福岡大会での選手村食事サービスでは、神戸大会以来10年振りに



料理長（左）と学生ボランティアのコンパニオンリーダー（右）と選手村食堂にて

海外の同一選手と涙の再会を果たすことも出来たのです。再参加したサポーターの人達も同じ経験をしていると思います。その後長野オリンピックや大阪オリンピック招致サポーターとして参加した人達もいます。

クラーク精神の 学生ボランティアによる聖者奉仕

真心サービスのホスピタリティ実践ボランティアには社会や人々の為に大志を實踐したいクラーク精神溢れる多くの学生に支援して戴きました。クラーク博士の志を継いでいる

同志社大学や神戸女子学院の多くの学生が支援の中核となって、涙顔の敗者や「国に帰れない」と涙声の選手には一人一人に、涙顔での真心サービスを實踐していたのが、今でも思い出され、その光景が脳裡に浮かび、眼が潤みます。休憩時間にはクラーク博士の関西での活動や札幌農学校の島松での別れの後に関西や九州で宣教師の教育指導やキリスト教布教されたことを何の淀みもなく語れる学生がいることに、驚きを感じた事を鮮明に記憶しています。国際大会への貢献を通してボランティア学生に感謝しつつ、強く感じた事は、クラーク博士を知り、クラーク精神は今でも生きていて、自分の思いを載せて実践している学生がいることです。

クラーク博士の「第一教え子」とも言うべき新島襄先生の創設ミッションスクールのごとき聖者教育課程は無理かもしれませんが、北大生の皆さんが蝦名先生著の『札幌農学校』・『新渡戸稲造』や『農学校物語』などを熟読され、恵迪寮生は恵迪寮

史1巻にも目を通され、クラーク博士と札幌農学校の大先輩の大志と実践の歴史を通して、学生各自が誰の心の奥底にある社会や人々への『思い』呼び起こしてくれる事を願って止みません。津波後の支援に馳せ参じたボランティアの方々精神にも通じます。

東京オリンピック招致実現へ スローガンを掲げて進もう

2016年の東京オリンピック招致が実現できず、2020年の東京オリンピック招致が決定しました。遙かなる茨の道とも想定されますが、実現した暁には競技場サポーターや選手村サポーター・ノーサイドのイベントや国際交流サポーターの必要人数は5万〜10万人とも思われます。日本国籍が無いため語学が達者な海外諸外国からの留学生は過去の大会での故意の過失などからリスク管理のため採用されないのです。そのため、英語の他に他の外国語が達者なサポーターが必要になるのです。今の小学生や中学生が20



選手村食堂でサラダバーの安全監視に働く学生ボランティア達

20年には大学生となり、外国語の会話が出来る、東京オリンピックのサービスサポーターとして、感動の人生を経験して、より良い思いやり社会に取り組んで行かれることを切望するものです。ユニバーシアード福岡大会スローガン【スポーツは軽く国境を越える】の様に、インパクトのあるより素晴らしい大会スローガンを決めて、そして海外招致選手

達に對し思いやり溢れるサービスで、猛練習の成果を發揮出来るように、さらに敗者には癒し励ましの一緒に敗者と泣ける感動されるサービースで、招待したいものです。そして感動溢れるホスピタリティサービスを通して、学生達のボランティア活動が世界からのゲストに感動と感謝の言葉をいただける事を願いつつ同時に彼ら自分達人生の最高の感動でもある事を体験させたいのです。将来を背負う子供たちの為に是非オリンピック招致を実現させましょう。

1995年ユニバーシアード国際スポーツ大会福岡大会選手村運営時に遺した私詩の一部を紹介させていただきます。

真心奉仕を如何にせむ 荷の重きに耐えつ 道を尋ねむ
 試合前 思い遣り励ましし 聖者の奉仕に 選手の瞳輝く
 夢かなわぬ競い人に 癒しと夢への再起を念じつ 聖者の奉仕
 学び徒の 命を懸けた思い遣り
 選手を癒す憩いの夕餉

なぎさ域 傷心いやすか 静かに響く さざ波の音
 ライバルと語り合い 健闘と再会誓う思いで広場
 涙せし 自ら責める傷心人を癒す術なき わが身儂し
 自問せり 選手村の真心奉仕 日毎夜毎 競技人の力たりえしか
 感謝・感動 ゲストとの友垣にスタッフ皆 感涙止むを知らず願いてし 国際貢献共にせし徒よ 聖者の心もて 真心奉仕に生きなむ
 (東京都東久留米市)

追憶の「都ぞ弥生」讃歌

加藤 雄志
 (S28年入寮)

戦後まださして経たない昭和20年代の高校生たちの間では、旧制高校の寮歌は愛唱歌の一ジャンルだった。そして、そのような歌の一つと

して「都ぞ弥生」を知った私は、たちまちこの歌に心をとらえられてしまった。

その頃東京で生まれて育った10代の少年にとって、北海道はほとんど幻のように遠い、はるかな未知の国だった。北海道や北大について知っていたことといえば、想像もつかないような冬の寒さのこと、碁盤の目のように道路が走る西洋の都市のような札幌の町、それに「ボーイズ・ビー・アンビシャス」のクラーク博士や新渡戸稲造のことぐらいだった。

そんな僅かばかりの断片的な知識から、北海道に対してどうしてあんなに、夢のような憧れを紡ぎ出すことができたのか。今となってはほとんど理解しがたいが、そこにこそ輝きに満ちた大いなる希望の世界があると、青春の屈託を抱え、そこから飛び出すことのみ考えていた少年は信じ、あの歌が私の生涯の讃歌となったのだ。

豊かに稔れる石狩の野に雁かりがねはるる沈みてゆけば

羊群声なく牧舎に帰り

手稻いただきの嶺黄昏こめぬ

その歌詞、特にこの一節は、あのメロディと相俟って、少年の胸を大きく膨らませ、ほとんど息苦しくさせた。この歌を歌うとき、頭の中には広大無辺の石狩平野が広がり、雁の群れが落日に向かってどこまでも小さくなって行き、遙かに広い草原を羊の大群が黙々とねぐらに帰って行く、雄大かつ静寂の風景が浮かんだ。私にとってこの歌は、あらゆる寮歌、あらゆる学生歌、あらゆる青年愛唱歌のうちで、ひととき心を大きく高鳴らせる別格の歌となった。

この歌が描き出して見せてくれた世界に夢をかき立てられ、北大以外の大学に行くことなどまったく考えられない気持ちになった。幸いにも北大に合格し、ほとんど夢見心地で延々と汽車に乗り、当時の少年としては遙かに遠い異郷である憧れの北海道に渡った。

札幌に着くと、春先の町は煤煙で真っ黒に汚れた雪が一面に残り、そこを馬そりが、首につけた鈴をシャ

ンシャン鳴らしながら走っていた。どうしてそんな手だてを思いついたか忘れたが、札幌に着いたその足で北大の学生自治会に行き、その夜は自治会の先輩学生が手配してくれた、恵迪寮の玄関脇の「客部屋」（確かにそのときの学生たちはそう呼んでいた）に泊めてもらった。敷きっぱなしの「客布団」は垢だらけで綿がはみ出し、じっとり湿った布団の下からはわらじ虫が出入りしていた。

こうして、憧れてきた夢の世界に足を踏み入れ、憧れと現実の世界との差をひとつずつ学んでいった。だからといって、現実の世界は幻滅の世界となつたわけではなく、それはそれで喜びと発見に満ちた新しい世界だった。幻のようだった夢の世界が、経験によって肉づけされ、実感と味わいを持った真の現実となつていったのだ。

大学での4年間は瞬く間に過ぎ去り、社会人としての生活が始まる。卒業して長野で就職したばかりの頃、こんなことがあった。

たまたまそこに北大出身の一年先輩がいて、この人の呼びかけで北大長野同窓会というのが何回か開かれた。長野市周辺にも北大卒業生は結構たくさんいて、20人ぐらいい集まっただろうか。そこで「都ぞ弥生」を歌ったとき、中年過ぎと思われた会社勤めの先輩の一人が涙をこぼしたのを私は見た。その中で最年少だった私はそれを見てちよつと心動かされたものの、正直のところ年配者のそれほどの感情は理解しきれない感じがしたのだ。さらに時は一気に飛ぶ。かつての少年はもはや老年となった。もうほとんど人生の全行程を歩いてしまつた目で、これまでの七十数年間を振り返って見ると、北海道と、そこで同じ時を過ごしたすべての人たちが、私が、私にとって「あらゆる屈託から自分を解放し、喜びと希望の中に生きさせてくれた新世界」であり、北大で過ごした4年間こそが、私の人生で最も希望と発見に満ちた輝かしい時代であったことは疑問の余地がない。そしてその光と喜びの世界

と時代を私の前に開いてくれたのがあの歌だったのだ。今も、「豊かに稔れる石狩の野に 雁はるばる沈みて ゆけば」と歌うとき、胸が大きく膨らみ、ほとんど息苦しくなるような少年のころのあの気持ち、記憶のうちにもぎまぎと蘇る。

かつて長野で、「都ぞ弥生」を歌つて涙を流したおじさん先輩の年を遙かに越えた今、私の感じる感動は、空想と憧れだけだった少年の日とは中身は同じではないが、切ないような胸苦しきは昔のままに浮かんできて、長野のおじさんの涙をはつきりと理解することができる。

もし、この歌を知ることなく一生を過ごしていたらと思うとき、人生にこんな歌を与えられたことに心底から感謝せずにはいられない。横山芳介君、赤木顕次君、本当にありがとうございました。

(東京都新宿区)

リングゴ事件と 「都ぞ弥生・二番」

酒井誠一郎
(S30年入寮)

「都ぞ弥生」の二番目、「豊かに稔れる石狩の野に……」を唄うたび、聴くたびに昭和30年秋の出来事が、鮮明に甦る。恵迪寮を揺るがせた「リングゴ事件」である。「都ぞ弥生」百年記念誌に、そのいきさつを披露すべきかどうか、大いに迷ったが、私も今夏には喜寿。「真犯人」の一人として、二度とこのような機会を与えられることはないと思ふと断じ、告白と謝罪の場とさせていただく。

今の寮生には思いもよらないことであろうが、まだ戦後10年の当時は、多くの寮生が夜、空きつ腹を抱えていた。そこで出来秋ともなると部屋単位の集団で北大内の農場へ繰り出し、ジャガイモやカボチャ、トウモロコシなどを失敬。洗面器などで加熱し、空腹を補った。寮中でほぼ公認？の、いわゆる「アタック」だ。

同年入寮の私も、ほとんど罪悪感を抱かず、リュックを背負い星空の下
の作業に加わっていた。

ある夜の狙いはリングゴだった。大
して腹の足しにはならないが、あれ
これ物色した後で、5人が「これ」
とまとまった。場所は農学部正面に
向かってすぐの左側。かなりの高さ
の木柵があつた、と記憶している。
難なく乗り越え、たわわに実つた大
ぶりのリングゴを一杯に詰め、肅々と
帰途についた時、異変が起きた。全
くの想定外の守衛陣の奇襲だった。
後に知つたことだが、この区域は

「リングゴ博士」とも称されたN教授の
秘蔵の園。長年にわたる研究と育成
の成果がずつしりと詰まつた、本当
に貴重な実りだった。当然、教授は
激怒して、私たちを全員退学させる
よう強く求めたらしい。それに賛同
する教授も多かつたという。こうし
た流れを察知した寮役員や寮生は、
私達を何とか守ろうと一夕、臨時の
全寮大会を開いて、「もし5人に退学
処分が出されたら、300人の全寮
生が退学を申し出る」と、満場一致

で決議してくれた。これによって、
退学を免れた私たちは、雪の降る日、
赤じゅうたんを敷き詰めた杉野目貞
晴学長室に呼び出され、厳重注意を
受けるとともに、学問の尊さ、重さ
を懇々と諭された。寮生によるア
タックも、これを契機に下火になつ
たと聞いている。因みに5人の名は、
29年入寮の荒木武夫、近藤智雄、30
年入寮の青柳宏一、平井晋の諸兄と
私である。4君には名を明かすこと
の了承は得ていないが、きつと今は
懺悔の心根を抱いてこれに同調して
くれると確信する。

教養から学部に移り、私は農学部
林産学科に進んだ。専攻は林産化学
ということ、実験室で過ごすこと
が多かつた。真面目な学生ではなく、
実験用のエチルアルコールを焙じ茶
で割つて、和風ウイスキーなどと称
して飲んでいた。夕暮れ時には農学
部屋上に出て涼風に吹かれ、まだ現
在のように住宅群が迫っていないか
つた農場や周辺の山々の風景で眼を休
めた。この眺望にこそ「第二番」そ
のものの風情があつた。勿論、「羊群

声なく牧舎に帰り」の羊群の姿はな
く、「遙々沈みて行く」雁かりがねもいなか
つたが、「黄昏こめる手稲の嶺」は厳然
としてあつた。これらは全て、現実
と歌詞がない混ぜとなつた心象を生
み出し、そこに浸つて飽きることが
なかつた。

何回かこの喜びを味わつた後のあ
る時、手稲に向かつて左側の農場が
気になり始めた。屋上からはつきり
見えたのかどうか、確かではないが、
ここはあのリングゴ園ではないか？
——。恐らくそれに間違いないか
つたと思う。アタックで傷付けてしま
つた園内の状況を直視することがた
まらわれ、遂に近寄ることはできな
かつた。「農学部屋上と手稲——左側
の農園——全寮大会」のトライアン
グルを、今はただ、じつと、しかし
一瞬の夢物語のように思い起こすだ
けである。寮生の友情、寛大だつた
諸先生方、そして愉快な実験室の
面々などなどに、改めて頭を垂れ、
遅きながらの感謝を申し上げる。あ
りがとうございました。

(札幌市清田区)

俳

句

新涼 しんりょう

小沢久弥

(S17年入寮)

春

種袋封切る時に香りけり

糊の蓋ゆがみて固し四月馬鹿

春近き湾岸道路をうねりゆく



夏

家古りて夾竹桃の育ちけり けふちくたう

油させば音なく廻る扇風機

葉書にてががんぼ外へ追ひ出せり

秋

秋晴や庭師と話はずみけり

二三言言葉かわして踊の輪 ふたみこと

新涼や眼下に碧き河口湖 あお

冬

ガス工事中断のまゝ初時雨 はつしぐれ

くつきりとスカイツリーの冴返る さえかへ

底知れぬ空のあをさや風冴ゆる さ

(川崎市麻生区)



都ぞ弥生の「都」とはどいつか

刈谷 純一
(S31年入寮)

さるOB会で飲んで歌っているうちに「都ぞ弥生の都とは札幌か」との声が上がった。正解は東京なのである。

都ぞ弥生の雲紫に

花の香漂う宴遊のむしろ

尽きせぬ奢に濃き紅や

その春暮れては移らふ色の

夢こそ一時青き繁みに

燃えなん我が胸想いを載せて

ここまですが東京である。そして

星影さやかに光れる北を

人の世の 清き国ぞとあこがれ

ぬ

と、やっと北海道が出てくる。2

番以降は札幌賛歌となっている。この不可解な詩を理解するには当時の状況を知らねばならない。

開学当時、札幌農学校には予科がなかった。任されたクラーク博士は

どうしたか。何と東京英語学校（後の一高）に生徒募集に行ったのだ。東大への予科と目されていた学生たちを集めてクラーク氏が何を語ったかの記録は残されていない。しかし感動した青年たちが大挙して札幌を目指したのだ。何に感動したのか。その後の発言などから、魅了した新思想が明確に浮かび上がってくる。

のちに学長となる佐藤昌介など1期生がやってきた。学期などおおまかな校則を作ったクラーク氏に、担当役人たちが、生徒の生活・道徳などを定める「細則」を作る提案をしたところ、クラーク氏は「ヒー・ジェントルマン。それが全てだ。それだけで十分ではないか」と答え、おりにふれ生徒たちに「私は諸君をジェントルマンとして扱う。自分の良心に従って行動せよ」と語りかけている。

東大学長を務めた矢内原忠雄が後に書いている。「明治政府が新国家を建設しようとしたとき二つの潮流があった。ひとつは東大に、法律の網をかぶせて国民を統治しようとする

潮流、そしてもうひとつ北大に、個人の人格を高めることで国家を築こうとする潮流があった。北大の潮流が途絶えたことは日本にとって不幸なことであった」と。

もう明らかであろう。日本に初めて個人主義思想が入ってきたのだ。

それまで藩のため、天皇のため、国のために生きてきた全体主義国家・日本に青天の霹靂のごとく輝いた新思想は、青年たちを魅了したに違いない。省みれば民主主義は全体主義国家には根付かない。悪口を言われながらも欧米の民主主義は日本より進んでいる。その原因は、日本における個人主義思想の壊滅にあると考えてよいだろう。春爛漫の東京で、宴遊のむしろに酔いしれていた若者たちが、クラークの熱弁を聞き「栄華の巷で治安の夢にふけているときではない」と反省し、我も我もと日本を担う大志を抱いて北を目指した心情を君知るや、だ。

全体主義と個人主義は、矛盾ではあるが対立概念ではない。例えばアリやミツバチは全体主義を好み、ヒ

グマなどは孤独を愛する。人類は個人の自由を渴望しながらも社会を形成したがる。全体主義は法律であり文明である。個人主義は道徳であり文化である。文明の利器は、粗大ごみになるものと文化として残るものに分かれる。前者のみに身を置く定年退職者が粗大ごみと呼ばれてあふれかえり、今では国そのものが粗大ごみになろうとしている。眼前の利害のみを争い、夢や希望という文化を語らなくなった政党が、いま次々と粗大ごみ化して捨てられようとしている。

応募しても入学試験があった。二期生の新渡戸稲造は面接で、なぜ入学したいのかと問われて「私は日米の架け橋になりたい」と答えている。これは単に英語のことではなく、新思想の日本への導入に情熱を燃やしていると考えた方が分かりやすい。後に東大教授となったときの教え子が矢内原忠雄であった。

全体主義国家・日本は個人主義思想壊滅による不幸の中にあがいている。すべて国家が仕切る思想は、道

路で転んでも国を訴える風潮を生み、生活保護を受けるのは国民の権利だとの風潮の中にいる。日本再生には北大精神への回帰しか道はないのだ。ご同輩たちよ。同窓会の乾杯のあとだけでも、都を捨てて北を目指した先人たちの想いを偲ぼうではないか。新渡戸稲造はすでに、北大生がクラーク精神を省みず、東大の残滓をあさって官僚ポストを争う愚について警告している。日本再生は我々の精神にかかっているのだ。

実は、昭和30年代すでに「都」とはどこか、について、解釈に東京派と札幌派があったのは事実である。

「都ぞ弥生」は明治45年度寮歌である。この年すでに札幌農学校は帝国大学となり、予科もあった。クラーク時代とは違う環境である。しかし作詞した横山芳介氏は、東京高等師範付属中学に在学中、札幌農学校を紹介する本を読み、あこがれて東京で受験し、予科に入学している。自身の情熱や行動が、北を目指した先人たちと同じなのである。また弥生三月の札幌は雪の中だ。花の香漂う

宴遊のむしろは無理だろう。ご存知「コチャエ節」に「札幌農学校は蝦夷が島、熊が住む、荒野に建てたる大校舎」といった歌詞が並んでいる。当時の学生たちは「都」と言われて札幌を考えるなど想定外だったに違いない。

私たちの時代、寮の前に「都ぞ弥生」の歌碑が建てられ、ご存命中だった作曲の赤木顕次氏が来札された。「私の作曲した楽譜と現在歌われている曲は微妙に違っているとあるが、寮歌というものは学生たちが歌いやすいように変化しながら歌い継がれて行けば良い」と述べられた。しかし歌詞は、そういう訳には行かないのではないか。時代が移って意味が分からなくなったら、当時の状況を調べ、語り伝えながら歌い、ついで行かなければならないのは、万葉集の例を引くまでもなく、当然のことであろう。東京から情熱だけをエネルギーに北を目指した先人たちの思いを、いつまでも語り継いで行きたいものだ。

(札幌市中央区)

懐かしくも気になる思い出

合田 寅彦

(S33年入寮)

その一 油絵

恵迪寮第百六十五期執行委員会(昭和34年2月から5月)は、崔圭亨委員長の下、いくつか特筆すべき活動を行ったが、その一つに寮の施設設備の総点検があった。壁の剝落箇所まですべて指摘する徹底したものであったが、とりわけ成果として挙げるものと言えば、正面玄関から入ってすぐの物置同然になっていた部屋を整備し壁を塗り替え、応接室兼会議室にしたことである。寮務部兼外担当だった私は、学生部厚生課に日参し課長補佐の大崎さんを説き伏せるのに苦心したことが今では懐かしい思い出である。

部屋はきれいになったが、壁が淋しい。そこで会計事務室の隅に置かれてあった「都ぞ弥生の絵」と口伝

えに言われている8号ほどの油絵をその壁に掛けた。写実画ではなく横山芳介君とおぼしき色白で細い目をした青年に、めがねをかけた赤木頭次君とおぼしき青年が寄り添うようにしている絵で、絵全体にピンク、薄青、白、緑など明るい絵の具が使われ、この二人を幻想的に包んでいる。

さて、崔委員会の次の私の委員会でのこと。ある時、ふたりの老紳士が「都ぞ弥生の絵」を見たいと寮を訪ねて来られた。当時の寮生は誰もこの絵の生まれた経緯を知らなかったと思うし、私もその時、初めてこの絵がただものでない、恵迪寮にとって歴史的に貴重な品であるらしいと悟った。

案内役らしい小柄な紳士は、やや黄色味をおびた豊かな銀髪に白い口ひげを生やしていたので、ご自分では名乗られなかったが、私のような学生でもその人が元経済学部長で名誉教授の渡辺侃先生だとすぐに分かった。なぜなら中央図書館(作家・宮本百合子の父中條精一郎設計)の

壁だったか、渡辺先生の肖像写真を見た覚えがあったからだ。体格の良いもう一人の紳士は静かな口調で「樋口です」と名乗られた。渡辺先生は「横山君は農業経済学科の同級でね」とぼそつとおっしゃる。樋口氏はただ黙って懐かしげに壁の油絵に見入っておられた。

お二人が帰られてから、「恵迪歌集」を開いてみると、「大正三年度」「我が運命こそ」(樋口桜五君作詞 赤木頭次君作曲)とある。赤木君は隔年に2回作曲していたのである。老紳士の心に生き続けた「都ぞ弥生の絵」は今どこに? その無事を祈るものである。

その二 拓本

これも合田委員会でのこと。北14条西4丁目辺りの印刷屋が、寮南側の原始林に建つ「都ぞ弥生」の歌碑から無断で拓本をとり販売するらしいという情報が委員会に入った。歌碑がどこに帰属しているかなどどうでもよく、私は独りでその印刷屋に出向き、「著作権は恵迪寮にあるのだ

から、勝手な真似はしないでもらいたい」と抗議したところ、相手は恐縮して「止めます」と言う。ねじ込んだ私もそう謝られると何だか同情したくもなり、委員会に諮って印刷した分の拓本を恵迪寮で買い取ることにした。

一般に拓本のイメージは、ややかすれた黒地に白い文字が浮き出ているものだが、この印刷屋が刷り出したものを見ると、べったりとした黒インクの地にそれこそありありと白く歌詞が浮き出ている。しかも和紙とはほど遠いやや厚手のアート紙仕上げだから、品から言えば今一つといったものだ。もつとも、歌碑本体がつるつるの御影石だから、写し取ればこんなものしか出来なかったのかもしれない。

この拓本は退寮生全員に記念品として渡したのだが、その後の委員会がこの拓本を記念品としたかどうかは、私は知らない。

(茨城県石岡市)

50余年前の恵迪グラフィティ

菅野 溥記

(S33年入寮)

受験のお宿は恵迪寮

最近の大学受験生なら宿泊はホテルが当たり前だが、貧乏な高校生にとっては、中学、高校の先輩が住んでいる恵迪寮が宿泊場所だった。その上、合格後の入寮も予約できた。めでたく合格、晴れて恵迪寮生となった。

入寮間もない頃、問題となったのが従来の麦混じりの米飯から銀しゃりへの転換だった。数回の寮生大会での議論の末、銀しゃり派の勝利となった。しかし、一日当たりの食費(3食)が70円台にアップ。米飯が時代の流れだったのだろう。

恵迪寮の管理運営は自治精神により寮生に任されていた。私は崔委員会の炊務委員となった。委員の間、食費は口ハとなる。仕事は食材の購

入や夜食の提供などで、当時、鯨肉(豚肉・牛肉は高価だったのだろう)をしばしば提供した。寮生からは筋が多く硬いとの苦情があった。我々炊務委員の回答は「この世で切れないものが三つある。それは空気と水と君の石頭(この部分はドイツ語)だろう」というものだった。

試験の時期になると普段は滅多にお目にかからない生卵が出された。ドツペラないように頑張れとの配慮だったのだろう。お世話になった炊務の親分、鍵谷さんや女性陣に感謝。

当時のアルバイト事情

恵迪寮の学生は貧乏人が多かった。奨学金(月額3000円)とアルバイトが大きな収入源だった。毎晩8時過ぎに、翌日のアルバイト情報が放送された。条件の良い仕事は抽選だった。経験した職種は、プロ野球のアイスクリーム売り(試合ばかり見ていた)、引越し手伝い、下水道工事、交通量調査、レンガ工場、模擬テストの監督、植林作業などで、結構きつい仕事もあった。日当は4

00円から500円。もちろんバイトの間は代返を頼みノートを借りた。

私はどちらかというと政治問題や学生運動にはノンポリだった。今は亡き全学連の委員長だった唐牛健太郎君が寮に現れ演説していた。当時は安保反対運動に対し一般市民の支持もあつた。私は岩見沢駅構内でデモつた。

寮から徒歩10分くらいの電車通りに爐というラーメン屋があつた。爐の親父はラーメン代を50円から60円に値上げした。これに対し寮生は猛然と反発し不買（不食か）運動で対抗した。結局、親父が折れて寮生には従来通りの値段となった。あのとぎとぎとしたイカゲソとモヤシ入りのラーメンを食いたいなあ。

札幌は学生に優しいマチ

5月には円山公園での花見、6月には藤やライラックの香りの下での札幌祭り。寮祭では、街に仮装行列で繰り出し、4丁目交差点で大ストーム。寮歌指導やファイアース

トーム、スキー板を打ち鳴らしてのストームなどの寮内行事のほか、冬には雪まつりに参加するなど街ぐるみの行事は今でも記憶に残っている。そして何よりも札幌の街は北大生、恵迪寮生に優しくつたように思う。

一高、三高の寮歌と並んで日本三大寮歌といわれる「都ぞ弥生」。在寮中はよく歌つたが、卒業、就職してからは歌う機会がほとんどなくなつた。たまに開かれる同窓会などで歌うくらいである。

あの希望に満ちつつもややほろ苦い青春だった恵迪寮を去ってから50余年になる。良き友、

懐かしき輩と過ごした恵迪寮生だったこと、そして「都ぞ弥生」を歌えることを、古希を過ぎた今でも誇りにしている。

（青森市）

人の世の清き国ぞと
あこがれぬ、迪を求めて

清水 宏
（S35年入寮）

北大時代

「津軽の滄海の渦潮わけて」あこがれの北海道の大地に第一歩を踏み出したのは、1960年（昭和35年）4月11日だった。私は長崎県島原市の出身、家族6人、旧満州からの引揚げ者で、北海道は全くの未知、無縁の地だった。

光に満ちた恵迪寮生活は居心地満点。在寮3年、私は自由と怠慢を心ゆくまで楽しんだ。しかし折からの安保反対闘争には直撃された。確信が持てず寮の先輩、同輩たちの言に右往左往しデモにも参加した。運動の終息後、私は自己嫌悪の中で、石狩の自然に身を委ね、逃避した。寮を起点に東西南北、小樽、江別、北広島、定山溪へと歩を延ばし、「都ぞ弥生」「魔神の呪」「津軽の滄海の」

等々の寮歌を絶叫しつつ歩いた。特に豊平川と石狩河口20^{キロ}程の土手の草路は、最愛のコースで、四季、昼夜を問わず彷徨した。自然の愛らしさ、厳しさは、寮歌の世界そのまま。これだけでも九州から北海道を目指した価値は十分で、つくづくと我が身の幸運を堪能した。

しかし私は青春の貪欲さの中で、自然のみならず実社会にも「清き国」を求めた。それも自分の能力、身の丈に合った状況においてである。私は児童福祉ボランティア活動に没頭、例えば3年余、養護施設に週1回宿泊し、児童（主に男子中学生）と作業、入浴、食事、睡眠等の日常生活を共にした。予想に反して彼らの「明るさ」が、そうしないとやって行けないような「暗さ」の裏返しであることを、やがて悟り、真の解決の道求めてあがき、一旦は離れた学生運動にも近づいた。

現場労働時代

入学時の志望は海外移住だったが、5年間（怠慢で1年留年）の試

行錯誤と、子ども達に教えられ、政治や思想に学び、煩悶しつつも私は人生を大きく転換。国内で「清き国」を創る大仕事に加わる覚悟で再出発した。但し職業選択では自由に発想し、人間（自己）追求を胸に、現場労働の10年を経た。7年間は東京都清掃局の作業員（学歴も中卒）として、し尿処理場に勤務。最近その体験から小説「出発」（元就出版社・1575円）を刊行したが、書中「人間の美しさを、上品なインテリ社会ではなく、人間の欲望が生のままぶつかり合う現場に求め格闘したい」とは、そのまま私自身の願望でもあった。

介護時代

しかし全く予測しなかった運命の交転に見舞われ、日々の生活に汲々とせざるを得なかった。妻が発病（脳腫瘍）し、自宅看護数年で他界。息子達の子育て、大学に進学させた後、郷里で老母の介護と看取り……と、私は一人で約25年間の看護・子育て・介護の時を送った。我が人生の

夢「清き国」は幻の彼方にあった。せめて時間を作り身近な自然に触れながら、寮歌等を口ずさむことが、許された貴重な楽しみだった。

現在

昨年5月、島原市議会議員選挙で2期目当選。ビリから2番。看板ゼロ、連呼ゼロ（自転車）。接待ゼロ、寄付ゼロ、ポスターは白黒10円コピー。しがらみゼロの市民党。但し圧倒的少数派。しかし遅時きながら「清き国」作りにほんの少々参画しかけたかなと思っている。「大志」は未だに捨て難い。妄想は已まない。

根本的な発想の転換があれば、現在の生産力でも、世界人類の平和、幸福は可能な筈。私は古希の年齢だが、漸く自由に発言、執筆できる時間を獲得できた。今こそ「人の世の清き国ぞとあこがれ」るに足る、境界を越えた世界の構築に残る人生を賭けようではないか。国々が併存するインターナショナルを越え、国々が融解して合体するトランスナショナルの世界を夢見て。恵迪寮同窓の

諸兄よ、共に立とうではないか。

(長崎県島原市)

最南端の沖縄寮歌祭

上江洲安宏

(S 35年入寮)

私は昭和35年に沖縄からの「留学生」として北大へ入学した。その当時、沖縄はまだ日本に復帰しておらず、本土の大学で学ぶには文部省管轄の留学試験に受かるのが、当時の沖縄の高校生の夢だった。

文部省の留学制度は、戦争で壊滅状態になった人材の早期育成を図るため、地元の強い要請で昭和28年から実現した。毎年約50名の学生を選抜し、全国の国立大学に1、2名ずつ振り分けるが、私の場合、留学先が北大と決まった時は正直言ってショックを受けた。何しろ最南端の沖縄から最北端の北海道へと、気候、風土、生活環境がまるで違う世界での生活だから4年間耐えることがで

きるかどうか非常に不安だった。当時、沖縄から札幌までは、船や汽車を乗り継ぎ片道5泊6日はかかり、まるで海外に行くようなものである。

しかしながら、案に相違して札幌での生活は快適だった。何より気に入ったのは、寮生活の心地よさ、北大のキャンパスの美しさである。今でも強烈に印象に残っているのは、理学部から農学部にかけてそそり立つ楡の大木。その木陰のやわらかいローン。5月頃一斉に開花する工学部前ツツジの繚乱。秋になると黄金の葉を道路一面に敷き詰める医学前の銀杏並木。あまりにも有名なポプラ並木。そして生活の根拠となった恵迪寮。恵迪寮こそわが北大生活の原点、長い人生の中の一瞬の光芒である。そこでの生活はあまりにも快適であり、浮世から隔絶された桃源郷そのものだった。恵迪寮を思うたび、我が心は北の空に飛び、我が魂は青春に還り、在りし日の緑のキャンパス、狸小路、大通り公園、手稲山の麓を彷徨う。あれから五十有余



旧制高校のOBらが参加して開かれる沖縄寮歌祭

年、ここ沖縄でも毎年2月には寮歌祭があり、北はハルピン学院から南は東亜同文書院に至るまで、毎年二十余の参加校で賑わう。我々北大も少人数ながらも毎年参加し、「都ぞ弥生」を高吟し、在りし日の恵迪寮、北大キャンパスを偲んでいる。

願わくば何時の日か、同窓会諸氏が大学して来沖され、「都ぞ弥生」を高吟し、恵迪寮の伝統的「ストーム」を披露して、沖縄寮歌祭を盛り上げ

られんことを夢見ている。

(沖縄県宜野湾市)

それぞれの新しい「都ぞ弥生」を
〜百年記念祭に参加して

新蔵 利熙

(S 37年入寮)

百年前、横山青年は「清き国」を
目指して札幌の地に立ちました。鋭
敏な青年には、その時代・社会は汚
濁したものとしてあつたのでしょ
う。それから幾つかの戦争を挟んで
時は流れました。いま不安感、閉塞
感に包まれた社会に在って、「都ぞ弥
生」がなお多くの人の胸を打つのは、
そこに人間として志向すべき普遍性
があるからなのではないでしょう
か。

中央ローンで同窓の方々と肩を組
んで歌い、いまの時代、反(非)時
代的とも言うべき人間的なつながり
の濃さに浸る幸せを感じながら、社
会を変えて行くパワーに転化できな
いものか?ということをおしまし

た。

理念なき、効率重視の社会に在つ
て、非効率的で愚直に見えようと強
く「清き国」を求めて行く、それが
人間形成の黄金期を恵迪寮で過ごし
た我々の、いわばミッシヨンのよう
なものではないでしょうか? 取り
敢えずは、個々がそれぞれの生活の
場で方向性を誤ることなく、無形の
恵迪精神に基づいて歩んで行きたい
ものだ、と思います。

私の好きな在野の哲学者が、かつ
て14歳位の子らへ「どんなに不幸な
時代であっても、幸福な人が不幸に
なることだけは決してないと、約束
するよ」と語りました。折に触れて
思い出します。一見、社会的・歴史
的な要因を無視した観念論にも見え
ますが、人として幸せでなければ時
代や社会を変えることはできない、
と言っているように思えます。恵迪
寮に入り、全国各地からの友と交わ
り、寮歌によって歴史にも繋がった
我々は、カルチャーショックとも言
うべき普遍的な視野を持つことがで
きた幸せ者です。

大好きな「別離の歌」の一節、「明
日の宿りは知らねども 吾れに友あ
り吾れ強し」。出会いに感謝し、生あ
る限り大切にして行きたい、と思っ
たことでした。

(函館市)

「わらび会」と
「都ぞ弥生」

石嶋 紘

(S 38年入寮)

入寮後に37年入寮の仲間達と「わ
らび会」というセトルメントを立ち
上げました。養護施設の子ども達へ
の援助と、生活保護世帯が集まって
いる地域に入り子ども達への援助を
目的にしたものでした。

主体は恵迪寮生(10人以上、寮内
に2部屋を確保)と北大教養部、藤
女子短大、天使女子短大、衛生学院
の学生たちです。

子ども達への援助には、直接的に
は学習指導、運動、遊びが中心にな
ります。

間接的には環境改善です。養護施設では職員との話し合い、指導方針についての確認と意見の交換、施設長と交流。道庁での交渉、相談などがありました。札幌には3か所の養護施設がありました。生活保護世帯の集まっている地域2か所に入り活動しました。

この集落にはボスがいて、各世帯の生活保護費の支払いもボスを中心に行われていました。法による規制よりボスの支配が強く、彼が我々を如何に認知するかが常に大きな問題でした。不平等、不正な扱いを受ける世帯が存在していました。

ボスを中心にした小さな社会ですが、非常に強い封建的で排他的な社会です。

大人の秩序が子ども達に直接影響していますので、ボスとの関係、個別の世帯との関わりが非常に重大な問題です。

いろいろ工夫しました。問題は山積しており、未解決のままでしたが、全員真摯に子ども達に向かい合いました。

自分達に何ができるのか、何処まで介入してよいか、検討し合い、ベストを尽くしているか考えながら、正に恵迪寮の自主、自立の精神の、地域における具体化をめざす活動です。

農学部前にあった学生会館のサークル室で、毎週、反省会、意見交換会を開き情報の共有化を図り、社会福祉の向上のため、自分達に何が出るか何をすべきか、熱心に話し合いました。

ミーティングが終わると、我々寮生は「Gentleman」として女子学生を自宅まで送って行き、寮に帰っては色々な寮歌を歌い、深夜に出る余り物を食したものです。そして寮歌の締めは「都ぞ弥生」でした。

あれから50年、現在も何人かの仲間が集まり、これからの余生をどう充実させるか、各自で工夫し、応援し合っています。ここでも最後は「都ぞ弥生」で散会します。

(東京都豊島区)

「都ぞ弥生」のポピュラリティ に関する一考察

加藤 秀弘
(S46年入寮)

平成22年はいわゆる旧制高校*とって大きな節目の年であった。主柱であった日本寮歌祭を初めとして、各地の旧制高校寮歌祭も続々と閉幕し、ある人達は旧制高校の最終の終焉の年と銘記するだろう。閉幕にあたっては、共通して、うやむやのうちに消滅するのでは無く、寮歌を人々の心の中に長く残すため、敢えて余力を持つての終焉を閉幕の辞としている。かくの如く旧制高校は誇り高い。

旧制高校寮歌への憧憬やまぬ人々はこの終焉を惜しみ、当然ながら後継寮歌祭を立ち上げている。全国規模の寮歌祭としては、新制に移行後の方々が主導する「中央寮歌祭」と、旧制高校最終組が主導する「旧制高校寮歌祭」が挙げられる。私は新制時代の旧制寮歌愛好者の一人で、

常々同好の志（たとえば東北大出の丹治道彦氏）と切磋琢磨し、未だに旧制各校の歴代寮歌マスター率を純朴幼稚に競いあっている。我々なりにこの二つの寮歌祭のコンセプトを極めてシンプルに比較すると、前者がリクルートを得ながら寮歌を歌い継ごうとしている対し、後者は旧制高校寮歌という小宇宙をピュアーに歌い上げきることを目的としているように思われる。後者が持つある意味「滅びの美学」的であり方に私は大いにこれに魅せられるが、一般常識的に評価するとやはり前者に支持がありそうである。

しかし、リクルートは容易ではない。寮歌の宝庫であるナンバースクールや各地名校の継承大学での寮歌浸透程度は余りに捗々しくない。また、恵迪寮同窓会に限らず、この種の組織のリクルートは容易ではないが、寮歌祭の役員・参加者のリクルート困難性はその比ではない。その困難性など分析してみても、さほど意味はないかもしれないが、いくつかの要素に思いを巡らすうちに、

寮歌はその歌詞や旋律のみで成り立っているのではないことが容易にわかる。その寮歌とそれを歌う寮生学生、生息環境、社会情勢などを含む一つの系が厳然と存在していることに気づく。寮歌を知らない世代（というよりは個人か？）は寮歌を歌詞と旋律のみでしか感ぜず、歌謡として相性が悪ければ、何も執着したりしない。

歌われなくなった逍遙歌

現役の大学教員として視点からすると、事態はさらに進んでいることを実感せざるを得ない。私の勤務する大学は由来が異なる二つの学部からなり、平成15年の文部省大学改革の先駆けとして二単科大学が合併した東京西部の中規模国立大学である。二つの学部は共に明治初期に草創し、共に伝来の寮歌があり、私の勤務する学部では全国的にも浸透度が高く味わい深い逍遙歌があった。しかし、昨今この逍遙歌をキャンパスで聴くことはまずない。ごく一部の運動部に残されているようだが、

武道系部員でも「そんなもの聞いたことが無いっす」という乾いた返答を聞く。ましてや、教職員と学生が肩を組み同じ歌を歌うことはあり得ない。

この逍遙歌が歌われなくなった過程は、なかなか解明できない。旧制から新制への過程でも歌い継がれ、もちろん激しい大学紛争の狭間でも消えることはなかった。冒頭の日本寮歌祭を率いてきた方々の危惧どおり、ごく自然に退潮しうやむやのうちに消え去ろうとしているかに見える。従って、ごく一部の例外を除き、運動部であっても勝利あるいは惜敗の情を共通の歌で共に部員が分かたことは無い。おそらく、このような有様は全国津々浦々のキャンパスで生じているに違いない。

「北大小宇宙」に煌めく 「都ぞ弥生」

やはり、寮歌・学生歌は歌い継がれなければならぬ。歌詞の良さや旋律の良さだけでは、一部愛好家の嗜好歌唱にすぎない。寮歌「都ぞ弥

生」は、やはり「都ぞ弥生」を核とする有機的および無機的周辺構成要素がおりなす持続的系があるからこそポピュラーなのである。学制再編や大学紛争を経ても、北大という小宇宙を通過する脈々と続く学生に歌い継がれているからこそ、ポピュラーなのである。

最近、大学院生向けに専門分野の集中講義をしていて、話しながらふと気付いたことがあった。時間に迫られる学部向けの講義と異なり、たつぷりと時間をかけ「マッコウクジラの社会生態」を自分でもよく噛みしめるように解説してみた。

「いいか、諸君。マッコウクジラは社会性が高く、性別や発育段階で群れ構成を変える。まず、基本となるのは雌と新生児からなる繁殖育児群だ。この群れで生まれた新生児は三歳ほどになると独立し、小型独身雄群、つまり少年団のようなところに加わる。さらに、十年ほどたつと今度は中型独身雄群（青年団のようなもの）に加わり、平均で25歳程度なつて精強な単独雄となり、この単独雄

のみが繁殖群にアクセスし発情している雌個体と交尾する。この交尾を巡っては各群からの代表選手的な単独雄同士が闘争を行うので、一種の淘汰が働き、ボトルネックを起こすことなく優秀な遺伝子を継承できるわけだ。しかし……だ。代表選手にならなかつた雄達はどうなるか？来年は代表になれるのか？これが謎だつたが、ある集団座礁の分析から漸く実態に迫れた。つまり、代表選手以外の雄はみんな死んで行っている。雄と生まれながら、一度も繁殖に参加することなく生涯が終わる。さぞかし無念だろうな。つまり、代表選手のための捨石つてわけだ。どっかの官僚社会にも似てるよね。こんなのはまっぴらだが、じゃーいきなり繁殖育児群の子供からの代表選手が育つかと言うと、そうはいかない。集団で生きていてこそ、飢餓も克服し、シャチやサメの捕食からも逃れられる。つまり、個体レベルで異なる特性もつた多様な多くの個体がいるからこそ、優秀な代表選手が出せる。だからマッコウクジラは

生物学的にも群を抜いて強い。つまりだね……。そして、解説しながらふと気がついた。ああ「都ぞ弥生」もそうそうなのか。「都ぞ弥生」はいわば精強な単独雄であり、その周りには趣きや特性の異なる数々の歴代寮歌があり、しかも旧制一高や三高寮歌と異なり、奇跡のようだが平成を23年も経過した現在でもリクルートし続けている。従つて、「都ぞ弥生」を頂点とする多様性指数抜群の持続的系があるからこそ、この北大小宇宙は頑強である……と考えた。そうしてみると、自らでも忘れそうな泡沫寮歌を作詞した自身の悶々たるわだかまりも、40年弱の時間を経てようやく昇華できたような気がする。

「都ぞ弥生」とそれを取り巻く北大小宇宙の100年を寿ぎたい。

*狭義には旧制高校35校と北大など3帝大予科を包括して旧制高校としている。

(神奈川県二宮町)

全小節版「都ぞ弥生」 寮舎オルゴールの制作

榊原 悟志
(S 55年入寮)

平成18年、私は、旧寮と現寮の移行期とともに過ごした寮友たちと、最終フレーズを繰り返し70秒で全小節を奏する「都ぞ弥生」寮舎オルゴールを制作し、100台を頒布しました。以下、O(オー)プロと名付けた事業の経緯です。在寮中、毎晩の寮務事務終了の際に聴いた「都ぞ弥生」オルゴールの音色をご記憶の諸兄も多いことでしょう。私の在寮時は農学部校舎型の箱で20秒程の短い演奏でした。私は卒業後も、全小節版の「都ぞ弥生」オルゴールはないものかと気になって仕方なく、平成14年10月19日、静岡の横山家菩提寺「長源院」での「都ぞ弥生」誕生90周年記念祭でも先輩諸兄に尋ねましたが、「過去にないし、今後制作販売は困難だろう」とのお話でした。そこで、「どなたも企画しないなら

自分で作ろう。」と思い、その冬、ニセコ温泉で短い休暇を共に楽しんでいた同期の佐々木欣也君に話したところ、熱烈な賛意を得、その場から即、以前「北大恵迪寮落書集」を自費出版した仲間の寮友たちに電話をして同志を募りました。翌年1月には我々2名の連名による「Oプロジェクト」期成趣意書を送付し、1口2万円の協賛金そして、各地のオルゴール館などで研究し、「都ぞ弥生」には15秒と25秒のオルゴール編曲が作られたが全小節版は存在しないことも分ったため、70秒のオルゴールを制作すべくオルゴールメカ製造会社と協働し編曲作業を開始しました。

編曲は、オルゴール向けに仮編曲されたサンプル音のテープや楽譜を協賛者たちにも送付し、感想や要望を求め、私が選択して変更を指示するという作業を複数回繰り返し、1年ほどで完成させました。オルゴールらしい華麗なアレンジを好む者もいれば、原曲どおりの単音を好む者もいて、大いに苦労しましたが、20

万円余の編曲補助料を支払ってもなお心地よい作業でした。

寮舎をイメージした箱の制作は、オルゴール制作専門会社と協働しました。箱にも協賛者たちの多様なこだわりがあり、のんびりと楽しんで検討しました。当初は長方形ではなく旧寮舎そっくりの屋根型まで検討してみました。

趣味の制作活動は3年余におよび、平成18年春にデザインを固めて試作に取り掛かりました。ところがその直後に、メカ製造会社の勇み足により、私たちの著作編曲を結果的に無断流用する形で北大製ポプラ材オルゴールが販売されてしまいました。そのため一時は、Oプロの中止・



オルゴールと榊原君

撤退も考えましたが、北大側が追加販売の中止を英断されたため、寮友たちの励ましを得て完成、申込み募集を開始することができました。平成18年6月末のことです。

オルゴールの仕様は、メカがオルフェウスの50弁、ドラム2回転で1曲を奏でる仕組みです。箱はウォールナット高級材を使用し、全体を第2代恵迪寮寮舎をモチーフにした金色シルク印刷としました。天板に寮章、前面に玄関と寮名看板、背面に「友たれ永く友たれ」の文字。その上に鏡面塗装を施した高級感あふれる仕上がりです。メカを覆うガラスカバーの上には小物入れとなるトレイ、ふた裏には「都ぞ弥生」歌碑歌詞の箔押しを施しました。外寸は24×14×11・5センチ、1・7キロです。

オルゴールの添書きには、後輩で芥川賞候補作家の佐川光晴君（昭和58年入寮）から想いのこもった一文も寄稿していただき、上質で品のあつた作品に仕上がったと今でも自賛しております。

予約価格33,915円、通常価格を38,000円としました。平成18年12月20日に発送を開始し、翌年5月17日新聞に紹介され、同時に現寮へ寄贈しました。勿論、横山、赤木両家にも寄贈しました。記事を見た外部のゆかりの方々からも個別の思ひ出物語とともに購入申し込みが多数寄せられ、同月完売しました。全収支は3万円の黒字でした。

ちなみに、この編曲は、既述の北大製と、私が編曲使用を了承し、現在恵迪寮同窓会が販売中のオルゴールでも聴くことができます（箱は全く別物）。正門横の北大交流プラザ「エルムの森」のBGMも似ているようです。いずれも編曲者には触れてみえませんが理由は存じません。私たちの寮舎オルゴールの再販は、またのお楽しみ、です。

寮歌オルゴールの話題はこれに尽きません。寮のマドンナ事務員、久美子さんから近年譲られた時計台型の話、半世紀以上昔の幻の品の話、農学部校舎型の話など。また、申し込まれた学外の方々からうかがっ

た、寮歌にまつわる古えの「恋」や「恩」なども、またいずれ。

（愛知県高浜市）

「都ぞ弥生」よ、とこしえに

木村 政明

（H元年入寮）

恵迪寮寮歌「都ぞ弥生」誕生百年おめでとうございます。私はこの世紀の節目に立ち会える喜びに、万感の思いで浸っております。

憧憬

私が北海道大学に入学し、恵迪寮に入寮するきっかけは寮歌「都ぞ弥生」の影響が大きかったと思います。とはいっても、高校卒業後すんなりと北大に入ったわけではなく、挫折を味わった末にたどり着いた理想郷でした。

中学校の修学旅行は北海道で、登別、白老、支笏湖、小樽、そして札幌を旅行しました。札幌では緑豊か

でどっしりとした西洋風の建物がある場所を見学。そこがクラーク博士の銅像が建つ北海道大学でした。当時は大学進学など考えが及ばず、ただ美しい大学という印象でした。

その後、青森高校を経て昭和60年春、早稲田大学理工学部に進学しましたが、部活と学業の両立に悩み、経済的な事情もあつて2年目の途中で退学しました。このため次は学費や生活費が安い国立大学の学生寮に入ろうと、その年は東北大学を受験しましたが不合格でした。

当時、実家で飼い猫が難産の末に死亡、やっとのことで生まれた子猫も懸命の飼育にかかわらず小さな命を絶ちました。このことがきっかけで動物の勉強をしようと思ひ、翌年、北大獣医学部に進学できる当時の理Ⅲ系を受験しました。勉強の合間に旧制高校寮歌集のカセットテープを聞き、英気を養いました。数ある寮歌の中でも「都ぞ弥生」は格別に心に沁み、北海道の厳しくも美しい自然を格調高く謳った歌詞と、滔々と流れる悠久の大河のような大らかな

旋律が調和する名曲だと思いました。そしてこの「都ぞ弥生」を生んだ恵迪寮に憧れました。

昭和63年春、北大理Ⅲ系に合格、記憶の中の美しい北大は今や私の母校で、「都ぞ弥生」は私の精神的支柱となりました。しかし、恵迪寮に入寮するというもう一つの夢は獣医学部進学まで我慢することになりました。当時、理Ⅲ系の一番人気、獣医学部に進学するため一年間は入寮せず、北大の近くに間借りして教養に通いました。

疾風怒濤

一年目を終え、獣医学部に進学できる目途が立ったため、平成元年春、念願の恵迪寮となりました。それからは「都ぞ弥生」を始め、恵迪寮歌を数多く歌い、酒も、たくさん飲みました。寮では夜中まで続く、あるいは夜中から始まる様々な会議がありました。先輩、同輩又は後輩と議論し、考え方の違いに戸惑ったこともありました。自治寮を目指し大学当局との闘争などみんなで一緒

になって行動する団結力の強さを感じました。入寮以来、いろいろなことが毎日のように起き、時には寮生活の辛さに負けそうな時もありましたが、寮生同士肩を組んで「都ぞ弥生」を歌うと、「寮生活はやはりいいなあ」と思い直しました。

入寮後の学生生活はこのように正に疾風怒濤でした。同年秋季に獣医学部に進んでからは勉強が忙しくなり、再び寮生活と勉強との両立が課題となりましたが、3年生の時期に、平成2年度寮歌「我楡陵に―行秋哀歌―」を作詞しました。この寮歌は夕方寮への帰り道で眺めた、夕陽の沈む手稲山の美しさに感動し、また、中国で起きた天安門事件も念頭に置いて、大自然の摂理に対する人の世の無常を対比させ、それでも未来を担う若人に期待する歌です。「都ぞ弥生」を超える寮歌を作ろうと、あれこれ詩作に耽りましたが、とうとう凌駕することはできませんでした。改めて「都ぞ弥生」は完璧で、素晴らしい寮歌であることを実感しました。

4年生になると、卒業研究に向けた基礎的研究で勉強に集中するため、平成3年夏、恵迪寮を一旦退寮し、再び間借り生活に入りました。5年生も半ばになると授業がなくなり、卒業研究を残すのみとなったので、平成4年夏、約1年ぶりに恵迪寮に再入寮しました。旧来の寮友は相変わらずの友情で接してくれ、また、初めて会う後輩は温かい歓迎してくれました。恵迪寮に戻ることができ、とても嬉しかったことを覚えていています。

平成5年初夏、母校の青森高校で教育実習に入り、生徒たちへの最後の挨拶で、「都ぞ弥生」を放歌高吟し、彼らを励ました。

卒業研究をやったのことで完成させ、獣医師国家試験も奇跡的に合格し、平成6年3月、晴れて獣医学部を卒業しました。恵迪寮の追い出しコンパでは凶らずも答辞を述べる役になり、これまでの寮生活や一緒に暮らした寮生に感謝する言葉を述べました。式の最後にみんなで肩を組んで歌った「都ぞ弥生」は今でも忘

れられません。さらに故郷に帰るため札幌を離れる夜、私の見送りのため札幌駅に20名以上の寮生が集まってくれました。私への激励の後、夜行列車の発車に合わせてみんなで「都ぞ弥生」を歌ってくれました。私は感無量の思いで歌に聞き入り、紆余曲折を経て最後は恵迪寮生として北大を卒業できた喜びに浸ったのでした。

追憶

恵迪寮を去って18年経ちましたが、私にとつて「都ぞ弥生」は今でも青春の歌です。心のふるさと北大のなつかしい風景を思い浮かべるとき、自然とメロディーが心に浮かんできます。北海道の自然を鮮やかに謳いあげ、クラーク博士が残した野心の教訓の大切さを説き、恵迪寮を讃えて終わる、この「都ぞ弥生」には不思議な力があります。それは、若者を北海道にいざなう力、若者に大志を抱かせる力、そして現役恵迪寮生を始め恵迪寮で過ごした全ての北大生の心を一つにさせる力ではな

いでしょいか。私が北大に入学し、恵迪寮生となり、獣医学部を卒業して青雲の志を遂げることができたのも、この「都ぞ弥生」の歌の力の賜物だと思います。卒業の際にいただいた「都ぞ弥生」の拓本は、今でも私の宝物です。

「都ぞ弥生」よ、ありがとう。これからもとこしえに、北を目指す若者にとつて、そして恵迪寮に集う北大生にとつて、限りなき前途を明るく照らす北極星のごとき歌であれ。

(青森県青森市)

復興支援「お茶キャラバン」

被災者に寄り添う恵迪寮OB

松本 靖治

(H5年入寮)

今年1月4日から約3週間、東日本大震災の被災地で「震災復興お茶キャラバン」と名付けた被災者支援のボランティア活動を実施しました。このお茶キャラバンでは、津波の被害の大きかった岩手県北部を出



キャラバンで巡ったルート

発し、原発事故の影響のあった茶産地・神奈川県南足柄まで約2000キロを移動し、37か所の仮設住宅集会場などで41のイベントを実施、1300人以上の被災者にお茶やお菓子をふるまいました。

今回のお茶キャラバンは、多数の恵迪寮OBの多大なる協力があつたからこそ実現でき、成功したと思っ
ています。例えば福島市松川町では、
現地で農場を営む植木貴昭氏（S56
年入寮）をはじめ福島県内在住の寮
OBの協力により、地元住民と、避
難してきた飯舘村の仮設住宅住民と
の親睦を図る「交流イベント」が実
施できました。この交流イベントに
は、飯舘村村長をはじめ約600人
もの方々が来場されました。

また現役寮生では、元寮長の松尾
駿介君（5年目4年生）もドライバー
を務め約1000キロの行程を走破し
てくれました。そして今回、キャラ
バンに参加できなかった寮OBが中
心となり、160万円以上の募金
を集めて頂きました。

今回のお茶キャラバンで痛感した
こと……。それは人智を超えた未曾
有の災害を前に人間はあまりにも無
力であること。そして困難に直面し
ている人々にかける言葉を僕たちは
持ち合わせていません。そんな状況
の中で唯一できることは、被災者に
“寄り添う”ことでした。そして“寄
り添う力”を後押し、被災者を癒し
てくれたのが一杯のお茶でした。

大災害を前に無力な自分達です
が、これからも被災地の方々に恵迪
寮の仲間と共に寄り添っていきたく
と思っています。

（京都府和束町・おぶぶ茶苑副代表）



福島市松川町で開かれた被災者支援の交流イベント

熱血の人 厚谷純吉君を悼む

高井 宗宏（S31年入寮）

厚谷純吉君は、平成24年2月18日に享年76歳で永久の眠りにつかれた。同窓会は若い後輩達が担って益々発展させてくれるの信じ、心おきなく「都ぞ弥生」を歌い、同窓会をいつまでも見守って下さるよう願って心からの哀悼の意を表す。



厚谷君は、その2か月前までお元気で、毎月第3火曜日に開かれる放談会「三火会」に皆出席し、来し方から同窓会のあり方、さらに「都ぞ弥生」百年記念祭を盛大にする事業内容まで楽しく懇談されていた。突然の悲報に接するとは想像だにできず、特に奥さまから「せめて6月の記念祭には出たかった」と言い残されたと聞くと、もう半年でも長生きして仲間と肩を組んで「都ぞ弥生」を声高らかに斉唱して欲しかったと思う。さらに本同窓会は、発起

人会の代表の幸健一郎君を平成19年の恵迪百年記念祭で、厚谷君を「都ぞ弥生」百年記念祭を目前に失ったのは、大きな痛手であり、誠に残念である。

厚谷君は、昭和30年に恵迪寮に入寮し、翌年6月に恵迪寮第157期執行委員長となり、秋の「北大創基百周年記念事業」を裏支えされてリーダーの地位を確立された。その後、彼は札幌医大から道立保健所長への道を選び、北海道保健衛生部長時に全道の保健衛生面の組織改革に大きな成果を上げられたと言う。そして昭和58年の本同窓会を結成時に「『都ぞ弥生』精神の継承を目指せ」との持論を持って主要役員に就任された。特に高金利時代に設けた終身会費制度が破綻して会の解散も余儀ないという危機を迎えると、彼は経営改善の部会長となって運営支援金制度を提案して全国を回り、今日の活発な同窓会につながる組織基盤の整備をされた。さらに会議では、恵迪OBの習性なのか、議論好きでいつも堂々巡りになりかねないが、彼が両者の意見をじつと聞き、誠に巧妙に誰も異論のない結論を導いて仲介されたばかりか、先輩らの説得も得意とし、今日までの同窓会活動は、彼の潤滑油的な役割なしでは成り立たなかつたであろう。

本同窓会は、世代交代を進めながら、新たな発展を求められているが、この時にリーダー厚谷君を失った痛手は計り知れない。しかし、残された者達は、偉大な「都ぞ弥生」とクラーク精神を身を以て継承しており、これまでに以上の危機があっても乗り越えて行くと報告して追悼の言葉とする。

（恵迪寮同窓会副会長）

「都ぞ弥生」百年記念事業協賛者ご芳名録

昨年7月と本年2月に本会会員の皆様へ「都ぞ弥生」百年記念事業と記念祭ご協賛願いを差し上げたと、約500名の方々からご協賛頂き、また、開拓の村旧寮舎の名札募集にも350名の応募を頂きました。誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

皆様のご協力により新入生への「都ぞ弥生」CDの配布を初めとする記念事業も順調に遂行することができました。また、6月9日の百年記念祭も延べ1000名を超える参加で大成功に終えることができました。残る記念事業の映像作品「清き國ぞとあこがれぬ」制作も来春の放映を目指し撮影などが始まりました。百年記念に相応しいメッセージ性のある作品を世に送り、新しい「都ぞ弥生」の始まりとしたいと存じます。

以下に、ご協賛いただいた方々及び会社・団体などのご芳名を記録し、領収のご報告に代えさせていただきます。

「都ぞ弥生」百年記念委員会 会長 横山 清

「都ぞ弥生」百年記念実行委員長 白浜 憲一

〔昭和10～23年入寮〕

(S 10) 柴田 勝、河合 惣吾、宍戸 昌夫、(S 11) 吉野 照蔵、赤澤 敏行(旧 木村)、(S 12) 青木 清、千野 純之、今村 昌耕、三浦 和郎、(S 13) 南 福市、吉田 敬一、杉村 興作、(S 14) 駒田 盈郎、竹村 伸一、(S 15) 岩田 善輔、山本 善蔵、辻 五朗、(S 16) 上平 林作、柳 治一、清水 由次、塩田 敬司、(S 17) 小篠 守正、堀江 晋次郎、松代 平治、北澤 馨、森 敬、樋田 成二、小沢 久弥、手島 正博、(S 18) 佐藤 豊、河野 文弘、松野 宏一、安井 勉、小野 昌信、(S 19) 渋谷 富業、橋本 亮二、大島 寛一、本間 政治、寺井 幸夫、内田 一郎、高橋 政巳、(S 20) 村井 玄乙、多田 邦雄、谷川 弘、中村 勝美、村野 順三、村田 孝雄、宮坂 正昭、飯田 喜俊、新沼 奎彦、林田 照明、吉村 誠治、角田 和夫、石川 政幸、矢田 友之、佐藤 鋤二郎、碓 康彦、(S 21) 村上 忠司、馬場 隆、石金 昌晴、石坂 實、鳥居 昌男、能勢 誠夫、(S 22) 鈴木 昭、杉本 辰夫、大橋 雄六、藤井 義彦、須藤 修方、有波 敏明、森谷 長能、阿澄 昌夫、(S 23) 佐藤 哲、児島 仁、松浦 清、伊東 嘉弘、瀬戸 賢太郎、菊地 敬夫、藤野 俊郎、柏葉 武、黒田 治、澤山 豊、鈴木 博之、中村 秀、古谷 健太郎、本間 一一、和田 一明

〔昭和25～34年入寮〕

(S 25) 田村 久仁夫、石上 勇、小野 求、上山 英一、白石 重治、筒井 澄、中島 光男、西田 信也、(S 26) 沼田 久、澤井 寿一、米山 忠雄、溝口 博、笹谷 宣志、木下 栄三、布川 欣一、水庭 久尚、羽染 一男、三野 昇、中嶋 利男、近岡 貞志、河原 克美、二川 義昭、増子 忠恕、樋口 忠幸、吉井 誠、平石 修、福井 英一、室田 昌幸、中瀬 篤信、(S 27) 宮下 進治、山本 善久、藤倉 孝夫、千葉 眞雄、川元 功、羽田野 六男、鈴木 尚、松浦 博、澤井 廣之、島田 寛、阿部 寿雄、大園 雍彦、金山 尚武、千田 哲生、種田 忠夫、俵 浩治、出口 廣志、中澤 邦春、松崎 貞夫、平澤 峻、(S 28) 村山 幹夫、福原 裕治、横溝 幸治、矢吹 昌美、加藤 雄志、井口 光雄、小泉 守、須賀 正太郎、藤森 末彦、(S 29) 篠原 猛、中田 徹、鈴木 勝男、稲澤 智明、矢野 多郎、山崎 寛志、荒木 武夫、岡部 賢二、市川 茂、川端 陸夫、近藤 智雄、井本 逸夫、(S 30) 向井 成司、酒井 誠一郎、笹尾 琢磨、水島 典弘、川嶋 恒二、高橋 陽一、岡田 廣司、矢島 敏克、山田 斌、末永 義圓、秋野 豊明、厚谷 純吉(故)、伊東 孝、飯塚 敏彦、中川 勉夫・父の分と、古屋 邦夫、村井 亨正、森松 良光、(S 31) 河野 民雄、小林 征、柴田 俊夫、浦崎 永徳、細萱 安彦、三原 藤正、山本 哲也、干場 一正、萩原 莊平、永楽 謙五、西沢 郁夫、石橋 健、上田原 偉雄、梅田 芳昭、小笠原 孝之、加藤 秀一、亀貝 一義、桐生 芳郎、工藤 宏、桜庭 慎吾、佐藤 允克、菅野 祐治、高井 宗宏、長谷川 孝太郎、堀 泰晴、前島 一淑、山下 貴正、山田 時夫、横山 清、(S 32) 和 孝雄、小林 三樹、田中 信義、吉田 康夫、島袋 全功、塚崎 喜壽、湯浅 亮、堀 義彦、玉置 和宏、寺崎 晃、長谷川 久、新井 三郎、石川 瞬(故)、下村 正彦、杉山 一武、関谷 日出夫、高野 豊、筒井 公、橋場 孝、深谷 勲、星野 英二、三島 史朗、山崎 克彦、山中 義正、渡邊 誠、神 英樹、(S 33) 藤田 光雄、新淵 昭光、渡辺 正朋、南 勝、神田 榮夫、住吉 幸彦、小笠原 良之、坂本 亘、中村 晴彦、若山 喬史、山田 正幸、相田 学、田中 館 栄

喜、松山 哲三、間中 俊夫、菅野 溥記、合田 寅彦、阪元 兵三、中田 邦雄、野崎 恭弘、伊藤 洋一、桶 直義、北野 博、城田 昌良、(S 34)黒川 武、松本 威、工藤 哲也、太田 博視、遠山 博史、大橋 晃、内藤 拓、安間 元、太田原 高昭、川端 正紀、関 稔、古谷 修

〔昭和 35～40 年入寮〕

(S 35) 藤城 清司、堀内 成浩、菊地 寛、佐久間 利夫、関根 忠雄、多田 雅文、鈴木 道雄、上江洲 安宏、藏谷 幸榮、清水 宏、寺尾 精二、山之内 久義、(S 36) 伊達 崇秀、竹本 悠二、桐田 豊正、嶋田 誠、福井 徹也、近藤 忠実、三戸 猛義、斉藤 国和、市川 紀行、(S 37) 諏訪 正明、今井 久雄、金 武彦、根岸 正充、江川 良武、織田 健三、浦口 勝美、平良 健康、後藤 尚司、石川 戡、石本 征一、泉 定明、伊藤 博夫、大木 捷利、小島 洋一、新蔵 利熙、田口 光彦、六宗 一征、藤井 洋治、丸銭 詔司、向山 征哉、(S 38) 佐藤 史夫、沖田 紘昭、秋野 隆英、安彦 和之、片桐 政司、戸沼 昭平、武田 雷介、石井 豊彦、小野 剛、藤田 正一、石嶋 紘、伊藤 靖久、氏平 増之、城戸 勝利、佐藤 市雄、佐藤 征夫、里見 義昭、田中 利勝、田村 誠一、松尾 憲道、(S 39) 上戸 鎖 邦雄、芳賀 嘉幸、鈴木 修六、関口 光雄、真野 勇、魚山 和春、春日 清一、長浜 秋良、天形 博茂、菊間 征司、金正出、佐竹 正治、四方 純、鳥潟 肇、南部 攻一(故)、西田 昭夫、山田 秀司、吉田 健、(S 40) 白浜 憲一、山口 千里(故)、亀田 郁朗、石村 義典、佐藤 信雄、関根 喬雄、今 繁、菅沼 武治(旧 染谷)、三宅 康雄、成ヶ沢 憲太郎、岩本 孝一(故)、上坂 佳則、大隈 昭二、大野 泰熙、嶋田 憲一、武市 博、千川 浩治、内藤 春彦、平田 更一

〔昭和 41～57 年入寮〕

(S 41) 須藤 洋一、鈴木 博史、岩渕 実、神川 一俊、阿武 和夫、入江 和彦、采 猛、勝山 真吉、木村 正博、今 重一、茶碗谷 享、春名 敏弘、八重樫 幸一、(S 42) 佐々木 宏治、井出 秀三(故)、中道 育夫、(S 43) 添田 茂、大沼 博良、望月 利孝、佐々木 信廣、山科 直利、村上 昭男、瀬尾 寛、岩瀬 謙一、中村 一孝、梅田 耕一、小池 秀正、稲葉 廣次、中島 正喜、西田 強、皆川 吉郎、(S 44) 小倉 清春、小栗 重明、坂倉 雅夫、植松 高志、高瀬 晴久、鶴渕 精一、光井 久、岩本 栄一、(S 45) 松浦 昇、山内 泰雄、北村 志朗、小原 隆夫、藤長 恭常、矢嶋 啓司、川村 直之、中島 敏夫、吉沢 武治、松村 千春、(S 46) 吉田 次夫、木村 成二、加藤 秀弘、清野 修、長久保 敏雄、(S 47) 表 芳弘、国乗 正夫、佐藤 文雄、今野 隆彦、滝 邦久、福永 徳三郎、(S 48) 久下 真一、中紙 麦平、後藤 健、神保 重孝、松岡 繁幸、大森 秀治、加藤 守克、山本 郁夫、(S 49) 荒木 隆夫、川瀬 和博、水野 達男、渡辺 修、(S 50) 小木 聡、(S 51) 塩井 孝、小林 次郎、高橋 秀樹、土井 俊一、富久 日出男、安田 健治、(S 52) 田子 真、川村 信也、(S 53) 家村 明宏、竹田 幸宏、竹下 忠彦、小寺 収、(S 54) 山本 隆昭、(S 55) 尾田 智彦、関 邦彦、佐々木 欣也、榊原 悟志、(S 56) 稲葉 慶一郎、加藤 千恵次、(S 57) 植木 貴昭

〔昭和 58 年～平成入寮〕

(S 58) 原澤 辰明、(S 61) 鈴木 清史、(S 63) 木村 政明、(H 03) 竹原勝司、(H 07) 長谷川 健、原 幸弘、(H 08) 渕上 玲子、(H 19) 植村 敬一 (以上 466 名)

〔寮外生、他〕

(初代会長ご子息) 大原 洋一、(北大) 弓巾 和順、伊藤 茂男、本間 利久、(寮外) 小菅 高之、村山 邦彦、池田 雅彦、小口 正持、和知 弥生、五十嵐 三津雄、抗田 嘉夫、岸 玲子、鷺頭 隆、手島 肇、町田 正人(寮外生)、海谷 正道、樋口 達夫(大塚)、法学部同窓会(相馬 秋夫)、北大東京、大塚ホールディングス、川越 幸江、モリ ナツコ (以上 22 名・団体)

〈敬称略〉

校歌「永遠の幸」のルーツをたどって

講師 野呂雅之君（S51年入寮）

恵迪寮では豊かな原始林に抱かれた南寮の主に「S下」で暮らしました。春になると、水芭蕉が咲き、カツコウがやってきました。

その思い出深い恵迪寮の開識社で、母校の校歌「永遠の幸」について語る機会を与えていただき、感謝しています。

いま朝日新聞で論説委員をしていて、朝日新聞の紙面で「永遠の幸」について書いたのですが、本題に入る前に校歌に対する私の思いを少しお話させていただきます。

大学時代は自分の将来を見通すことができず、卒業直前の2月まで就職が決まっていませんでした。そんな時、水産ラグビー部の部長だった鈴木恒由先生に「野呂、おまえ就職

決まってるないんだろ。北水のOBが〃人買〃に来るから、サクラでいいから出席してくれ」と言われました。サクラで出席した会社の就職説明会で履歴書を書く時、10日ほどして内定通知が届き、悩んだ末にその大阪の冷凍機製造会社に就職しました。

この仕事を一生続けるのか悶々とするなかで、試用期間を終えて正式採用される10月が近づいてきました。就職したその年、1981年の9月下旬、月刊「文芸春秋」10月号で「フアニア 歌いなさい」という記事を読みました。

フアニアはフランス系ユダヤ人、第二次世界大戦でナチスのアウシュビッツ収容所に連行されました。彼女はユダヤ人による楽団のリーダー

になり、仲間に対し「歌いなさい。歌っていれば生き延びられるのよ」と言い続けてきました。

連合軍がアウシュビッツを解放した日、やせ衰えたフアニアはイギリス軍の兵士に抱き留められ、母国の国歌「ラ・マルセイユ」を歌ったのです。私は大きな衝撃を受けました。生死の淵にあるとき、歌う歌があること、その歌が国歌であることに衝撃を受けたのでした。そして「俺に、歌う歌はあるのか」と考え込んでしまいました。

日雇い生活から新聞記者へ

その日の夜、今日しかないと考え、辞表を書きました。会社を辞めても、飯を食っていかなくてはいけません。結局、日雇いの生活になり、神戸市垂水区で三畳一間のアパートで暮らしました。垂水には私の母校の星陵高校があり、高校の後輩が近くのゴルフ場でキャディのアルバイトをしていました。当面はそのゴルフ場で働こうと考えたのです。



西日本支部開識社で講演する野呂君

ちなみに星陵高校のラグビー部長だった武川恒也先生は恵迪寮のOBで、北大ラグビー部の昭和40年度の主将です。恵迪寮、楡影寮で暮らし、理学部数学科を卒業されました。私の仲人でもあります。

日雇い生活が1年も続くと、さすがに気持ちが悪くなることもありますが

した。そんなとき、自分を励ましために歌ったのが、校歌「永遠の幸」でした。フアンニアにとって歌ったのは母国フランスの国歌でしたが、私にとっては「永遠の幸」だったので

私は音楽ができませんし、絵もうまくはありません。手先が不器用なため大工といったような職人になれそうもありません。日本人なので国語はできるので、新聞記者ならなれるのではないかと考えたのですが、少し理屈を言いますと、新聞記者は「正しいことを正しいといえる」仕事ではないかと考えたのが一番の動機でした。

1983年、産経新聞に入社。26歳になっていました。その8年後、朝日新聞に移籍してからも、社会部で事件記者が長く、「夜討ち 朝駆け」といわれる生活でした。夜中に電信柱に隠れ、不審者に間違えられて110番通報され、職務質問されたことも二度や三度ではありませんでした。

そんな生活でしたが、私は「永遠の幸」を歌うことはほとんどありませんでした。事件記者の特ダネ競争はかなり厳しい仕事ですが、天職とも思える新聞記者になって、自分を鼓舞するために「永遠の幸」を歌う必要はなかったのです。

社内企画「うたの旅人」に応募

本題に入ります。朝日新聞土曜版の企画「うたの旅人」に、校歌「永遠の幸」が載ったのは2010年11月27日。その企画に登場させる歌の社内公募があり、迷わず「永遠の幸」を推しました。ただ、さすがに母校の校歌そのものでは気が引けたので、「永遠の幸」のメロディーとなった南北戦争の北軍行進曲「Tramp, Tramp, Tramp」で応募しました。応募のレジュメは次のような内容にしました。

——南北戦争の北軍の進軍歌「Tramp, Tramp, Tramp」は、札幌農学校の校歌「永遠の幸」のメロディーになり、さらに同志社大学ラ

グビー部の応援歌「若草萌えて」のメロディーにもなった。札幌農学校の初代教頭は「少年よ、大志を抱け」で知られるクラーク博士で、同志社大の創始者である新島襄は米アームスト大でクラーク博士に師事した最初の日本人。クラークゆかりの2つの学校で同じメロディーの歌が生まれたのは偶然ではなく、しかもクラーク博士は北軍の大佐をしていた。

「Tramp」のメロディーは、アイerlandにも伝わり、彼の国の準国歌といわれる「GOD save Ireland」にも使われた。アイerlandは1840年代のジャガイモ飢饉で餓死者を出し、新天地アメリカに多くの人が移民として海を渡った。その移民たちは南北戦争で北軍の志願兵として従軍し、母国に戻った移民たちがメロディーを伝えたのだろう——

実はレジュメは、北大の広報誌「リテラポプリ」に文学部出身で野球部OBの古川俊実さんが書いた「ダブリンで校歌を聴いた」という記事の

内容を拝借したもののなのです。古川さんは朝日新聞OBでもあって、さすが元新聞記者が書いただけに非常によくまとまった記事でした。古川さんのいわばタネ本があるので、「うたの旅人」の原稿はたやすく書けるだろうと考えていたのですが、それは甘いということをすぐに思い知らされました。

転機となったのは、北大農学部OBで双日総合研究所社長の多田幸雄さんに出会ったことでした。多田さんは米国で南北戦争を再現する模擬戦に何度も参加していました。模擬戦では夜になると、陽気なアイリッシュが歌うのですが、南北戦争当時の歌がたくさん日本に伝わり、同じメロディーを使った歌が何曲もあることに多田さんは驚いたといえます。

そんな歌のなかに、「Tramp, Tramp, Tramp」があったのです。

「Tramp」の作曲者であるジョージ・ルート（1820～1895）は同時代の音楽家フオスター

をしのぐ人気だったといわれ、南北戦争が始まるといち早くリンカーン大統領支持を打ち出しました。開戦2日後から北軍を励ます歌をつくり、戦時中に35曲のヒット曲を生み出したといえます。

南北戦争の行進曲 有島の恩師が選曲

その旋律が日本に入ってきたのは意外に早く、札幌農学校開校の前年である明治8年。近代国家をめざす明治政府は明治20年にかけて西洋諸国の楽譜を大量に購入し、「Tramp」は最初の買い入れ書に登場しています。この曲は米国でいくつも歌詞の違う歌が生まれ、教科書にも載りました。そうした「文部省買入楽譜」は国会図書館が所蔵しています。

日本でも「Tramp」の旋律は人気になり、唱歌や軍歌に転用されました。明治期を代表する音楽家だった納所弁次郎が編集した「日本軍歌」には、「学びのみち」という軍歌として載っています。

納所弁次郎は「桃太郎」「うさぎとかめ」などの唱歌の作曲者でもあり、明治21年に学習院助教教授になって、小学校にあたる予備科で「唱歌」の授業を担当していました。

学習院といえは有島の出身校で、納所が助教教授になった年、有島は予備科に在籍していました。納所に唱歌を習った可能性は高い。その翌年に有島は中学科に進んだため、納所との交流はあっても一年だけと思われませんが、かつての恩師に校歌の選曲を頼んだとは考えられないだろうか。

校歌をめぐるこうしたエピソードを記事にまとめたのですが、もうひとつ重要なことを取り上げました。

新渡戸稲造が明治27年、私財を投じて設立した「遠友夜学校」のことです。当時の北海道は児童の就学事情が非常に悪く、小学校に通っていない子どもは3割とも4割ともいわれていました。新渡戸はそうした子どもたちに無償で教育を受ける機会を与えたいと考え、「遠友夜学校」を

設立したのでした。学費も教科書代も無料で、先生役は札幌農学校の教授陣や学生たちがこれも無償でつとめました。

昭和19年、開校からちょうど50年の節目の年に「遠友夜学校」は幕を閉じました。学生たちが学徒出陣で戦地に駆り出されて先生がいなくなってしまうこと、さらには軍事教練をしない夜学校が軍部から睨まれたというのも閉校の理由だったに違いありません。

ともあれ、半世紀にわたって貧しい家庭の子どもたちの教育を文字通り手弁当で担ってきた「遠友夜学校」は、札幌農学校そして北大の良心だった、と深い感銘を受けました。

有島武郎は校歌「永遠の幸」に先立ち、「遠友夜学校」の校歌もつくっています。その校歌は9番までありますが、夜学校で学んだ生徒たちは校歌を後々まで覚えていたといえます。「正義と善とに身をささげ 欲をば捨てて一筋に」。こう歌う5番の歌詞が好まれたといいますが、そ

の歌詞には有島の人柄がよく表れているからでしょう。

謎として残ったこともありました。北海道文学館理事長の神谷忠孝さんは元北大文学部教授で、有島武郎研究会の主要なメンバーの一人。しかも恵迪寮OBで、ラグビー部の先輩でもあります。神谷さんは校歌



掲載された紙面を手に熱弁を振る講演者

「永遠の幸」について、こう話されました。

有島の無理心中で禁止歌にも？

「恵迪に入つて寮歌指導のとき、先輩から『この校歌は歌いたくても歌えない時代があった』と聴かされた」
有島武郎は大正12年、中央公論社の記者波多野秋子と心中した。45歳だった有島は妻を亡くして独身、29歳の秋子には夫がいた。

人妻と心中した者のつくった歌としてはばかれ、歌うことが禁じられたのではないか。そう命じたのは初代学長の佐藤昌介ではないか、というのが定説になっているように思えました。しかし、北大の資料館で当時の学内新聞や資料を当たりましたが、佐藤昌介が禁止歌にしたという証拠は見つからず、記事の中では「伝説」として紹介しました。

もうひとつ、同志社大学ラグビー部の応援歌「若草萌えて」についても触れました。

「若草萌えて」はいまラグビー部で

は歌われず、大学全体の応援歌になっていて、さらに同志社の中学や高校の応援歌でもあるのです。全校の応援歌になったとはいえ、歌詞をつくった人、作者は誰かわかつておらず、そもそも制作年もわかつていません。

我々が母校の校歌「永遠の幸」にこめる思いと、同志社のみなさんの「若草萌えて」への思いとではずいぶん違いがあると感じました。

同志社には札幌農学校への憧憬と羨望、優越感という複雑な感情があるのも取材を通じて感じたことでした。

新島襄は日本人ではクラーク博士の最初の弟子です。ところが、同志社は、札幌農学校すなわち北大ほどクラーク博士と濃厚な関係を築いてはいません。最初の弟子という優越感、その一方で北大ほどの深い絆で結びついてはいないことからくる羨望と憧憬。同志社の人々は複雑な心境なのでしょう。

余談になりますが、明治末から大

正にかけて、同志社は札幌農学校ゆかりの人々を非常勤の講師として招いています。内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金梧、そして「永遠の幸」の作歌をした有島武郎。同志社はその当時からクラーク博士ゆかりの札幌農学校に憧れを抱いていたに違いありません。北大よりもむしろ同志社のほうが今も札幌農学校、クラーク博士の研究は盛んといえます。

そうしたエピソードをまとめ、校歌「永遠の幸」のルーツをたどる旅を終えました。

(朝日新聞大阪本社論説委員)

「Be Gentleman」という教え

第299期執行委員長 加藤 友彬

(H23年入寮)

「Be Gentleman」。恵迪寮で暮らしているこのクラーク博士の言葉を実感します。先輩たちもご存じの通り恵迪寮はとても自由でいろいろなことが出来ます。その中で、自分たちを律しているものは皆で決めたルールです。しかし、ルールを細かいところまで決めておらず罰則もありません。そこから先は個人の倫理観に委ねています。その中で恵迪寮という学寮が昔と変わらない姿を保っているのは、このクラーク博士の言葉が僕たちの心に根付いているからだと思います。これから先、社会に出ていく僕たちに色々な挫折や困難が待ち構えています。同窓会の先輩方も体験されたことと思います

が、その際に役に立ったのは「Be Gentleman」という教えではなかつ

たでしょうか。寮で培ったこの教えの下に行動すれば真なる迪みちは開かれると、僕はそう信じています。

僕たちは恵迪寮で今も変わらず自治を行っています。寮を取り巻く状況は時代で違いますが、日常での部屋員との会話や代議員会での夜通しの議論などの光景は今も昔も変わっていないと思います。そして、その楽しさや経験が自治を続けている原動力となっています。これまで恵迪寮同窓会の先輩方が創り発展させてきた「Be Gentleman」という恵迪寮の根本は何一つ変わっていないはず

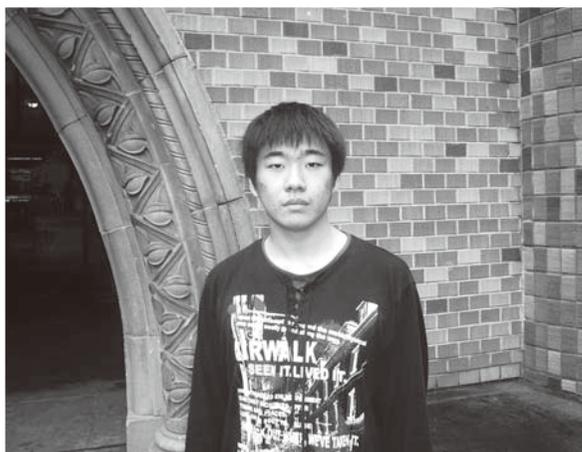
です。

この先、恵迪寮も様々な困難や難問が立ちはだかることでしようが、その中で教えを忘れずに行動していけば、そうした困難を経験に変えて

克服していくことが出来ると思います。

「Be Gentleman」という教えに誇りを持ち、次の世代に伝えていくことで、この恵迪寮という素晴らしい環境を守っていききたいです。

(農学部農業工学科3年)



総合博物館前で加藤君

平成23年度 寮歌 「広がるはただ青き旅路ぞ」

作詞 安田 龍平 君（H19年入寮）
作曲 我如古 弥司 君（H22年入寮）

作詞の安田龍平君（23）は秋田県出身で、入学、入寮と同時に応援団に入り、在寮中、先輩から譲り受けた弊衣、ぼろ着で通したつわものだ。今春から北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻に進み、トレードマークの大きな体に明るい性格で仲間からの信頼も厚い。

入寮以来、寮歌集に載る寮歌を作るのが夢で、これまで3回応募、ようやく「三度目の正直」で念願を果たした。作詞した「広がるは——」は7曲の応募作の中から選ばれた。

入学以来、経験した喜びや悲しみ、悩みなど5年間の出来事を、自分らしい表現で、抽象的な言葉を選びながら作詞したという。安田君は「この歌が将来も歌い継がれるかはまだわかりませんが、同時代に寮生活を過ごした仲間達の記憶に残ってもらえればうれしい」と語っている。

一方、作曲の我如古弥司君（19）は、沖縄県那覇市出身の理学部数学科専攻の2年生。彼の作曲方法が変わっている。アメフトの応援の帰り道、友人が携帯で送信してきた「広がる——」の詞が、たまたま見上げた空のイメージにぴったりで、思わず即興でメロディーをつけ、携帯の音声録音機能に吹き込んだという。

これまで作曲の経験がないため、メロディーを五線譜に落とさず、MDで応募したという今時の表現方法である。「先輩の詞意が生かされたかどうか不安でしたが、選ばれて本当にうれしいです。これからも歌い継がれるために何とか譜面を作ってみます」と喜んでいる。



作曲の我如古君（左）と作詞の安田君

「広がるは ただ青き旅路ぞ」

安田龍平君作詞 我如古弥司君作曲

春風吹きゆく原始の森に
吾れ微睡みて 酒宴して
逍遙すれどもその歩は止まず
危急の時代にあればこそ
渦巻く疾風吾が勇を呼び
怒濤は汝れに義を求む
今ぞ吾等が誠を奮い
高唄いて進まん 青き旅路を

一
星は昂々 美稲越えて
玉黍を食む 旅鳥や
染まず彷徨う 其が白羽に
斗星と大志の結ぶ瞬間
広がるはただ青き旅路ぞ

二
花は灼々 壊撃つ酔いを
君影草の鈴音にきく
さればこの掌を 春陽高く
翳して情熱を うち燃やし

濃緑に萌ゆ 白花に誇らん

三

月は朧々 輝光は幽か
梢叢わけて 川に落つ
水面に透く きみが底に
己が混濁を うつし見て
孤月仰ぐ子よ 誰が為に泣く

四

雪は皚々 大地軋めて
氷嵐まさに 街を呑む
無明の曠野に 巨熊眠るも
弦を矜持と爪弾けば
嗚呼黎明に 吹雪も霧散す

五

宙は悠々 逍遙の果て
芝草を枕に 銀河を抱く
有情の声に 朋友和す寮歌を
讃えて天宙を 見上げば
広がるはただ 青き旅路ぞ

寮歌研究 その一

「都ぞ弥生」が生まれた100年前の時代相

(平成24年1月6日、北大東京同窓会エルム談話会での講演から)

古川 俊 実

(S31年入寮)

「都ぞ弥生」の誕生

最初に「都ぞ弥生」について。「都ぞ弥生」の寮歌としての本質は前島一淑さんが話しますので、外形的なことに絞ります。

日本の帝国大学の始まりについておさらいをすると、東大1886年(明治19)、京大1897年、東北大1907年、九大1911年、北大1918年という順です。札幌農学校スタートから36年目の1912年(明治45)4月8日、東北帝大農科大学予科の学寮である恵迪寮の晩餐会で「都ぞ弥生」は発表されました。教官の有島武郎は「いいぞ、なかなかいいぞ」と激賞。

対外的な発表の場合は1ヶ月半後の5月25日、この年から始まった小樽高商との野球定期戦のときでした。札幌農学校野球部は11年前の明治34年に生まれて、札幌1中や札幌師範、北海中学などと試合をしていましたが、前年高商にも野球部ができたため定期戦開催となったものです。農学校本科は農科大学に昇格したため本科予科あわせて6年間の学生が部員でした。3年までの小樽高商とは差があったため、1年目は21対0、2年目は22対0と当方のポロ勝ちでしたが、3年目は小樽側が奮起して猛練習の結果、10対2で快勝しました。その夜、小樽の街は勝利を祝う提灯行

列で賑わったそうです。

以後、定期戦は農大対小樽高商、北大予科対小樽高商、北大対小樽商大という形で続けられ、中断は戦時中の3年間だけです。2011年秋までの対戦成績は、1年に2試合のときもあったため通算は当方の83勝44敗2分です。早稲田大学野球部の誕生は札幌農学校と同じ年で、早慶戦も長い歴史があるのですが、水原リンゴ事件で長い中断があったため北の早慶戦の方がはるかに多い試合数となっています。北大予科時代は源平合戦に倣って当方は白、小樽高商は赤で応援を統一していました。

「都ぞ弥生」が登場する文芸作品として私が承知しているのは、久保栄作の舞台劇「火山灰地」です。十勝農業試験場と周辺農民を巡るドラマ。農場の女性作業員たちが昼休みを終えて現場へ戻る場面で、「豊かにも実れる石狩の野に雁はるばる沈みて行けば……」という「都ぞ弥生」の2番と、「札幌農学校は蝦夷が島 熊が住む 荒野に建てたる大校舎……」というストームの歌が流れます。久保栄は1901年生まれで、父親はレンガ工場を経営して札幌商工会議所会頭を勤めました。札幌生まれですが、学校は東京で京橋小学校↓東京府立1中↓1高↓東大独文科と進み、築地小劇場で劇作家のスタートをしています。「火山灰地」は

1938年の発表ですが、その時点でこの歌が北海道民に浸透していたことの表れでしょう。(久保は札幌平岸を舞台にした「林檎園日記」も書いています)。

大雪山系の十勝岳はしばしば爆発し、その灰は太平洋側へ流れるため帯広十勝地方が火山灰地になるわけですが、北大農学部と農業試験場の営農指導のあり方が絡むため、この作品はある時期、北大農学部生の必読書とされていました。

有島・多喜二・啄木

「都ぞ弥生」誕生時期に恵迪寮生の精神的支柱であった有島武郎の父は薩摩藩出身で横浜税関の初代税関長でしたが、有島が後に解放した北海道狩太の農場は父が薩摩出身者ゆえに入手し引き継いだ土地でした。母は盛岡の南部藩出身で新渡戸稲造の縁戚でした。彼の人生には11年毎の節目があります。1901年23歳のとき、農学校本科3年生で校歌「永遠の幸」を作詞し、1912年34歳のとき、「都ぞ弥生」誕生に立会い、1923年45歳のとき自ら命を絶ちました。彼について作家辻邦夫著『樹の声、海の声』や芹沢光治良著『人間の運命』に描かれていて、後者では1920年前後、有島が作家生活の傍ら東京麹町の自宅で一高生や東大生たちに、ホイットマンの詩集について講義をする場面で、学生の一人から北海道狩太の農場について問われ、「解放をするつもりだが、どのような形が農民たちの幸せに繋がるかを考えています」と穏やかに答えています。彼の死は農場解放の翌年、関東大震災の3ヶ月前でした。彼は「土地は公のもの」と宣言して解放したのですが、こ

の考え方は約70年後、司馬遼太郎が憂国の書『この国のかたち』の中で、土地の騰貴を痛撃した考え方と共通するものでした。

彼の長編小説

『或る女』の主人公は、国木田独歩の最初の夫人で、独歩があまりに売れない小説家だったのですぐ逃げ出して別の人生を歩んだ女性です。彼女の明治学院時代の同級生の一人は後に初代北大総長になった佐藤昌介の夫人です。佐藤は新渡戸と同じ南部藩の花巻出身でした。彼女は教師である島崎藤村のプロポーズを断り、札幌で結婚しました。佐藤昌介とクラークの胸像は太平洋戦争中に鉄材として供出させられ、戦後造り直されています。

もう一人の同級生は、新宿中村屋を夫の相馬愛蔵と創業した相馬黒光です。黒光は仙台出身で、油絵と楽器を持参して長野県安曇野の農家の次男である相馬愛蔵に嫁ぎましたが、やがて上京して本郷の東大正門前にパン屋を開店。



学生時代の横山芳介と赤木顕次

その後、新宿角筈の今の場所に店を移しました。中村屋は荻原守衛、高村光太郎ら文化人や亡命ロシア人、インド独立運動のボースらが集うサロンでした。彼女を巡るドラマは、長野県出身で筑摩書房創立者の一人臼井吉見の長編小説『安曇野』に描かれています。

有島と入れ替わるように北海道で文筆活動を始めたのが小林多喜二でした。有島が死んだ1923年、多喜二は小樽高商在学中で、俳人高浜虚子の長男年尾と校友会雑誌の編集をして作品の発表を始めました。以後、『蟹工船』をはじめ『不在地主』や『党生活者』など貧しく虐げられている人たちのことを書き続けましたが、その活動は29歳で虐殺され終わりました。彼の作品は出版時の検閲のため伏字が目立ちますが、執筆時に自ら××にした箇所も残されています。そんな時代でした。

有島も多喜二もほぼ10年間でかけがいのない作品を遺したのですが、明治45年にもどると、「都ぞ弥生」誕生の5日後、不滅の作家が27歳で夭折しました。石川啄木です。彼は心にしみる詩歌とは別に、『時代閉塞の現状』という論文を遺しました。この論文には2つの柱があり、一つは男女差別の問題をとりあげています。もう1つは大学卒業者の半数に就職口がなく、それ以下の学歴者の働き口はさらに厳しいと指摘しています。そしてさまざま閉塞状況に目を向け行動するよう若者たちに呼びかけています。これは2年前の明治43年前に書かれたのですが、死後まで公表されませんでした。

男女差別の問題は、明治44年、平塚らいてふが雑誌「青

鞆」を発刊し、「原始女は太陽であった。今は月である」という巻頭言と、「山が動く日来る」という与謝野晶子の一文が女性解放運動の旗揚げをうたっています。啄木は1年前に、明治維新から40年たっても変わらぬ女性の苦しみを指摘していたわけです。



作家活動を開始した頃の有島武郎

同じ時期に大逆事件について、『所謂今度の事』と題して幸徳秋水らの冤罪を遠まわしに触れています。彼は死の3年前、朝日新聞に校正係として入社し、やがて歌壇ページの選者になるなど歌人としてようやく生活の安定に向かっていたのですが、結核のため倒れました。歌のかたわら書きとどめた社会評論のいくつかは、100年後の今の閉塞状況を照射しているようです。明治45年は日本の近代化が急速に進む一方で、農村から都市へ人々が東京、大阪へ流入し、細民街と呼ばれるスラムが多数生まれています。日清・日露の戦争後の不景気の中、増税が相次ぎ、道を歩いただけで税をとる通行税まであり、残飯をあさる姿や学校に行けない子どもや捨て子が増えたと記録されています。賀川豊彦が神戸で貧民救済事業を進めていました。

トンカツとカレーライス

富国強兵下の深刻な不景気でしたが、このころ庶民の間

では豚肉の消費が急増しました。生活困窮者には無縁でしたが、一般家庭では「魚より肉の方が安い」と歓迎されました。東京銀座の煉瓦亭が1899年(明治32)に考案したポークカツやポークソテーが家庭料理にも浸透してゆきます。ちなみにカレーライスが全国的に普及していったのは、1936年の2・26事件がきっかけだったと帝国ホテルの記録にあります。日比谷公園に待機していた兵隊たちに飯を用意せよと迫られた帝国ホテルがとっさの判断で、大量にカレーライスを出したところ、地方出身の兵たちが喜び、帰郷後それぞれの地方で食べるようになったということです。もちろん、海軍基地がある横須賀・舞鶴・佐世保などでの海軍カレーはそれ以前から町の人が食べていたようです。

明治天皇

明治45年7月20日は東京・両国の川開きの日でした。不景気の風を少しでも吹き飛ばそうと花火職人や露天商たちは朝から隅田川界限で大忙しでした。午前10時宮内省が天皇重態を発表し、お祭り気分が一気にしぼみました。「発表がもう1日遅かったなら」と、人々はブツブツ言いながら浅草の映画街へ流れました。歌舞伎座や帝劇は公演を取りやめ、料亭も営業を取り消し、皇居側を走る市電は音が響かぬよう徐行運転をし、今最高裁判所がある三宅坂交差点では線路にボロを敷きました。やがて日本中が自粛となります。その後、大正が終わる1926年にも、1988年から89年にかけての昭和の終了時にも自粛は繰り返されました。

明治天皇はペリー来航の前年に生まれました。生母は権大納言中山忠能ただよしの娘です。中山は幕末、倒幕の密勅を出すとき岩倉具視とともに関わりましたが、15歳で即位した明治天皇は蚊帳の外だったというのが定説です。天皇は東京に移ったときは公家の化粧と服装でしたが、5年後山岡鉄舟が侍従となってから変わります。

山岡は下級幕臣でしたが、北辰一刀流と槍術の使い手でした。北辰一刀流の千葉道場へ通ったのは坂本竜馬や平手造酒と同時期です。江戸開城のとき、勝麟太郎に先立って西郷隆盛と談判したのは山岡でした。幕府軍が鳥羽伏見の戦で敗れた後、15代将軍慶喜は上野寛永寺で蟄居していましたが、その慶喜に頼まれた山岡は品川まで進出していた官軍の目をくぐって西へ進み、清水次郎長の助けも得て、駿府(静岡)の官軍大総督府へ駆けつけ西郷に会うことができました。西郷は江戸無血開城の条件を示しましたが、山岡はおおむね了承したものの、「慶喜を備前岡山藩にお預け」の条件だけは拒否して江戸へ戻り、勝に報告します。品川での西郷・勝会談にあたり、勝は慶喜の処遇で折り合わなかった場合は、会談を決裂させ江戸中に放火をして官軍に抵抗する準備を新門辰五郎と密かに進めていました。1812年、ナポレオン軍の侵攻に抵抗したモスクワ大火の故事を意識したものでした。西郷が折れて慶喜は出身地の水戸で蟄居することになり、江戸無血開城が実現しました。

明治になって山岡は、清水次郎長と富士山麓の開墾にあたっていましたが、その人柄を見込んだ勝と西郷の推薦で

明治天皇の侍従となったのです。明治天皇は即位6年目で21歳。16歳年長の山岡は、公家出身者だけだった侍従の中に、唯一の武家出身者として加わり、10年間、青年期の天皇の人格形成に大きく関わりました。時代はその後、憲法制定や議会制スタートと変わりましたが、揺籃期のためなかなかスムーズに運ばないおり、天皇は人事などで率直な意見を述べたと言われます。最近日本人として永住を始めたロナルド・キーンさんが10年ほど前、明治天皇の生涯を書き、その中で当時西欧の君主たち、英のビクトリア女王、プロシヤのカイザー・ウイルヘルム、ロシアのツァーリたちに比べ、わがままも自己宣伝もなかったとしています。朝から夜まで軍服で通し質素儉約を旨として、皇居が火事になった後、なかなか再建に同意せず、「外国の賓客が訪れるので」という側近の勧めでやっと再建を受け入れたこと、自動車より馬車、魚より肉を好み、テールルの酒を飲みつくすまで座を立たなかったり、靴を何度も修理させる儉約家の一方で、香水一瓶を数日で使い切ったり、ダイヤモンドの指輪が好きだったということです。

明治時代に雛祭りの飾り方が変わりました。皇室でも幕府でもファーストレディが前面に出ることはなかったのですが、明治になって天皇皇后が外国の高官と接するとき、どう並ぶか決めなくてはなりません。政府は欧米の実例を懸念に調べた結果、対面する側から見て右手に皇后、左手に天皇の立ち位置を決めました。明治憲法下、日本中で飾られていたご真影の並び方もそれに倣ったものです。雛飾りは本来男雛は舞台上の上手である右、女雛は左ででしたが、

このときから逆が主流になりました。

明治天皇の死は7月30日午前0時43分とされました。享年59。新聞各社は朝刊を全面的に作り直しましたが、中でも大阪朝日新聞は1面の外側を黒い枠で囲う作り方をしました。パリにいた与謝野晶子は、天皇を悼む歌を朝日新聞に投稿しています。

大葬は1ヵ月半後の9月13日、青山練兵場に設けられた斎場で執り行われました。取材する内外の新聞記者たちは燕尾服かフロックコートとシルクハットの服装が義務付けられました。会場から1丁も離れた所に立たされたので、記者たちは不満たらたりました。

午後8時、棺が牛車で皇居から会場へ向かうとき弔砲が轟き、それを期していたように乃木希典・静子夫妻が自刃しました。乃木はいま六本木ヒルズが建つ辺りにあった長州藩邸で生まれ、維新戦争ではもともと若い世代。妻静子は薩摩出身。当初は乃木だけが殉死するつもりでしたが、気配を察した静子が同行を申しでて相対死となりました。自刃のとき静子は懐剣月山貞一で死に切れぬところを乃木が抱き上げて刺し、自らは備前長船兼光で作法どおり割腹したと、山口在住の作家古川薫は書いています。享年63。ニューヨークタイムズは明治天皇の死はそれほど大きな扱いはありませんでしたが、乃木夫妻の殉死は1面トップに扱いました。旅順の勝利後、乃木は水師營での降伏式で敵将ステッセルと会見したのですが、ステッセルを捕虜扱いせず、健闘をたたえあう姿を外国人記者たちが強く印象付けられていたことも作用したでしょう。ダグラス・マツ

カーサーの父は米国大使館日本駐在武官としてその場を少年ダグラスとともに目撃したとされています。

2012年1月6日の東京新聞に、乃木が死の2年前に書いた手紙が札幌で見つかったという記事が出ています。学習院長だった乃木が、広島の学校経営者に出した返信で、「陛下の赤子を幾多」殺したことを悔い、息子二人が死んで面目を保ったと心中を吐露し、養子の勧めを断り、乃木家を自分の代で断絶させると書いています。

鵬外と脚気

司馬遼太郎は『坂の上の雲』で、日露戦争時の第3軍指揮官乃木の作戦指導を酷評しています。この203高地を含む旅順戦では、兵員13万人の7割が死傷したのですが、その後の奉天会戦でも7万人が死傷していますので、旅順だけが作戦ミスで死傷者が多かったとは私には思えません。それよりも日本陸軍で大問題は脚気でした。ロシア側は、「日本兵は恐怖を紛らわそうと酒を飲んで突撃してくるので腰がふらついていた」と書き残していますが、実は日本兵の大半が脚気に苦しんでいたためでした。陸軍の脚気は、日清戦争の時から難題で、4万1000人の患者の1割が死んでいます。兵員数が増えた日露戦争の時は、さらに深刻な事態となりました。25万人が脚気になり、内2万8000人が病院で死に、前線で戦死した4万8000人の中にも脚気患者がいるという状況でした。

脚気の原因は白米の握り飯と梅干という食事のためでした。まだ脚気がビタミンB1不足のためと解明されていなかったのですが、海軍は日清戦争後、実験船を出して、白

米食乗組員と麦飯食乗組員の違いを確かめた結果、日露戦争時には、パンと麦飯に切り替えたので連合艦隊乗組員には脚気患者は出ませんでした。それに対し、陸軍医療担当トップ・森林太郎は脚気がウイルスによるものだという当時のドイツ医学の考え方を信じており、陸軍内部から再三にわたり、「麦飯に切り替えるべきだ」との進言をはねつけ、新聞や雑誌にいろいろなペンネームで麦飯排除論を展開。乃木と森はドイツ留学時からの知友でしたが、乃木をはじめ陸軍の指揮官たちは脚気患者たちを、前線に出さなければならなかったわけです。日露戦争終結から5年後、鈴木梅太郎が、「脚気はビタミン不足が原因」とつきとめ、以後陸軍もやつと麦飯を採用し肉などの副食も添えるように変わりましたが、森は終生自己批判などしていません。彼が墓碑に「森林太郎の墓」とだけ記すよう遺言したのは、この脚気問題もからんでいるのかもしれませんが。

日比谷焼討ち事件

日露戦争は延100万人を動因し多大な死傷者も出したのですが、終結後、満州・朝鮮の権益、カラフトの半分を獲得したものの、賠償金なしでロシア側と折り合わざるをえませんでした。新聞各紙は大々的に不満を表明し、朝日新聞の場合、第1面に兵士の遺骨に、「鬼哭啾啾」と題する大きなイラストの上に、「こんな講和条件を認めないよう天皇にお願ひしよう」という社説を掲げました。そうした論調が日比谷焼討ち事件の引き金になったのですが、実際の戦争時では、日銀副総裁の高橋是清がロンドンで外債売込みに奔走し、またロシア軍が備えた機関銃や手榴弾もなく、

砲弾も銃弾も十分には使えないという状況での戦闘で、肉弾戦でからも勝利にこぎつけたという実情は報道されな
いままでした。

トルストイの日露戦争反対論はロシアの新聞には掲載されず、開戦後ロンドンのタイムズに載ったあと、日本では東京朝日新聞に連載の形で全文が紹介され、平民新聞がサマリーを載せました。日本当局はそれを禁止しませんでした。

なお日本海海戦で壊滅したバルチック艦隊でからも逃れた1隻がロシアに戻り、12年後ペテルブルグの港から冬宮（今のエルミタージュ美術館）へ向けて放った砲撃がロシア革命の突破口になりました。そのオーロラ号は今もペテルブルグの港に係留されています。

南極探検

1912年に話を戻すと、南極探検中の白瀬^{のぶ}が、1月28日南緯80度05分地点に到達し、日の丸を立てました。しかしそれ以上の前進は断念し引き返しました。勇気ある撤退でした。白瀬ら5人の突進隊と基地に残った21人は全員無事に帰国しました。しかし連れて行った50頭を越すカラフト犬のうち帰国できたのは1頭だけでした。

白瀬は前年から初の南極探検にノルウェーのアムンゼン大尉、英国のスコット大尉と挑み、極点1番乗りはアムンゼン大尉でした。スコット隊は遅れをとって極点からの帰途、5人全員が吹雪の中、遭難死しました。

ノルウェーも英国も国家的事業として援助し重装備で挑んだのに比べ、白瀬には政府のサポートはまったくありません。

せんでした。朝日新聞が募った読者の募金で、200トンの木造船を買い入れ、白瀬が八方借金をしてようやく出発したのですが、乏しい食料と装備の中、基地から280キロ、極点まであと1000キロの地点に到達するのが精一杯でした。帰国した白瀬を迎える日本の空気は冷ややかでした。膨大な借金を返すため、白瀬は南極での記録映画のフィルムを持って全国各地で講演して歩きましたが、借金返済の旅は20年以上続けられ、郷里の秋田県に帰ることなく、日本敗戦翌年の1946年、今の愛知県豊田市で85歳の生涯を終えました。

白瀬の志は受け継がれ、彼の死から10年後、国際地球観測年の一環として始まった南極観測に日本も参加を認められたのです。ただこのときも政府は援助をしづり、今度も朝日新聞などが呼びかけた募金に全国の子供たちが応じてくれたことがテコになり、やっと実現したのでした。以後、今日まで日本隊の観測は続けられています。

白瀬の最大の功績に繋がるものは死の直前、マッカーサーへ直訴の手紙を出したことです。「国土が狭くなった日本のために、自分が歩いた南極の地を少しでも日本領土として認めてもらえないか」というもので、もちろんGHQは拒否の返答をしたのですが、やがて南極を世界の各国が奪い合うのを禁止する南極条約の締結へと実を結びます。今南極は国境がありません。動植物や鉱物資源の保護のほか核実験の禁止はもちろん、原発の廃棄物を持ち込むことも許されていません。平和の地として今後も維持されることとなります。

辛亥革命と孫文

1912年元日、中華民國の成立を孫文が臨時大總統として南京で宣言しました。前年10月からの辛亥革命の成功で、2000年余にわたる専制君主政治にピリオドがうたれた結果です。2歳で即位した清朝最後の皇帝溥儀は、5歳半の2月13日に退位しましたが、20年後、日本の傀儡国家満州国皇帝に就くという数奇の運命をたどります。

孫文の臨時大總統在任は、わずか44日間で軍閥の袁世凱に追われることになりましたが、その後も三民主義を掲げて奔走し、13年後、「革命未だならず」と言い残し58歳の生涯を終えました。孫文には多くの日本人が関わりましたが、もともと多額の資金を提供したのは梅屋庄吉です。長崎から上海へ渡り映画産業で財をなし、孫文のサポートを続けました。さきに述べた白瀬の南極探検で記録映画を撮影したのは梅屋のスタッフでした。4年前中国の胡錦濤国家主席が来日した際、当時の福田康夫首相が日比谷・松本楼で歓迎会を開いたのは、松本楼が梅屋の子孫が経営する店という因縁からでした。松本楼は1903年(明治36)日比谷公園がオープンしたときからあの場所に建っています。辛亥革命の前、「明治維新に見習おう」という中国人留学生らが1万人以上日本に来ていましたが、孫文と周恩来がよく通った店が神田神保町にある漢陽楼です。店には周恩来の書が掲げられています。

孫文の墓は南京の丘の上に中山陵としてありますが、陵の前には梅屋が寄進した孫文の像が飾られています。南京は孫文の死から12年後、日本軍による大虐殺の現場になり

ました。私は10数年前あの町を歩き虐殺の跡を取材しましたが、その話はまたの機会にしたいと思います。

孫文の像は台湾の中心街に国父としてまつられ、衛兵が警護していますが、すぐ側のかつての日本軍の施設跡に建つ蒋介石の像のほうは何倍もの大きさです。孫文の三民主義は共産中国と台湾のどちらが受け継いでいるかは意見の分かれる所ですが、今や経済大国となった共産中国の貧富の格差拡大と汚職の横行、人権弾圧の側面は、孫文の考えかたにそぐわないと言えるでしょう。

今年の日中国交正常化から40周年で、日本の貿易規模は米国より中国が上回るほど両国の経済的結びつきは確固たるものになっていきますが、あのと訪中した田中角栄首相に同行した秘書の早坂茂三は、「明治からの日本の繁栄は、中国人の血と涙の上に築かれた」と記したことを忘れてはならないでしょう。

ポトマックの桜

「都ぞ弥生」発表の1週間後、北大西洋で英国の豪華客船タイタニックが沈没しました。このことは先年このエルム談話会で話しているのどくわしく話すことはしません。約2200人の乗客・乗員のうち約1500人が死亡。唯一の日本人乗客で辛くも助かった人の孫が音楽家の細野晴臣さんです。この年、ワシントンのポトマック河畔に日本の桜が植えられました。東京市長尾崎行雄とタカジアスターゼの高峰讓吉らが日米友好のためと奔走して日本から苗木3000本を取り寄せ寄贈したものです。日米戦争の最中、米国にいる日系人は29年後の日米開戦で12万人が強制収容

所にぶち込まれたのですが、ポトマックの桜が切り倒されることはありませんでした。100年経った今年も絢爛たる花を咲かせることでしょう。

朝鮮併合

1912年前後のことに話を移します。2年前、日本は大韓帝国を併合。朝日新聞の社説は、「天皇陛下の領土が増えたのは喜ばしいことだ」というものでした。

日本と朝鮮半島の関係をさかのぼると、朝鮮は中国とともに文化と人的交流の古い絆があり、現天皇が即位直後に、「天皇家の血には朝鮮とのつながりがあります」と述べているほどですが、現代になって日露戦争で朝鮮半島の権益を獲得した後、大韓帝国併合に至ったものです。

石川啄木は、朝鮮併合のとき、「日露戦争を美化した無邪気なる好戦国民の一人であった」と自己批判して、「地図の上 朝鮮国に 墨を塗りつつ 秋風を聴く」の歌を詠んでいます。朝鮮半島から大量の人々が日本本土に来ましたが、濟州島と大阪間は君が代丸という定期船が走っていました。朝鮮人たちは土木工事や炭鉱労働にあたり、例えば京浜急行のレール延長工事はその人たちによるものでした。しかし差別待遇はすさまじいもので、九州筑豊と北海道の炭鉱では特に顕著でした。先年首相を辞めた麻生太郎の祖父や父が経営した麻生炭鉱は、朝鮮人犠牲者もとても多かったですと記録されています。東日本大震災復興担当大臣を数日で辞めさせられた松本竜の祖父松本治一郎は、部落解放同盟の創始者の一人ですが、彼の最初の大仕事は、炭鉱での待遇が未解放部落出身者と朝鮮人が一段と安い賃金で

危険労働に従事させられていることへの抗議でした。関東大震災のときに、首都圏で6千人の朝鮮人と数百人の中国人が虐殺されたことは皆様ご承知のとおりです。

やがて戦争が激化していくとともに、朝鮮半島からの強制連行が増えてゆきました。太平洋戦争中に多くの朝鮮人女性が従軍慰安婦にさせられた問題は、今も清算されていません。終戦から半世紀近く経つ1991年、今から21年前に犠牲者の一人が名乗り出て問題が表面化し、日本側の民間資金による見舞金の支払いも行われましたが、政府の公式謝罪がないことに対する韓国側の不満は依然残っており、毎週水曜日、ソウルの日本大使館への抗議デモは、先月1000回を超え、来日した韓国大統領は日本の対応策を強く迫りました。

今や日本と韓国の間は毎日1万人以上が往来し、韓流ドラマは日本のテレビで毎日放送される親密な関係ですが、過去の重い事実を忘れてはならないことだと考えます。

レルヒのスキー指導

オーストリアハンガリー帝国の陸軍中佐レルヒが北海道でスキー指導をしたのもこの年でした。前年の新潟県高田での指導に続き、旭川の第7師団兵士に三本足スキーを教えたものでこれが札幌の学生たちにも伝授され北海道内でスキーが広まるきっかけとなりました。

東京駅

さて、百年前の東京・丸の内では15年がかりの中央停車場の建設工事が大詰めを迎えていました。基本設計は辰野金吾ともう一人ですが、煉瓦造りか全面コンクリート造り

かで対立し、結局辰野が主張する鉄筋煉瓦造りが採用となりました。辰野は九州唐津藩の下士出身の育ちですが、明治になって藩校が転じた学校でアメリカ帰りの高橋是清に英語を学びました。高橋が明治政府に出仕したのと同時期に辰野も上京して東大工学部の前身、工部大学校でお雇い外国人ジョサイヤ・コンドルから建築学の基本を学んだ後、選ばれて英国に留学しました。帰国後、日本の近代建築の模範となるものを手がけ、東京駅に先立って日本銀行本店を完成させています。辰野が煉瓦造りに拘ったのは、既に丸ビルなど丸の内の三菱系建築物が赤レンガで統一されていたことを意識していたはずです。この「1丁ロンドン」と言われるビル群は、辰野と一緒に唐津から工部大学校で学んだ建築士が三菱に入社して手がけたものでした。

駅舎の総工費は282万円、現在の貨幣価値では270億円で、鉄骨とセメントで組み上げた上に833万個の煉瓦を貼り付けるものでした。

工事を請け負ったのは本命の清水建設ではなく、大阪の大林組で、5万円の赤字を覚悟で受注に成功しました。これに先立ち大林組は大阪の堺に日露戦争でのロシア人捕虜2万4000人の収容所を3週間で建設する実績がありました。したが、東京の中央停車場の工事を手がけた結果、大林組は全国区の土建会社となりました。100年後の今、東京駅を震災前の姿に復元する工事を鹿島が進めています。大林組は東京の新たな名所スカイツリーの完成を目指しています。

中央停車場の開業は1914年12月でしたが、全国で進

められてきた国鉄の幹線網の進展にあわせ、新橋から西の東海道本線と、上野から北への東北本線を連結させる中央停車場は1914年の開業式直前に東京駅と命名されました。3階建ての構造で、全長334mと後の連合艦隊旗艦・大和より70m長い大きさでした。中央部は皇居二重橋に面するロイヤルゾーンで、有楽町側に乗車口、神田側に降車口と分かれていて、通り抜けが出来ないため一般乗客には必ずしも便利な駅舎ではありませんでしたが、開業初日の乗降客がそれぞれ1万人前後と記録されています。

この1914年は、第1次大戦が始まった年で、日本は英国の同盟国であったため、中国青島方面を領有していたドイツ軍を攻略して撃退、その凱旋式を東京駅が開業に合わせて行うという段取りでした。

100年前の東京駅の工事は、日本の建築技術の高さを象徴するものでしたが、ゼネコンの今の姿を原発工事へのかかわりに見る事ができます。原発の建屋を鹿島24基、大林組11基、大成10基、竹中7基、清水5基を造っていて、10ヶ月前の福島原発の事故後はそれらのゼネコンが除染作業を請け負っている状況です。

まとめ

1912年を中心にお話しするのにあたり、さまざまなものを読み返してみました。それは「坂の上の雲」の時代でしたが、その雲を見ることがかなわなかった人たちのこと、さらにその後の戦争の時代について改めて考えさせられました。そこに新聞が果たしてきた戦争協力の歴史も顧みたくです。いま上映中の映画「山本五十六」の中で描

かかっているように、新聞が「いけいけどんどん」の旗を振った事実は決して棚上げできないことです。南極探検のくだりで朝日新聞の読者募金について述べましたが、太平洋戦争中、朝日新聞は「飛行機（軍用機）を献納しよう」と読者の募金を大々的に集め、「これで何十機目です」という記事を連日のように載せていた事実は消すことができません。

そして1939年（昭和14）、昭和天皇が、「どうも今の陸軍は困ったものだ。満州も朝鮮も各国に強いられて、もとに戻されるまでは、とうてい目が覚めまい」と湯浅内大臣に述べた言葉の重大さを考えてしまいます。当時の最高統治権者が陸軍の暴走について決断しないまま、時間が流れました。この時点から近い時期に決断をすれば、日米戦争もアジア全域での苛烈な戦争も日本各地の空襲も広島も長崎もなかったかもしれません。その間に日本とアジア各国で、いかに多くの犠牲者が出たかを改めて考えました。

「都ぞ弥生」から数えて32番目の昭和13年度寮歌「津軽の蒼海の」の作者・二階堂孝一さんは中国戦線で戦死し、敗戦を経て昭和21年度寮歌、渋谷富業さんの「時潮の波の」の慟哭と鎮魂、再出発への祈りと誓いへと至る時代でもあったわけです。

それから66年後の日本の今は、1週間前（2011年12月30日）朝日新聞に載った世論調査では7割の人が、「将来が不安だ」と回答しています。また3日前（2012年1月3日）の東京新聞世論調査では、「今の政治に不満がある」

が8割を超えています。百年前に石川啄木が考察した状況より格段に複雑深刻な閉塞状況なものに加え、大震災と原発事故の果てしない闇に覆われています。どう光明を見出ししていくか、それぞれの人が黄色いハンカチを見つけることが出来るかどうか問われる年明けと言えるでしょう。

寮歌研究 その二

横山芳介の世界

前島 一淑
(S 31年入寮)

はじめに

「都ぞ弥生」誕生百年に当たる平成24年最初の北大東京同窓会談話会が、1月6日に開催された。談話会のテーマは「都ぞ弥生」で、入寮同期の古川俊美と筆者が話題を提供した。メーソンの講演者の古川は、この寮歌の誕生前の半世紀と後の1世紀にわたる北海道、日本そして世界の動向について見事なレビュウを行った。

筆者は寮歌「都ぞ弥生」および同時代の旧制高校寮歌について述べたが、その内容のほとんどは、先人たちによってすでに述べられている事柄の受け売りに過ぎない。ただし、次項「野性の声消えて」だけは、これまでに言及されることが少なかったと思う。

会場で筆者は、代表的な寮歌や俗謡の歌詞などを参考資料として配布し、多少の脱線を交えながら話した。しかし、同窓会誌の頁数の制約のため、本稿では「都ぞ弥生」の作詩者に焦点を絞り「横山芳介の世界」というタイトルに絞めた。なお、本誌は恵迪寮同窓会誌であるので、歌詞の引用は最小限に止めた。

野性の声消えて

寮歌「都ぞ弥生」の誕生は明治45年(大正元年、1912)であるが、作詩者の横山芳介は明治43年に北大に入学

している。当時の新学期は9月であるから、横山が津軽海峡を渡った時期は8月末であろう。「都ぞ弥生」の歌詞の一番は入学前の東京の春を歌った「序」ともいうべき章で、豊かに稔る北国の秋を描写した二番こそがこの寮歌の第一章である。

北海道に生まれ育った新入生はそう感じなかったかもしれないけれども、東京から来た横山の目に札幌はひどく淋しい土地と映ったに違いない。札幌到着を知らせる最初の手紙で、「この町には仁丹の看板ひとつない」と記して母を大変に心配させたと、後年の彼は悔やんでいる。

当時の北海道の情景は、見る人の感性和経歴によって明らかになる。明治40年にはじめて札幌の地を踏んだ石川啄木は、「札幌はまことに美しき北の都なり……アカシアの並木を騒がせポプラの葉を裏返して吹く風の冷たさ……」と記している。それは、入学後一年余りを過ごして北の大地の印象を一変させた横山が描く「都ぞ弥生」の風景そのものである。

明治初めの北海道を知る新渡戸稲造にとって、明治末の北海道の印象はさらに違っている。明治39年の随筆で、「20年前にはクマやオオカミが跋扈していた土地にいまは二日で来ることができ、そこでは児童たちがなんの心配もなく

遊び校歌を歌っている”と、北海道の文明化に感無量のようである。

新渡戸がいう20年前とは明治19年である。犬飼哲夫が纏めたその年のエゾオオカミの捕獲・屠殺数（かなりの数の野性化したイヌその他が含まれているという）を一頭ずつプロットした地図を見ると、石狩や日高などはほとんど真っ黒である。開拓使は、野獣に満ちた人跡未踏の土地という北海道のイメージを払拭すべくクマとオオカミとカラスを有害鳥獣に指定し、死体を持ってきた者に褒賞金を払っていた。

エゾオオカミは、住民に危険というだけでなく、ウマやウシの甚大な被害に怒る牧畜関係者からの強い要請もあり、エドウィン・ダンらの提言を入れて、アメリカ西部で高い効果を挙げた硝酸ストリキニーネ入り肉団子による駆除法が導入された。その結果、オオカミの本来の食物であるエゾシカの乱獲と相まって、彼らは急激に減少し絶滅した。

北大野生動物学教授だった大泰司紀之から頂いた資料によると、最後のエゾオオカミの捕獲・屠殺記録は明治22年の38頭以上である。また、函館の毛皮商がオオカミの毛皮を明治29年に輸出したという記述があるという。野生動物の絶滅にはさまざまな定義の仕方があるが、エゾオオカミの絶滅は明治40年以前であろう。なお、いわゆる日本内地におけるニホンオオカミの確実な最後の記録は明治43年で、それは横山が北大に入学した年である。

もしも、明治末の札幌にエゾオオカミやヒグマが歩き

回っていたならば、「都ぞ弥生」には、オオカミが遠吠えしたりクマが咆哮するさまが歌い込まれていたのではないだろうか。そうならば、もつと荒々しい歌詞になり、美しい自然をひたすら謳歌している現在の「都ぞ弥生」とは違う印象を与える寮歌になったと思われる。

そして、野獣が彷徨する未開の地であると承知のうえで北海道に憧れて野心を懐き津軽海峡を越えて来る学生の数は、ずっと少なかったのではなからうか。北大に進んだ多くの学生は、「都ぞ弥生」が讃える穏やかな大地に魅せられたのであり、その影響はクラークや新渡戸の名声よりもはるかに大きかったといつてよい。「都ぞ弥生」こそ北大最高のコマーシャルソングである。

横山が見た風景

横山は、北海道の風景を具体的かつ平易な美しい言葉で歌っている。彼は、その印象を「黄昏れ込める手稲の頂」、「雄々しく聳える楡の梢」、「寒月が懸かる針葉樹」、「さゆらぎ立つ延齡草」、「小河の溔に咲く水芭蕉」などと表現している。それは決して観念的な美辞麗句の羅列ではない。また、若者らしい気負いはあるものの、世俗的な立身出世とは異質の札幌農学校の伝統を継ぐ「清き野心」を育む大地の讃歌である。

ただし、横山を感動させた自然は、どちらかといえば眼から入る光景が主で、耳から入る音色は従のように私には思われる。たしかに、「都ぞ弥生」に「櫓の音凍り」、「羊群声なく」、「雲ゆく雲雀」と素晴らしい言葉が散りばめられている。しかし、北国の四季は、牧舎に戻る途すがら騒が

しく声を交わすヒツジとそれを追い立てる牧羊犬の声、櫛を引くウマの嘶きやイヌの吠える声、小さな体ながら精一杯のヒバリの囀り、そして、初夏にはカッコウやエゾハルゼミの鳴き声が溢れていた筈である。

横山の注意が音の世界にもう少し配られていたならば、彼の優れた表現力によつて「都ぞ弥生」の歌詞はさらに彩りを添えたのではなからうか。もちろん、音色に満ちた情景を「静寂」と感じて控えめな表現をしたところが素晴らしいという見方もできよう。

現在も残っている横山直筆の「都ぞ弥生」の歌詞の五番に「自然の巧みをなつかしみつつ」とあるが、明治45年版「北大文武会報」には「自然の芸術たくみを」となっている。著者が校正時に直したのであろう。寮歌の歌詞には、難解な漢字を大胆に意訳して読ませる例が少なくないけれども、横山の「芸術」はそれではない。

明治初期の日本語では、伝統的な日本画と対比させた西洋画を「芸術」と呼んでいた。この言葉は、現在のように、和洋の絵画だけでなく彫刻も陶芸も音楽も文芸をも包括する意味には用いられていない。明治の横山は、芸術（絵画／アート）＝美しい自然（技巧／技倆）という率直な連想の下に、北海道の風景を西洋絵画的、つまり「芸術」＝「巧」と感じたとみてよい。詩歌は、作者が生きた時代の言語感覚で味わうべきである。

詩の形式

話題を変える。本質な問題でないといわれるかもしれないが、歌詞の形式（調子）は、詩の重要な一要素と私は考

えている。万葉以来の大和歌の基本は五音と七音で成り立っている。日本の伝統的な歌謡の主流は七五調か五七調で、例えば都々逸は七七五調を基調としている。

寮歌の多くも五音と七音の組み合わせである。とくに、明治〜大正期の旧制高校寮歌の大部分は七五調である。北大寮歌も、八七八七……七五調の「都ぞ弥生」と八七調の大正十三年「茫々はるか」を除き七五調が基本で、五七調の初出は昭和3年「郭公の声」であり、戦前のそれは昭和16年「湖に星の散るなり」等の4歌に過ぎない。一方、戦後は五七調が急増し、昭和21年「時潮の波（序と結）」から昭和28年「手をとって美しき国」まで多くの寮歌が続く。なお、大正3（1914）年「我が運命こそ」と札幌農学校校歌「永遠の幸」は七七五調である。

しかし、八七八五調の都々逸、例えば「三千世界の／鳥を殺し／そなたと添い寝が／してみたい」や、八八調の民謡、例えば「金比羅船々／追手に帆かけて……」もある。万葉時代の八音の歌は例外的な「字余り」とみるべきであるが、中世になると意識して八音が使われている。「梁塵秘抄」の今様に「わが子は二十に／なりぬらん……」や「遊びをせんとや／生まれけむ……」などがそれである。「ストームの歌」は基本的に八五五調である。ついでに書くと、その一番の歌詞にクマが出ている。

明治生まれ東京育ちの横山の耳には、現代の学生と違つて、さまざまな八七調や七七五調の歌がインプットされていた筈である。それは同時代の学生たちも同様で、横山の歌詞の形式は、明治の北大生に比較的素直に受け入れら

れたのではないだろうか。当時の寮歌で全盛を極めていた七五調に引きずられことなく、伝統的な日本の歌謡形式のひとつである八七八七……七五調で詩を書いた横山のセンスを高く評価したい。

また、「都ぞ弥生」の最後が五音（……八七五七五）で終わっていることにも注目して欲しい。これこそ日本の伝統的な歌謡の形式に則っているが、頁数の制約でこの点については触れないでおく。

同時代の旧制高校寮歌

明治時代に設立された旧制高等学校はいわゆるナンバースクールの8校（第八高設立は明治41年）で、9番目の新潟高校の設立は大正8年であるから、「都ぞ弥生」誕生前後の他校の寮歌とは、第一く第八高等学校のそれらだけである。歌詞の例示は省略するが、いまでも歌われているこの時代の代表的な各校寮歌は、すべてと違ってよいほど新体詩、つまり七五調である。北大寮歌においても同様であることは前述した。

新体詩とは、明治30年代に全盛を極めた当時の「平常語」を用いた「七五調」の詩のことである。外山正一の軍歌「抜刀隊」『われは官軍わが敵は』、島崎藤村の「若菜集」『まだあげ初めし前髪の』、大塚楠緒子の「お百度詣」『ひとあし踏みて夫思ひ／ふたあし国を思へども／三足ふたたび夫もふ／女心に咎ありや』まで幅が広く、作られた新体詩の数は膨大である。

一般に、寮歌は難解な漢語に散りばめられているといわれているが、超エリートだった旧制高校生にとって漢語は

「平常語」だったとみてよい。一高寮歌「嗚呼玉杯に」はその代表例である。しかし、実際には漢語調の寮歌は少数派で、多くは雅びな和語の系統である。また、寮歌はエリート意識紛々で大言壮語に満ち溢れているという批判がある。その代表例としても「嗚呼玉杯に」が挙げられる。

「都ぞ弥生」と同じ明治45年に作られた一高寮歌「霧淡晴の」は、『霧淡晴の野にみだれ／花影に春をさしまねく／夢に溶けゆく浅翠／あしたの空に立ち迷ひ／夕べの影にしがらめば／春にうつろふ光あり（一番）』と、まったく違う印象を与える。和語系統の例に三高寮歌「琵琶湖周航の歌」を加えれば十分であろう。

他校の寮歌の歌詞に共通するもうひとつの特徴に没個性がある。例えば、二高寮歌『山紫に水清き／郷は名に負う五城楼』を、六高生が『山紫に水清く……吉備が郷』と歌ってすこしも違和感がない。

しかし、そのような批判を別として、寮歌とは生活や勉学の場を共有する寮生たちが、喜びも悲しみも心をひとつにする手段であることに間違いはない。七高寮歌「北辰斜に」の「序」の一節『或ひは饗宴の庭に、或ひは星空の窓の下に、若い高らふ感情の旋律をもて、思ひのままに歌ひ給へ』の心情に尽きるであろう。

また、談話会において古川が「都ぞ弥生」誕生前後の日本と世界の動きを詳しく紹介したが、横山が書いたこの寮歌には世相がまったく歌い込まれていない。他の北大寮歌も含めていえることだが、多くは没世間的である。五高寮歌「武夫原頭に」には「スラブの末路今を見る」、六高寮歌

「新潮走る」には、明治の大帝神去りて／世は暗澹の秋の暮、
という歌詞が出で来る。北海道は別天地だったのかもしれない。

おわりに

筆者は音楽の素養に欠けるので、作曲家「赤木顕次の世界」については触れない。「恵迪寮歌合唱隊長」の金武彦が昨年見付けた明治45年版「北大文武会報」に掲載された楽譜「都ぞ弥生」には、音楽学的に不備があるという。その後、赤木はいくつかの楽譜を残しており、それらにも問題があるらしい。たしかに赤木が音楽的に正しい楽譜を残せなかったが、横山の詩を見て「都ぞ弥生」のメロディーが浮かんだことに間違いはない。赤木の前に「都ぞ弥生」はない。記譜力の不足と名曲を残した業績は無関係である。

恵迪寮周辺に残る原始林に感激した入寮早々の筆者を、「一週間前まで俺がいた家はこの数百倍も広い原生地の中にあつた」と道産子の同級生が揶揄した。「都ぞ弥生」に描かれている北国の情景は、所詮は道外者の感傷に過ぎないだろうか。もしそうだとすると、北海道の自然を讃えた北大寮歌「都ぞ弥生」は、間違いなく北大の枠を越えた日本の文化遺産である。

寮OBの中に、「都ぞ弥生」は恵迪寮生のもので、部外者が歌うのは好ましくないとする風潮があるらしい。一部の他の旧制高校OBの間にも似たような主張があると聞く。しかし、そんな偏屈な意見に耳を貸す必要はまったくない。繰り返し、「都ぞ弥生」は日本国民の共有財産である。

諸先輩の作品の足元に及びもつかない稚拙な昭和32年寮

歌「花繚乱の」を作った筆者の身の程を弁えない単純素朴
で舌足らずな感想である。

(横浜市青葉区)

寮歌研究 その三

「酒、歌、煙草、また女」 続きの物語

金 川 武彦 (S 37年入寮)
前 川 幸則 (S 31年入寮)
島 一 淑 (S 31年入寮)

JR田町駅を出て商店街を抜けると慶應義塾三田東門に行き当たる。門を入ると上り坂になり、右手の階段を登れば図書館旧館である。その玄関右手に、とても纏わりついているとはいい難い風情の小振りの蔓植物が目に入る。白い板にノウゼンカズラとある。

夏には濃い朱色の花を付ける植物を、多少の知識があれば凌霄花と気付くであろう。この蔦が、1000年少し前、「新しき世の星」と気負って上京した「若き二十歳」の佐藤春夫ゆかりの花である。1928年(昭和3)発表の詩「酒、歌、煙草、また女——三田の学生時代を唄へる歌——」の最初の連で、春夫はこの蔦を「いまも枯れずに残りや」と懐古している。彼はこの花が大好きで、戒名に凌霄院という文字が入れられている。

この物語の主役は、春夫に憧れて倉敷から1954年(昭和29)春に慶大文学部へ入学した故・出原弘之が作ったメロデーである。彼と高校同期の横浜市大生、仁科喜佐男と北大生、荒木武夫が原曲に手を加えた。翌年、恵迪寮で荒木と同室になった酒井誠一郎がこの歌をコンパで独唱し、寮生の間に大流行を起こした。彼らはすべて二十歳前後であった。

その後この歌は恵迪寮から消えたが、同じ流れと思われ

るメロデーが70年代に新宿で歌われ、2009年(平成21)に三田文学編集長、加藤宗哉の耳に届いている。ここまでの経緯は、前島、荒木、酒井、金が「恵迪」9号(2009年)に、加藤と前島が「三田評論」1076号(2005年)や「三田文学」81号(同年)と97号(2009年)に書いている。これが第一幕である。第二幕の幕開けは、2010年である。

荒木が「酒、歌、煙草、また女」の歌唱と録音を酒井に依頼した。酒井の一年後輩の川原が本格的なデジタル化を考え、北海道開拓の村旧開拓使本庁舎音楽ホールを借りて酒井の独唱を収録した。さらに東京わたなべ音楽堂ベルネザールに仁科、荒木、酒井が集い、川原の識り合いのピアノスト、一宮明代の伴奏でそれぞれの編曲を彼ら自身が歌った。

同年秋、札幌つる千歳鶴サービスステーションに50年代の寮生が集合し、正調!「酒、歌、煙草、また女」を合唱し、これも川原が収録した。CD添付リーフレット「北大恵迪寮青春の歌『酒、歌、煙草、また女』」に、それらの経緯が要約されている。このCDおよび関係記事が掲載された「三田文学」と「恵迪」は、北大図書館、札幌中央図書館、三田文学編集部、岡山青陵高校図書室に所蔵されてい

る。

CDはまず300部作成したがすぐに出払い、最終的に3版計900部が作られた。興味をもたれる方は、川原(〒175-0009)東京都板橋区三園1-37-5)に連絡されたい。その際、CD作成費と送料としてワンコイン、500円か同等の切手を同封頂ければ幸いである。

ここからが第3幕である。2011年1月31日付「道新」に「酒、歌、煙草——命再び」という記事が載った。春夫の詩に曲がつけられ、50年代の北大恵迪寮で愛唱されたものの、その後寮生たちの耳から消えた「幻の準寮歌」が半世紀を越えてCDとして甦えつつという内容である。同年2月17日の「週刊新潮」(通刊2780号)に、「昔の学生気質」としてこの新聞記事が引用されている。

寮生が愛唱した「酒、歌、煙草、また女」と同じ系統と思われる新宿流行のメロディーを三田へ伝えた人物は、作家の西村真である。数回の手紙や電話のやり取りの後、前島は帝国ホテルのティーラウンジで西村と会った。その概要は以下のとおりである。

西村は、70年代の新宿ゴールデン街で、「やくざの唄」としてこのメロディーを覚えた。そこは、いまでも新宿を舞台にした警察小説ややくざ小説にときおり登場する昔の青線区域で、毎晩のように当時の有名無名の文学者や編集者が集まり、酔いに任せて気炎を上げていたという。西村は昭和14年の高知生まれで、このメロディーを最初に聞いたときは20歳代か、せいぜい30歳のはじめだった筈である。

「やくざの唄」の歌詞を以下に紹介しておく。

- (一) 歳は二十のころなるや 三年がほどを学びしが
酒、唄、煙草、また女 ほかに学びしこともなし
- (二) ヴィッカスホールの玄関に 咲きまつわれる凌霄花
感傷的でよかったね いまも散らずに残れるや
- (三) われらを指して嘆きたる 人を尻目に見下して
新しき世の星なりと 思い奢れるわれなりき(新仮名遣い)

歌詞の順番が異なり、原詩と比べて総体的に品位が落ちているといわざるをえない。若い時代の西村や彼の仲間たちは、この「やくざの唄」にあるように多分に偽悪的で無軌道な日々を送っていたと思われる。彼の最新作「東京哀歌(三五館刊行)」を読むと、それが文学的虚構であるにしても、彼の半生を窺い知ることができ、この替え歌を愛唱した気分が想像できる。

「酒、歌、煙草、また女」のメロディーに関わり続けてきた金は、西村が東京の電話口で歌う「やくざの唄」を札幌で聞いて楽譜化した。「やくざの唄」を西村が加藤に伝えたときも電話であった。そもそもこのメロディーは、酒井、荒木、金たちの間でも電話口で歌われて情報が交わされており、酒井夫人からおかしな人たちだと笑われている。

図に掲げた楽譜は、西村が歌った「やくざの唄」と酒井が記憶していたメロディーを金が記録したものである。音楽的な詳細をここでは論じないけれども、西村が憶えていたメロディーは、当時の寮生の記憶にある酒井歌唱のそれとあきらかに異なる部分があり、むしろ出原原曲か仁科編曲に近い。「やくざの唄」が出原↓仁科↓?↓西村という経

路で新宿に届いた可能性がある。

物語は第4幕になる。筆者らは、最初、恵迪寮OB、しかも体育会系の飲ん兵衛が新宿の飲み屋で同席の客にこのメロディー伝えたと考え、そのような基準で心当たりを熱心に探したが到達することはできなかった。そこで、寮OBではあるがはるかに知的で上品な人物にまで搜索を拡げたが、それらしき人物に辿り着かなかった。

その後、西村より、当時勤めていた出版社のSという同僚から「やくざの唄」を教えられたような気がするという連絡を受けた。Sは都内の某大学空手部出身で、現在の消息は不明という。その出版社には前島や川原と入寮同期の中野嘉雄が在籍していたので、彼に尋ねたがSの記憶はないという。

また最近、この歌が、恵迪寮とは別に北大柔道部で歌い継がれていたという新しい複数の情報が寄せられてきた。この歌を北大に伝えた荒木と同期および一期後輩で、寮同室だった名古屋出身「東海の暴れん坊」近藤智雄と徳島出身「稽古の鬼」中川迪夫が柔道部の重鎮であったから、兩人を通じて拡がったのであろう。過去にも、剣道部、馬術部、ボート部などで歌われていたことは確実である。彼らが全国大学連合体育祭の懇親会で歌い、それが「やくざの唄」の源流となった可能性も否定できない。

もうひとつ、かなり有力な拡散ルート情報がある。出原らの故郷の岡山でこのメロディーが流れていた、聞いたことがあるというものである。しかし、それを確認しようとして複数の関係者に尋ねまわると、ほとんどが矛盾したり

曖昧とした話しに収斂してしまう。編曲者の仁科と荒木は、岡山ルートは絶対に考えられないと強く否定している。それでも、西村が憶えていた「やくざの唄」を、北大の寮生の耳に残っているメロディーの直系といい切るにはすこし無理があり、別ルートと推測するほうが理解しやすいと上述した。

出原の急逝で確かめる術は失われたが、生前の彼は、このメロディーを倉敷青陵高校柔道部の同期生以外と歌った記憶がないと荒木らに話したという。しかし、夫人の出原美佐子や令妹の坂尾正子の思い出から想像すると、若い時代の彼は、思い立つとひとりで帰郷して倉敷の人々と旧交を温めていたらしいから、岡山のだれかに教えた可能性がないとは断言できない。また、ドラマプロデューサーであった出原が、おもな活躍の場であった名古屋において、仕事の合間や酒席で口ずさんだ可能性も考えられる。それならば、東京（三田）↓倉敷↓名古屋↓東京（新宿）である。

半世紀まえに作られた歌である。記憶に間違いないと断言する当時の関係者にも忘却や勘違いもあるだろう。そもそも、このメロディーが新宿に到達したルートをこれ以上詮索することにどれほどの意味があるだろうか。往時茫茫として筆を置く時期ではなからうか。そろそろ、長々と続けてきた物語の終幕としたい。

CD「酒、歌、煙草、また女」作成時、添付リーフレットに三田キャンパスに咲いている凌霄花を載せるべく、川原は2台のカメラをもって2度も訪れたがよい写真が撮れなかった。「三田文学」に問い合わせると、この蔓は育ちが

早いので大きく刈り込んで仕舞いわずかしか花が付けない状態にあり、管財課が来春はしっかりと手入れをするから待つて欲しいとのことであった。そこで、金が撮影した札幌大通り公園のアメリカノウゼンカズラを代用した。一時期、北大でこのメロデーが流れたことを考えれば、あながち不適切な対応ではないだろう。

ごく最近のことであるが、金から慶應義塾OBの馬場紘二（昭和39年経済学部卒）を経由して春夫の孫の一人、高橋百子（馬場と同期、文学部卒）にまで上記CDが渡っている。この物語は加藤の「三田評論」記事から始まったが、その終わりも「三田評論」である。同誌第1148号（2011年）「丘上広場」欄に、春夫の詩「酒、歌、煙草、また女」ゆかりのノウゼンカズラが三田の図書館旧館前に咲いたと記されている。管財課の配慮である。

春夫に憧れて慶大文学部に学んだひとりの学生が作った「酒、歌、煙草、また女」のメロデーが、一時的に北大恵迪寮や少し形を変えて新宿で歌われた後、半世紀を経て母校の三田に届いた物語の発端と結末が、慶應義塾の機関誌「三田評論」記事であったことは不思議な因縁である。作者、出原弘之はもって瞑すべしであろう。

※敬称略（金・札幌市豊平区、川原・東京都板橋区、前島・

横浜市青葉区）

ピアノで奏でる寮歌を聴いてみませんか？

恵迪寮歌撰 CD を無料進呈中

寮歌を愛してやまない前島一淑（S 31 年入寮）、金武彦（S 37 年入寮）、川原幸則（S 31 年入寮）と、ピアノの吉崎理華（筑波大）の4人が、ピアノで奏でる恵迪寮歌撰のCDを作り、6月9日の「都ぞ弥生」百年記念祭で無料配布しました。まだこのCDをお持ちでない方、知人、友人に聴かせてやりたい方に無料で差し上げています。

CDには、明治44年から平成4年までの寮歌など26曲を取め、とくに「都ぞ弥生」については3種類の演奏が入っています。皆さまにとって寮歌はそれぞれの憶いがあると思いますが、寮歌に少しでも興味を持ってもらおうと制作した私たちの意図もCD添付の冊子に記しました。

ご希望の方は下記の住所に、郵便番号、住所、氏名、入寮年次などを明記のうえ、郵送料として140円切手1枚を同封して送って下さい。

（宛先）〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野
3-4-3-401 前島一淑



ピアノで奏でる恵迪寮歌撰 CD



恵迪寮同窓会通信



事務所：〒066-4866 札幌市中央区南13条西11丁目

(株)アークス気付

電話兼Fax(011)530-1186

vol. 28

恵迪寮同窓会第12期平成24年度理事会報告

平成24年4月21日(土)、16:00～20:00、札幌パークホテルにおいて恵迪寮同窓会第12期平成24年度理事会が開催されました。会議には東日本支部3名、西日本支部3名を含む28名の役員、理事、幹事が参加されました。

会議の冒頭、横山会長が「1ヶ月後に迫った「都ぞ弥生」百年記念祭をみんなの力で成功させよう」と力強く宣言、ご来賓の三上隆北大副学長からは、北大の近況や課題と10/6開催のホームカミングデーについてのお話を頂きました。

会議では、第1号議案から第7号議案まで執行部の報告・提案に基づき討論し、議案通り全会一致で承認されました。特に、記念事業のドキュメンタリードラマ「清き国ぞとあこがれぬ」制作について同窓会の総力を挙げて取り組むことを確認し、6/9開催の「都ぞ弥生」百年記念祭については、プログラムの最終確認をしました。

〈恵迪寮同窓会役員〉(平成24年4月現在)

○名誉会長 中瀬篤信(S26、前会長)

○会長 横山清(S31)

○副会長 高井宗宏(S31、会長代行)、山中義正(S32、東日本支部長)、伊藤靖久(S38、西日本支部長)

長)

○会計監査 佐藤市雄(S38)、西雪弘光(S40)

○本部署

【北海道支部】山崎克彦(S32)、和孝雄(S32)、魚山和春(S39)、千川浩治(S40)、山田浄二(S41)

【東日本支部】関口光雄(S39)、平田更一(S40、新任)、坂倉雅夫(S44)、荒木隆夫(S49)、竹下忠彦(S53)

【西日本支部】浦谷義博(S41、新任)、藤井洋治(S37、新任)、植松高志(S44、新任)、木村成二(S46、新任)、岩井隆郎(S51)

○代表幹事 白浜憲一(S40、広報)

○副代表幹事 新井三郎(S32、事業)、氏平増之(S38、名簿)、皆川吉郎(S43、会計)

○常任幹事 大隈昭二(S40、編集長)、藤田正一(S38、文常)、木村正博(S41、現察)

○幹事 高橋陽一(S30)、小笠原孝之(S30)、吉原照彦(S36)、内藤春彦(S40)、八重樫幸一(S41)、岩本栄一(S44)、吉沢武治(S45)、谷口哲也(S48)、松浦清隆(S49)、瀨上玲子(H8)

○事務局 佐藤静子(アークス)

〈第1号議案〉 第12期平成23年度事業・決算報告

1. 第12期平成23年度事業報告

① 会議の開催

i 第12期平成23年度理事会…平成23年4月23日(土)

札幌パークホテル

○第12期平成22年度事業・決算報告

○支部交付金

○第12期平成23年度事業計画と予算案

○平成23年度「大寮歌祭」(西日本支部主管)

○恵迪寮同窓会3支部の平成22年度活動報告及び平成23年度活動計画

ii 本部役員会…3/17

② 「〇〇都・府・県恵迪会」又は「〇〇ブロック恵迪会」

の結成

i 恵迪寮同窓会創立30周年(2013年)までに、

東日本・西日本支部の全国の都府県又はブロックに

「恵迪会」を立ち上げる。

ii 西日本支部…東海地区恵迪会結成 平成22年10/

2(土)、名古屋、36名参加

iii 東日本支部…仙台・東北地区恵迪会結成準備

iv 組織強化費として、特別予算

③ 恵迪寮同窓会創立25周年記念事業Ⅱ開拓の村恵迪寮

舎展示改装

i 映像再生装置取替え継続中

④ 会誌「恵迪」第11号発行

・6月下旬発行、B5判98頁、発行部数2200部(会
員配布1700部、寄贈200部、支部配布100
部、在庫100部)

・発行経費 945、420円

・広告掲載収入は475、000円

⑤ 同窓名簿

i 名簿クリーニングと変更訂正のルーチン作業

ii メールアドレス収集

⑥ 会員拡大及び組織強化

i 平成23年恵迪寮同窓会西日本大会(9/17、京都

第2タワーホテル、100名)

ii 平成23年恵迪寮同窓会 第12回「開識社」講演会

(11/24、時計台ホール、100名)

iii 平成24年新年寮歌始めの会(1/28、氷雪の門、

90名)

⑦ 恵迪グッズ販売 平成23年度総売上 553、76

5円(予算対比約各△5万円、決算書)

⑧ 全国3支部の活動(第6号議案)

2. 第12期平成23年度決算報告と監査報告

① 平成23年度決算

↓「会計報告書」

② 平成23年度決算監査報告

〈第2号議案〉平成24年度支部交付金の配分

支部名	平成23年度会費の納入内訳						交付金 算定額 50%	平成24年度 支部交付金
	年度会費		終身会費		計			
	人数	金額	人数	金額	人数	金額		
北海道	74	234,000			74	234,000	117,000	117,000
東日本	116	351,000			116	351,000	176,000	176,000
西日本	41	123,000			41	123,000	62,000	100,000
その他	2	6,000			0	0		
計	233	714,000			233	714,000	355,000	393,000

〈第3号議案〉第12期平成24年度事業計画と予算案

1. 第12期平成24年度事業計画（平成24年4月1日～平成25年3月31日）
 - ① 第12期平成24年度理事会開催…平成24年4月21日（土）、札幌パークホテル
 - ② 役員会開催…随時
 - ③ 各担当部会開催…随時
 - ④ 「〇〇都・府・県恵迪会」又は「〇〇ブロック恵迪会」の結成
 - i 恵迪寮同窓会創立30周年（2013年）までに、東日本・西日本支部の全国の都府県又はブロックに「恵迪会」を立ち上げる。
 - ii 東日本支部…仙台・東北恵迪会結成会（7/7、仙台）
 - iii 組織強化費として、特別予算を組む。
 - ⑤ 恵迪寮同窓会創立25周年記念事業 開拓の村「寮舎」展示改装
 - ⑥ 会誌「恵迪」第12号刊行（記念会号併号）…発行日8/上旬、120頁、2500部
 - i 進捗状況：印刷・製本は（株）アイワードに発注、
 - ii 発送までのスケジュール：原稿締め切り 5/31
↓最終校了 7/下旬↓印刷 7/下旬↓発行 8/上旬
 - ⑦ 会員拡大及び組織強化
 - ⑧ 「同窓名簿」について

i 現恵迪寮にH24年卒業生の氏名と学部学科記載要請

ii H10～H18入寮生の名簿収集

各年度前期後期執行委員長と委員数名の氏名と学部学科のリスト収集、年度別リストを増やしていく

iii 名簿クリーニングと変更訂正のルーチン作業

⑨ HPメンテナンス

⑩ 文化活動常任委員会

i 現寮生対象の「開識社」

ii 北大生、一般市民対象の「開識社」

⑪ 恵迪グッズ販売

i 平成24年度総売上目標 60万円

〈平成23年度実績〉55万円

⑫ 恵迪寮同窓会文化財展示寄贈 高井副会長を中心に北大と粘り強く交渉する。

⑬ 現恵迪寮生支援・交流の活性化

北海道支部との連携により、「観桜会」、「恵迪寮祭」などにおいて支援・交流を図る。また、北海道支部主催の「第12回開識社」に恵迪寮生の参加を促進する。

⑭ 「都ぞ弥生」百年記念事業と記念祭（第4号議案）

2. 第12期平成24年度予算案

① 第12期平成24年度予算案

↓「会計報告書」

〈第4号議案〉「都ぞ弥生」百年記念事業と記念祭

1. 「都ぞ弥生」百年記念事業と記念祭

① 記念事業

i 平成23・24年入学新入生への「都ぞ弥生」CDの配布 ↓4/6入学式配布で完了

ii 記念植樹（開拓の村「寮舎」前庭、中庭） ↓5/13、12・00。開拓の村

iii 「都ぞ弥生」百年記念誌発行 ↓8/上旬発行

iv ドキュメンタリードラマ「清き国ぞとあこがれぬ」制作 ↓来年4、5月放映、DVD完成

↓制作費としてHBCへ300万円拠出する際、DVD購入資金として一時的に恵迪寮同窓会基金を取り崩すことの了承。DVD販売によって充填する予定。

v 「都ぞ弥生」百年記念展示 ↓5/20～6/20、北大総合博物館

大総合博物館

② 百年記念祭 2012年6月9日(土)

i 百年記念式典

ii 百年記念コンサート

演奏者…植村理葉(Vn)、一宮明代(P)

演 目…「都ぞ弥生」幻想曲(植村理葉作曲)、ク

ロイツェル、ツグイネルワイゼン

iii 百年記念講演

講演者…佐川光晴(S58入寮、芥川賞候補作家)

演 題…「都ぞ弥生」これまでの百年とこれからの

百年

iv 「都ぞ弥生」大合唱 ・ 檄文 ・ 寮歌大合唱 ・ 外国語版披露

v 「大寮歌祭 in 札幌」(本部・北海道支部、6/9 京王プラザ)

vi 「都ぞ弥生」百年記念展示公開 (5/20 ~ 6/20 北大総合博物館)

③ 3支部「都ぞ弥生」百年企画

〈北海道支部〉

・ 5/13(日) 記念植樹・名札揭示・観桜会 (開拓の村)

〈東日本支部〉

・ 5/19(土) 記念墓前祭(静岡長源院)、寮歌祭(クール会館)

・ 10/6(土) 記念大寮歌祭(恵比須ガーデンプレイス)

・ 5/27(日) 記念寮歌祭(関西北大大会館)

④ 協賛金募集活動

〈目標〉500万円

〈3月末到達額〉4,866千円

i 個人協賛金 3月末現在 3,734千円

ii 名札募集 3月末締め切り 1,132千円

iii 企業・団体協賛金

iv 企業・団体広告掲載 3月末現在 1,000千円

超の見込み(原則…会誌発行時に請求)

〈第5号議案〉平成24年「大寮歌祭」(東日本支部主管)

1. 開催日…平成24年10月6日(土)、13:00 ~、恵比須ガーデンプレイス

第1部 開識社及び総会

第2部 大寮歌祭

2. 参加費

5千円

〈第6号議案〉恵迪寮同窓会3支部の活動報告と活動計画

1. 東日本支部

〈平成23年度活動報告〉

① 草刈り寮歌祭の実施

東京都港区の芝公園内(元芝増上寺境内)に「開拓使仮学校跡」石碑が在る。札幌農学校の設立日・明治9年8月14日に因み毎年8月14日に「草刈り寮歌祭」と称し、石碑周辺の草刈り後に「都ぞ弥生」を歌うミニ寮歌祭を今年も平成23年8月14日(日)に開催した。終了後のビールは格別の味であった。

② 恵迪寮大寮歌祭

平成23年度は当支部受持ち地域内での出張寮歌祭開催の年に当たり、「恵迪寮大寮歌祭」を神奈川県横浜にて平成23年10月1日(土)に開催した。また当日は大寮歌祭に先駆け「開識社」講演会も開催した。講師は大泰司紀之・北海道大学名誉教授・前日本哺乳類学会会長、演題は「知床と北方四島の自然」であった。続く「恵

迪寮大寮歌祭」参加者は地元勢、友誼校OBも交え、総勢60余名であった。

③ 地域恵迪会の立ち上げ

組織強化のために、東日本支部の命題の一つである地域恵迪会立ち上げに取り組んだ。「仙台・東北恵迪会」の設立に向けて、山中支部長が仙台に行き小出精氏(S30年入寮)、西村典恭氏(S34年入寮)と話し合い「仙台・東北恵迪会」発足を合意した。活動の初弾として寮歌祭を平成24年7月7日(土)に開催すべく準備を進めている。

④ 「新春寮歌歌い初め」

新年の恒例として平成24年1月9日(月・祝)、支部役員他計11名により開催した。

〈平成24年度活動計画〉

① 「都ぞ弥生」百年記念祭

5月19日(土)に横山芳介氏の菩提寺のある静岡の長源院にて第1部「墓前祭」と、クールポール会館にて第2部「記念祭」(寮歌祭)を開催する。

② 東日本大会の開催

今年度は当支部主管の「東日本大会」の年であり、開議社・支部総会・「都ぞ弥生」百年記念大寮歌祭を10月6日(土)に東京恵比寿にて開催する。

③ 地域恵迪会の活動支援

「仙台・東北恵迪会」の寮歌祭開催準備の助言、経費補助等の支援を行う。

④ 役員会の開催

1～3ヶ月に1回の頻度で開催を予定している。(平成24年4、6、8、9、10月、平成25年2月の各月を予定。)「都ぞ弥生」百年記念行事他の準備、検討を行う。

〈財政状況〉

今年度の当支部は地域寮歌祭を含め3度の寮歌祭を開催する予定になっており、やや厳しい財政状況を予想しているが、適切規模での活動を企画していきたい。

2012年恵迪寮同窓会東日本大会のご案内

《春》三月の花に酔い 《夏》芝草に佇みぬ
《秋》石狩の実り愛で 《冬》寒月に櫓を追ふ
歌い継がれし百年（ももとせ）の 若き想ひを胸に秘め
今再びの寮友（ともどち）と 永遠（とわ）の契りを誓いなん

本年は、我らが寮歌「都ぞ弥生」が作られてから満百年を迎えます。
また、3年に一度の恵迪寮同窓会東日本大会が開催される年でもあります。

今回の東日本大会は、ふたたび帝都東京のビール発祥の地、恵比寿ガーデンプレイス内『ビアステーション』での開催を予定しております。

さあ、寮友（ともどち）よ、伝統ある麦芽100%のエビスビールを堪能しながら、百年の年月に想いを馳せて、声高らかに謳おうではありませんか。

恵迪寮同窓会東日本支部長 山中 義正（昭和32年入寮）

【ご案内】

- 日 時：平成24年10月6日(土) 12時30分開場
- 会 場：恵比寿ガーデンプレイス『ビアステーション』
- 会 費：5,000円
- 問合先：〒176-0021
東京都練馬区貫井 4-47-42
副支部長 関口 光雄（昭和39年入寮）
E-mail：jubesannchinoko@ybb.ne.jp
Tel/Fax 03-3926-0080

※詳細は、後日決定します。

2. 西日本支部

【1】第19期平成23年度活動報告（平成23年4月～24年3月）

●平成23年度の活動は、「平成23年度恵迪寮同窓会西日本大会」を成功させることであった。平成22年度から着々と準備を進め、実行委員の頑張りと同窓生のご協力により当初の100人参加目標を達成し、感動を呼ぶ開識社講演会も相俟って充実した西日本大会が開催できた。

i 役員会開催報告

◇平成23年

4 / 19 (火) 平成22年度活動報告と平成23年度活動計画確認

5 / 19 (木)

恵迪寮同窓会理事会の報告（都ぞ弥生100年記念事業に向けて注力）

恵迪寮西日本大会の件（実行委員会発足）

6 / 20 (月)

西日本支部次期役員の見直しと恵迪寮西日本大会の参加者増員策検討

7 / 7 (木)

恵迪寮西日本大会の案内の郵送作業

8 / 4 (木)

恵迪寮西日本大会の役割分担確認、配布資料検討

8 / 25 (木)

恵迪寮西日本大会の配布資料確定、参加者の個別勧誘確認

9 / 8 (木)

恵迪寮西日本大会開催の最終確認

10 / 28 (金)

恵迪寮西日本大会開催の反省と費用精算

算

12 / 6 (火)

新役員の確認、新年度活動計画検討、忘年会開催

◇平成24年

2 / 14 (火)

「都ぞ弥生100年記念事業」への支援（協賛企業開拓、西日本としての行事…5月27日関西での寮歌祭開催決定）

3 / 5 (月)

平成23年度活動報告（案）及び平成24年度活動計画（案）本部提出内容を検討。

ii 主要行事活動報告

◇平成23年

4 / 23 (土)

恵迪寮同窓会理事会出席（札幌・窪田、伊藤、岩井）

6 / 4 (土)

関西北大会館祭りに参加

9 / 17 (土)

恵迪寮西日本大会開催（於：京都第2タワーホテル）

参加者約100人、震災復興支援手ぬぐい配布、開識社講師・野呂氏、大寮歌祭、舞妓のおもてなし、等々大好評であった。

北大関西同窓会総会に参加

◇平成24年

1 / 9 (月)

成人の日 歌い始めの会・賀詞交換会

（北大関西同窓会と一般社団法人北大関西エルク会共催）への出席

【2】平成24年度活動計画（平成24年4月～25年3月）

i 役員会開催計画

平成24年4月～平成25年度3月まで 1回／

1ヶ月 程度

ii 主要行事活動計画

◇平成24年

4月21日(土) 本部署理事会へ出席（伊藤、植松、岩

井予定）

5月27日(日) 西日本支部主催の寮歌祭（都ぞ弥生

100年記念行事前夜祭として）

場所・北大会場

6月2日(土) 「関西北大会館祭り」に参加

6月9日(土) 「都ぞ弥生100年記念事業」に参加

（於：札幌）

10月28日(日) 北大関西同窓会総会に参加

（関西同窓会50周年記念行事 鈴木

章教授の記念講演会）

◇平成25年

1月14日(月) 成人の日 歌い始めの会・賀詞交換

会

（北大関西同窓会と一般社団法人北

大関西エルム会共催）への出席

iii 課題と問題点

・ 会員増強活動

・ 若手が参加できる支部づくり

・ 会員名簿の充実

3. 北海道支部

【1】平成23年の総括

〈成果〉当初掲げた諸行事は、ほぼ実行できた。

○ 支部独自の活動

① 1月29日(土) 平成23年寮歌祭始めの会約90名参加

② 5月15日(日) 開拓の村旧恵迪寮舎観花会&名札掲

示式26名（+家族の方々）参加

③ 7月3日(日) 第29回親睦ゴルフ会13名参加

④ 7月30日(土) 第5回恵迪夏祭り15名参加

⑤ 10月13日(木) 第12回開識社講演会（講師：岸玲子

北大特任教授）約100名参加

⑥ 三火会・毎月第3火曜日に実施

○ 地区恵迪会活動

① 6月11日(土) 第7回道南・函館恵迪寮歌祭9名の

参加

② 7月2日(土) 第7回とち恵迪寮歌祭白浜代表幹

事を含め4名の参加

③ 7月2日(土) 第8回道北・旭川「開識社&寮歌祭」

氏平支部長・西川旭川市長を含め17

名の参加。開識社講演会（講師村上

昭男道北・旭川恵迪会幹事長）

④ 7月9日(土) 第6回道高・苫小牧恵迪寮歌祭総勢

9名

○ 本部・他支部・現寮関係

① 5月14日(土) 現寮の観桜会にOBが参加

② 9月17日(土) 2011年西日本大会に氏平支部長

出席
③ 10月13日(木) 第12回開識社講演会に10数名の現寮生を招待

○ 広報活動

- ① 支部ニュース夏・冬号発行
 - ② ホームページ投稿の活用
 - ③ 歌始めの会・開識社等でのメール一斉配信の活用
- 役員の増強

1月に奥田晋一君(S42入学、農経)及び大谷文昭君(S43入学、水産)の2名を支部役員として迎える。お二人は、寮外生ではあるが、学生時代応援団に所属し、ことのほか寮歌を愛している。

〈課題〉

平成20年・21年・22年に引き続き、釧路根室及びオホーツク恵迪会の「寮歌祭」が実施できなかった。会員のメールアドレスの変更等に対応できないケースが目立つようになってきた。

【2】平成24年の活動方針と事業計画

- 事業計画を着実に実行していく。取り分け、「都ぞ弥生」百年記念事業及び百年記念祭に積極的に取り組んでいく。
- 上記の取組の中で、会員増強を図っていく。
- 満60歳以上のOBを発掘し、支部幹事等に積極的に登用していく。
- 事業計画(別掲)

〈第7号議案〉 恵迪寮同窓会慶弔規程

恵迪寮同窓会慶弔規程(案)

第1条 この規定は恵迪寮同窓会における慶弔に関する必要な事項について定める。

第2条 この規程は本会の以下の者に適用する。

- ① 名誉会長、会長、副会長
- ② 代表幹事、副代表幹事
- ③ 会計監査、本部理事、本部幹事、支部長、支部幹事長

④ 前会長、前副会長、前代表幹事、前副代表幹事

⑤ その他会長、代表幹事が協議により必要と認めらる者

第3条 慶弔等の対象は以下のとおりとする。

- ① 本人の死亡
- ② その他会長、代表幹事が協議により必要と認めらる者

第4条 弔慰金額等は以下のとおりとする。

- ① 第2条①、②の者 香典2万円、生花、弔電
- ② 第2条③、④の者 香典1万円、弔電
- ③ 特別の対応が必要な場合については、別途会長、代表幹事が協議のうえ決定する。

第5条 この規程は本部幹事会の議決をもって改定することができる。

付則 この規程は平成24年4月1日から施行する。

恵迪寮同窓会北海道支部 平成 24 年事業計画 <保存版>

月	日	行 事	総会・幹事会・その他
1月			14日(土)第1回幹事会(歌始めの会)
	28日(土)	平成24年寮歌歌始めの会(氷雪の門)	28日(土)第11回支部総会
2月		北大室蘭恵迪会新年会	
	21日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
3月	20日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
4月	17日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	14日(土)第2回幹事会(観花会・植樹祭)
			21日(土)恵迪寮同窓会本部定期理事会
5月	6日(日)	恵迪寮「観桜会」&現寮交流会	
	13日(日)	開拓の村旧恵迪寮舎「花壇」観花会	本部：都ぞ弥生百年記念植樹祭・観桜会、名札掲示式
	15日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
6月	9日(土)	『都ぞ弥生』百年記念祭(北大大学祭3日目)後援/北海道大学	2日(土)第3回幹事会(ゴルフ・夏祭り)
	9日(土)	第8回道南恵迪寮歌祭(ホテルテトラ)	…同左恵迪会は毎年6月第2土曜日開催
	19日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
	23日(土)	第8回とかち恵迪寮歌祭(ふじもり食堂)	
	24日(日)	第30回親睦ゴルフ大会	
	下旬	支部ニュース夏号発行	30日(土)第4回幹事会(夏祭り・開識社)
7月	7日(土)	第9回道北・旭川「開識社&寮歌祭」	…同左恵迪会は毎年7月第1土曜日開催
	14日(土)	第7回日高・苫小牧恵迪寮歌祭	…同左恵迪会は毎年7月第2土曜日開催
	17日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
	21日(土)	第2回釧路根室恵迪寮歌祭(人数的に?)	
	28日(土)	第6回恵迪夏祭り(サッポロビール・ライオン)	
8月	21日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	都ぞ弥生百年記念号・会誌「恵迪」第12号の合併号発行
9月	18日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	29日(土)第5回幹事会(開識社)
10月	6日(土)	第3回オホーツク恵迪寮歌祭	
	11日(木)	第13回開識社講演会(時計台ホール)	左記の会場は予約済みである
	16日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
11月	20日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	
12月	18日(火)	恵迪三火倶楽部(つる)	8日(土)第6回幹事会(歌始めの会)
	下旬	支部ニュース冬号発行	
1月			12日(土)第1回幹事会
	26日(土)	平成25年寮歌歌始めの会(氷雪の門)	26日(土)第12回支部総会

平成 23 年度収支決算書

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

	(予 算)	(執 行)	(執行率)
収入合計	3,461,000	2,549,894	73.70%
支出合計	3,461,000	2,895,251	84.00%
収支差額	0	△345,357	

〈収入の部〉

(単位 円)

科 目	予 算 (A)	執 行 (B)	対 比 C = B - A	備 考
1. 会費収入				
年度会費収入	660,000	714,000	54,000	233名
運営支援資金	400,000	419,500	19,500	194名
終身会費収入		0	0	
カンパ収入	250,000	271,950	21,950	74名
小 計	1,310,000	1,405,450	95,450	
2. 事業収入				
恵迪グッズ販売収入	600,000	553,765		
「恵迪」販売収入	0	0	0	
広告収入	300,000	475,000	175,000	
雑収入	0	12,470	12,470	
小 計	900,000	1,041,235	187,470	
3. 利息収入	5,000	3,703	△1,297	
4. 前期繰越金	99,207	99,506	299	
5. 基本金取崩収入	1,146,793	0	△1,146,793	
収入合計(B)	3,461,000	2,549,894	△864,871	

〈支出の部〉

科 目	予 算 (A)	執 行 (B)	対 比 C = B - A	備 考
1. 運営費				
事務局費	240,000	240,000	0	書類保管料外
総会費		0	0	総会資料・会場費等
会議費	400,000	296,800	△103,200	理事会・幹事会等経費
通信費	290,000	186,119	△103,881	電話代、送料、HP・ML保守
印刷費	50,000	0	△50,000	
組織強化費	200,000	107,280	△92,720	県・ブロック恵迪会
雑費	100,000	260,162	160,162	
小 計	1,280,000	1,090,361	△189,639	
2. 事業費				
恵迪発行関係費	1,200,000	945,420	△254,580	
同窓会名簿発行費	50,000	0	△50,000	
現寮関係費	50,000	32,550	△17,450	
支部交付金	381,000	381,000	0	
恵迪グッズ制作費	0	445,920	445,920	CD1000枚、陣羽織
記念事業費	500,000	0	△500,000	
小 計	2,181,000	1,804,890	△376,110	
3. 予備費		0	0	
支出合計(D)	3,461,000	2,895,251	△565,749	

平成 24 年度収支予算書

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

収入合計 2,973,000

支出合計 2,973,000

次年度繰越額 0

〈収入の部〉

(単位 円)

科 目	23 年度予算 (A)	24 年度予算 (B)	対 23 年度対比 C = B - A	備 考
1. 会費収入				
年度会費収入	660,000	660,000	0	220 名×3000 円
運営支援資金	400,000	400,000	0	200 名×2000 円
終身会費収入	0	0	0	
カンパ収入	250,000	250,000	0	
小 計	1,310,000	1,310,000	0	
2. 事業収入				
恵迪グッズ販売収入	600,000	600,000	0	事業計画 (売上 1,500 千円×40%)
「恵 迪」販売収入	0	0	0	
広 告 収 入	300,000	300,000	0	
雑 収 入	0	0	0	
小 計	900,000	900,000	0	
3. 利息収入	5,000	5,000	0	
4. 前期繰越金	99,207		-99,207	
5. 基本金取崩収入	1,146,793	758,000	-388,793	
収入合計(B)	3,461,000	2,973,000	-488,000	

〈支出の部〉

科 目	23 年度予算 (A)	24 年度予算 (B)	対 23 年度対比 C = B - A	備 考
1. 運営費				
事 務 局 費	240,000	240,000	0	書類保管料外
総 会 費	0	0	0	総会資料・会場費等
会 議 費	400,000	400,000	0	理事会・幹事会等経費
通 信 費	290,000	290,000	0	電話代、送料、HP・ML 保守
印 刷 費	50,000	50,000	0	
組 織 強 化 費	200,000	200,000	0	県・ブロック恵迪会
雑 費	100,000	100,000	0	
小 計	1,280,000	1,280,000	0	
2. 事業費				
恵迪発行関係費	1,200,000	1,200,000	0	
同窓会名簿発行費	50,000	50,000	0	発行等打合せ
現 察 関 係 費	50,000	50,000	0	
支 部 交 付 金	381,000	393,000	12,000	
恵迪グッズ制作費	0	0	0	
記 念 事 業 費	500,000		-500,000	
小 計	2,181,000	1,693,000	-488,000	
3. 予備費	0	0	0	
支出合計(D)	3,461,000	2,973,000	-488,000	

平成24年度「年会費」と「運営支援金」納入のお願い

本会は、年会員の年会費3000円と終身会員の運営支援金2000円、およびカンパによって、全国3支部持ち回りの「大寮歌祭」や会誌「恵迪」の発行、文化講演会「開識社」の開催、現寮との交流、地域ごとの親睦交流・地区寮歌祭などの活動を展開しております。

平成23年度の会費等の納入状況は、総件数471件140万5450円(年会費は233件71万4000円、運営支援金は、194件41万9500円、カンパは、74件27万1950円)となっております。

「会員相互の親睦を計り、恵迪精神の伝承発展に務める」という会の目的を実現するために、平成24年度「年会費」と「運営支援金」の納入をお願いいたします。それぞれ同封の郵便払込取扱票によりご送金ください。

- ① 年会員の方は、平成24年度「年会費」として3000円
- ② 平成16年までの終身会員の方は、平成24年度「運営支援金」として2000円
- ③ 任意のカンパ

※ 同窓会という任意団体の性格上、会費未納という請求関係は発生しません。あくまでも年度ごとの処理となります。払込の失念などがないよう宜しくお願いします。

恵迪寮同窓会ホームページにアクセス・投稿を！

平成21年2月開設の「新ホームページ」への訪問件数も今年6月末で1万2000件を超えました。「事務局のお知らせ」や「談話室」の更新も適宜行われ、「話題あれこれ」などの資料も追加され同窓会会員のみならず多くの方々が楽しめるものとなりました。

会員相互の情報交流・会員増強のツールとして有効に活用して参ります。会員諸氏の積極的なアクセス・投稿をお願いいたします。

URL：<http://www.keiteki-ob.jp/>

恵迪寮同窓会の住所とTEL&FAX・メールアドレス

住所：〒064-0061 札幌市中央区南13条西11丁目 (株)アークス内

TEL&FAX：011-530-1186 E-mail：info@keiteki-ob.jp

[北海道支部]

住所：〒064-0061 札幌市中央区南13条西11丁目 (株)アークス内

TEL&FAX：011-530-1186 E-mail：info@keiteki-ob.jp

[東日本支部]

住所：〒176-0021 東京都練馬区貫井4丁目47-47 関口光雄気付

TEL&FAX：03-3926-0080 E-mail：jubesannchinoko@ybb.ne.jp

[西日本支部]

住所：〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2-2-200 大阪駅前ビル2F 北大会館内

TEL&FAX：06-6343-3736 E-mail：yasuhisa_ito@nifty.com

祝

「都ぞ弥生」誕生百年

社会福祉法人 愛知慈恵会

理事長 谷川 喜久雄

(工・資源52期)

本部事務所

愛知県一宮市浅井町西海戸字余陸寺45-1

TEL 0586-78-8438

<http://www.iful-jikeikai.com>

高齢者福祉施設

尾張一宮・三河安城・飛騨白川郷

「脳神経・脊髄疾患の患者さんの
QOLとその継続性」を特に大切にし
急性期医療から回復期リハビリテーションまで
患者さん一人一人の生き方をも含めた
医療のニーズにあわせた
過不足のない医療サービスの提供を目指します



脳神経外科
神経内科
リハビリテーション科
精神科
放射線科
麻酔科

特定医療法人

柏葉脳神経外科病院

理事長・院長 金子貞男 名誉理事長 柏葉 武

診療時間 脳神経外科 (月)～(金)9:00～17:00 (土)9:00～12:00
神経内科 (月)～(土)9:00～12:00 ※予約制
精神科 (月)～(土)9:00～12:00 ※完全予約制
循環器内科 (水) 9:00～12:00

脳ドック(毎週火・木※完全予約制)

①13:30～ ②14:00～

予約電話：011-859-5636

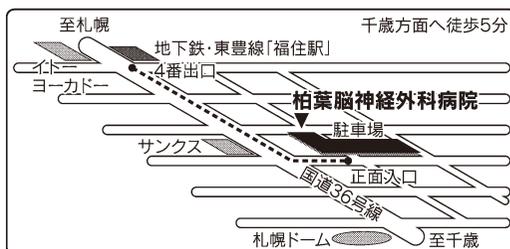
061-8513

札幌市豊平区月寒東1条15丁目7番20号

TEL 011-851-2333 FAX 011-851-2131

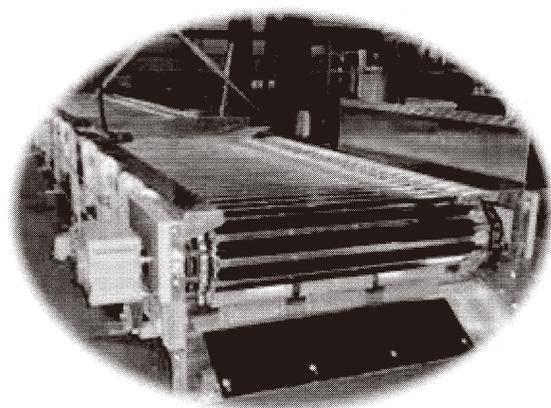
地下鉄東豊線「福住駅」4番出口より徒歩5分

<http://www.kashiwaba-nougeka.or.jp>



コンベヤー一筋に40年
輸送プラントの
専門メーカー

株式会社
エヌメック



代表取締役 中 静 勝 彦
(工・鋁山工学科S42卒)

〒007-0883 札幌市東区北丘珠3条4丁目2-30
TEL: 011-791-1894, FAX: 011-791-1897
E-mail: nmec@cocoa.ocn.ne.jp



もっと技術を語りたい

半世紀の感謝と共に
未来へのかけ橋

1962
50th
ANNIVERSARY

北辰土建株式会社

代表取締役会長 鴨 下 泰 久
(資源開発工学科 54期)

〒090-0030 北海道北見市北10条東4丁目1番地
TEL(0157)24-8624 FAX(0157)61-2097
URL <http://www.hokushindoken.co.jp> E-mail:hokushin@cocoa.ocn.ne.jp

—地球と人の調和を考える—
株式会社ダイヤコンサルタント北海道支社

執行役員 支社長 佐々木 哲男

杉浦高広(工・S61卒)、萩野克彦(工・S63卒)
江副智成(工・H5卒)、女澤徹也(理・H8卒)

〒001-0010
札幌市北区北10条西2丁目13番地2
TEL:011-729-2701 <http://www.diaconsult.jp>

TOTAL FACILITY MANAGEMENT OFFICE

(株) 北海道建築研究所

代表取締役
管理建築士 岩 崎 正 (S47年入寮)

〒065-0031 札幌市東区北31条東17丁目5番24号
Tel. 011-792-0836 Fax. 011-786-0214

トヨ商事有限会社

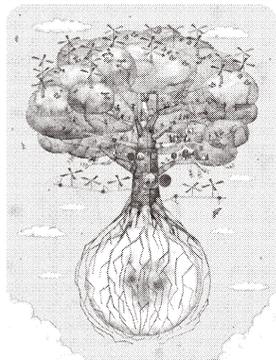
代表取締役 **徳 永 徹** (水・昭37・製)

本社 〒572-0827 寝屋川市萱島本町18番2号エスワイ第1ビル3階
電話 072(811)7193 FAX 072(811)7193

喫茶・お弁当お気軽にお越し下さい 第3ビル店が便利

Coo-Cooカレー & 弁当 第3ビル店 電話06(6341)7818
大阪駅前第3ビル地下2階 モスバーガー大阪駅前第2ビル店 電話06(4797)0321

Coo-Coo井 & 居酒屋 お初天神店 電話06(6364)5130
銀のさら宅配寿司 都島店 電話・FAX06(6925)7411
大阪市都島区都島本通1-8-7

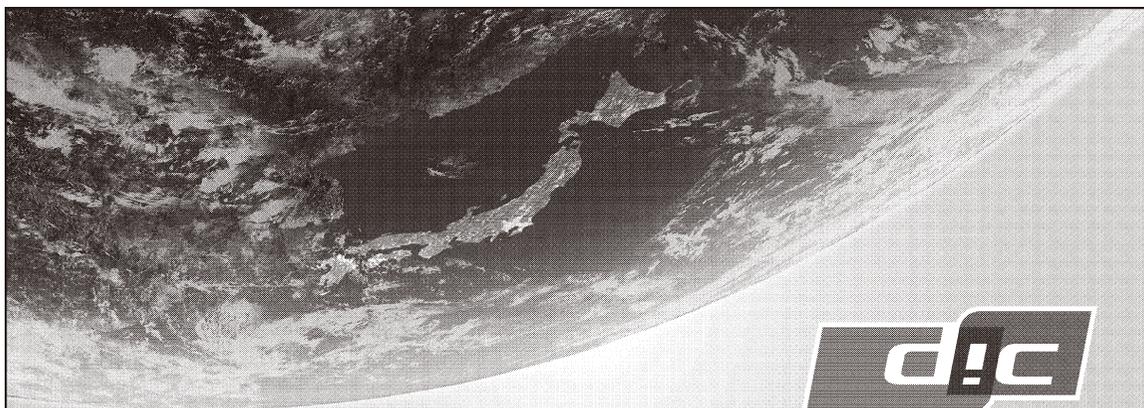


コミュニケーションの可能性を、
夢を、限りなく広げてくれるユビキタス社会。
その生命線となるネットワークを、
わたしたちは先進のITで支えています。



日本コムシス株式会社 北海道支店

〒060-0004
札幌市中央区北4条西15丁目1-23 TEL 011-205-3800 FAX 011-633-7065
<http://www.comsys.jp/>



Color & Comfort by Chemistry

化学が地球にできること

化学が地球にできることは何でしょう。

DICは化学メーカーとして、常にこのテーマを意識しています。

環境調和型製品の開発、化学物質排出量の削減、省エネルギー…

地球のために私たちができること。

化学で彩りと快適を提案するDICの仕事です。

DIC株式会社
ディーアイシー

<http://www.dic-global.com/>

Win's·Ark

ウインズ・アークグループは
人と動物と自然の絆を大切にしています。

「マンダリン オリエンタル東京」監修の
Premium SABO オリジナルスイーツ

2012.6 ANAプレミアムクラス搭載



さいたま羽生の真金支

菓子製造 OEM
株式会社ウインズ・アーク
本社
〒348-0032 埼玉県羽生市秀安407
電話 048-563-0691
株式会社ウインズ・アークトレーディング
東京支店
〒156-0045
東京都世田谷区桜上水3-21-14
海外事業部
(準備室 / Che Shun Food co. Ltd in)
台湾高雄市三民區中華二路423
株式会社 ヴィーブル
本店、イオンモール羽生店
株式会社 札幌キタリッシュ
東京支店
〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8
DUPLEX銀座タワー2
代表取締役
荒木隆夫 (S49入寮)

ベトナム ホーチミン市
8月オープン 東京タウン (仮称)



おいしく、北海道らしく。

Nichiryō

絹艶 6



やっぱり、
今日も
絹艶。

しっとりやわらか
うるおい熟成製法

絹艶

きぬつや



日糧製パン株式会社
<http://www.nichiryō-pan.co.jp/>

電気通信施設用基礎部材の総合メーカー



株式会社

酒井機材製作所

<http://www.sakaikizai.com>

代表取締役社長 真嶋 明 (55年卒 資源開発工学科)

本社 〒061-3241
北海道石狩市新港西3丁目749-11
代表 Tel. (0133)73-8141 Fax. (0133)73-8140

事業所 東京支店 仙台支店 宮城豊里工場

建設業登録 電気工事業・電気通信工事業 北海道知事許可(般-23)石 第20998号



軽量で、加工性、耐食性、熱伝導率、リサイクル性に優れたアルミニウム。つねに最先端分野に活用され、社会の発展を支え続けています。



昔も今も。
アルミは最先端の
マテリアルです。

アルミにこだわり、アルミを超えていく。

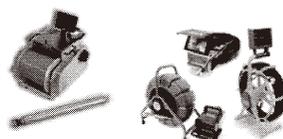
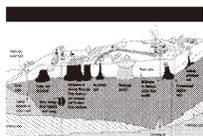
 日本軽金属株式会社
www.nikkeikin.co.jp

〒060-0063 札幌市中央区南三条西4丁目12-1
アルシュビル8F

株式会社 ふ ら う

代表取締役 石 川 裕 一

TEL 011(219)2223 FAX 011(219)2885



ボアホールカメラ計測
管内カメラレンタル
地質調査・水文調査
地下水解析
土壌・地下水汚染調査
アスベスト調査
ソフトウェア販売

Raax

<http://www.raax.co.jp>

株式会社レアックス

代表取締役 亀和田 俊一

本 社 札幌市東区北24条東17丁目1-12 TEL(011)780-2222 FAX(011)780-2221
東京支店 東京都大田区西糺谷1-10-16 TEL(03)5735-5951 FAX(03)5735-5952

北海道大学歯学部同窓会

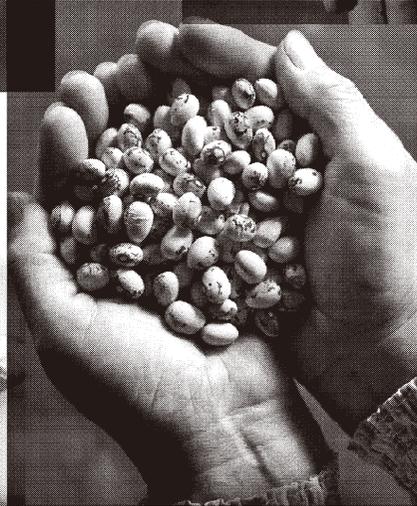
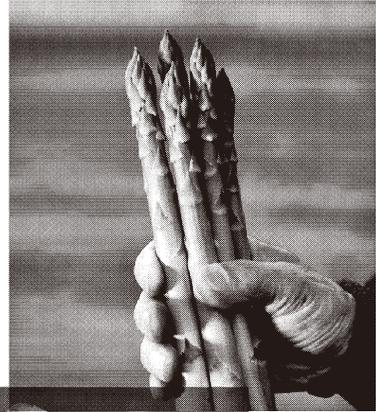
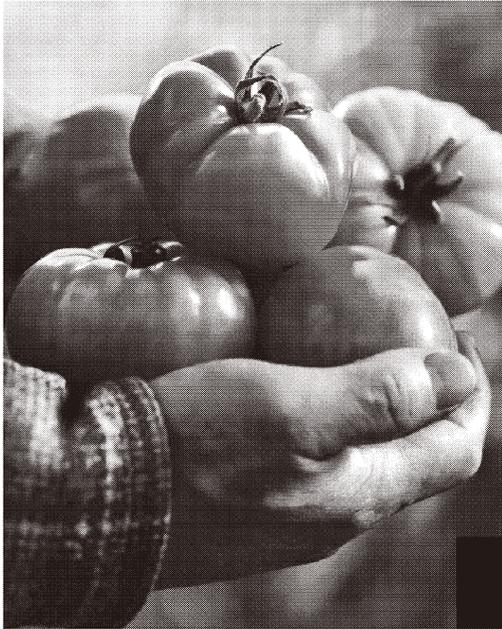
会長
村 井 清 彦

内科小児科 駒田医院
北海道大学関西同窓会顧問

駒 田 盈 郎

(医・昭20)

〒577-0831 東大阪市俊徳町一三十一十六
TEL(06) 六七二八七六四一
FAX(06) 六七二八六八二三



Life is _____ .

生きることは、食べること。

生きることは、土を耕すこと。

生きることは、毎日に感謝すること。

生きることは、いのちを見つめること。

大地のいのちを、明日のいのちへ。





一尾の魚から、一つの出会いが始まります。
港であがったお魚は、都市と都市の架け橋となり、
市場とお店を、産地と食卓を結びます。
そして家族は、食卓で旬の笑顔と出会います。
一尾の魚からつながる、かけがえのない絆のために、
北海道ぎょれんは、食卓においしさと安心をお届けします。



北海道秋鮭普及協議会 北海道ほたて漁業振興協会 北海道昆布普及協議会
<http://www.gyoren.or.jp>

★ 乾杯をもっとおいしく。
SAPPORO



丸くなるな、
★ 星になれ。



大人の★生。
サッポロ生ビール
黒ラベル

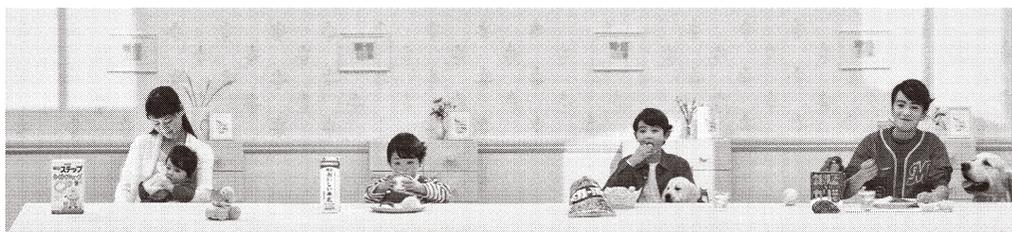
旨さ
長持ち
麦芽!!
一部使用



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。  サッポロビール株式会社
www.sapporobeer.jp

ふるさとのために、何ができるだろう? ★ 北海道はサッポロビール

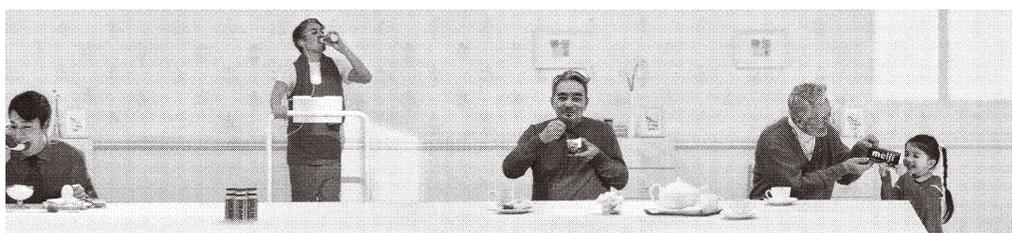
おいしさで、
あなたとずっとつながっていたい。



♪ オギヤと 泣いて 生まれた日 から 人は毎日



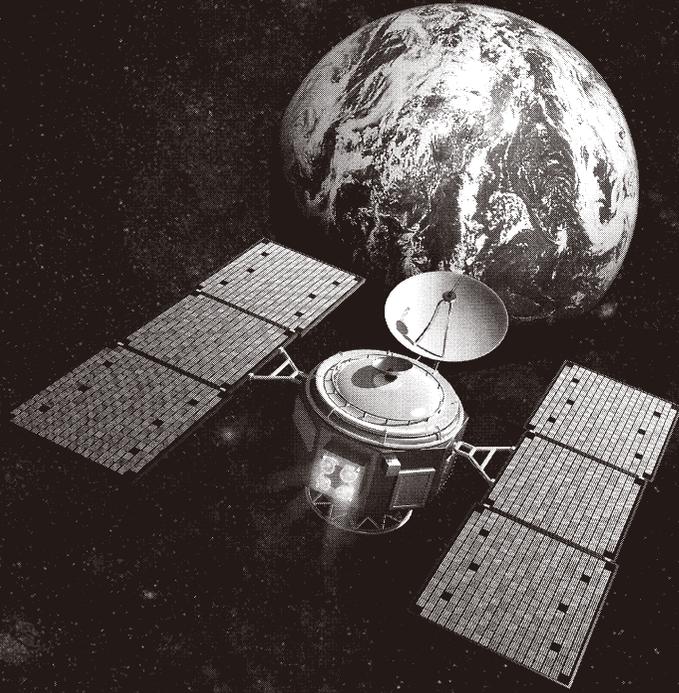
おなかが減るよ ゴクゴク パクパク ムシャムシャ ペロリ



食べることは生きること それが明日のキミになる

明日をもっとおいしく
meiji

株式会社 明治



宇宙の夢と、エア・ウォーター。

たとえば、当社のエンジニアも参加した、国産ロケットH1の開発プロジェクト。

そこで学んだのは「精細なガスコントロール技術」と「絶対にあきらめないスピリッツ」。

その後、世界でこれまでになかった「オンサイト型高純度窒素発生装置・V1シリーズ」の開発に成功。

宇宙の夢と地球の夢をつなげました。

また現在、惑星探査機のイオンエンジンの推進剤として使われる

「キセノンガス」は国内では唯一、当社が製造販売を手がけている貴重な産業ガス。

宇宙の夢とエア・ウォーターはつながっています。

産業ガスのソリューション。広がる事業のイノベーション。
エア・ウォーター



エア・ウォーター株式会社 / 大阪市中央区東心斎橋1丁目20番16号

おいしさを笑顔に

KIRIN



北海道の ヨロコビール



トクベツな日も、トクベツじゃない日も。
 笑ったり、ほっとしたり、元気になったり。
 北海道を「笑顔＝ヨロコビ」で満たしたい、
 キリンビールです。



その他の醸造酒(発泡性)①



発泡酒



発泡酒



※一部他工場製造商品も流通している場合があります。



ストップ! 未成年者飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。
 妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。のんだあとはリサイクル。



キリンビールマーケティング株式会社 北海道統括本部

JFマリンバンク漁協・信漁連を ご存知ですか？

JFマリンバンクは、
全道70の漁協が行う信用事業
店舗と7店舗・3推進センターを
有する北海道信漁連の統一呼称です。

JFマリンバンクはどなたでも
ご利用頂ける金融機関です。

是非ご利用下さい☆

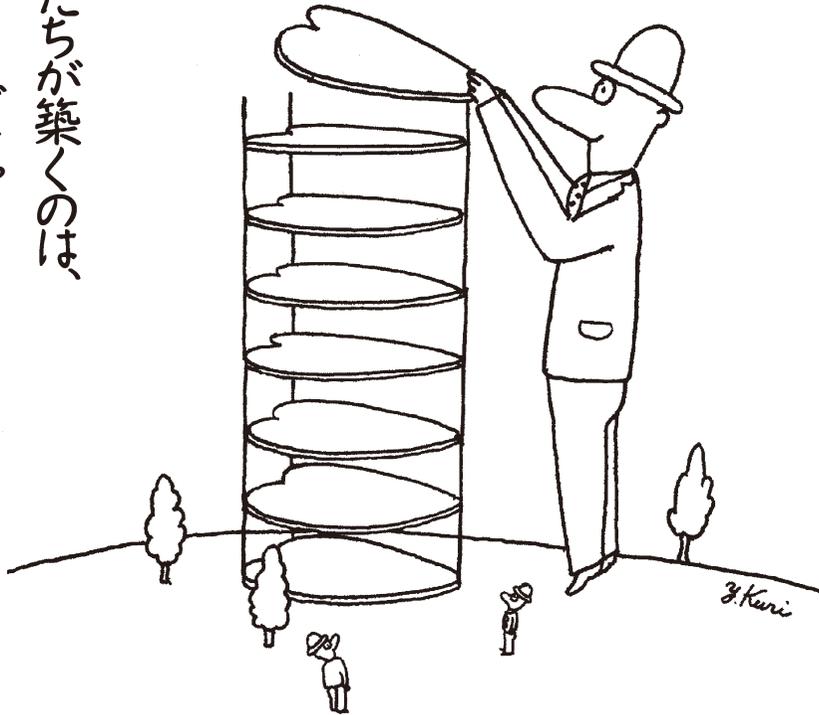


笑顔あふれる 浜が好き

元気バンク マリンバンク

漁協・信漁連

「
ごころ」です。
私たちが築くのは、



今、人は地球について考えています。
そして、自然のことを想っています。
地球があって、緑にあふれ、人々が生活する。
私たちはそんな基本的なことから考えたい。
私たちのふるさと・地球にやさしい技術の確立。
熊谷組の変わらぬテーマです。

— 人と地球の未来を考える —



熊谷組

編集後記

同窓会の集まりや仲間内で「おれたちは絶滅危惧種のようなものだ」とか「寮歌は滅びの美学である」というやや感傷的な言葉をよく耳にします。絶滅危惧種とは言いませんが、同窓会員の登録数や寮歌祭参加者数の数字から見ても、時代の流れはしかたがないのかと忸怩たる思いでした。

ところが、今回、北大構内を中心に開かれた「都ぞ弥生」百年記念祭は、そんな懸念や不安を見事に払拭。全国から積極的に参加した500余名もの同窓会員たちが、「都ぞ弥生」の旗の下、心が一つにまとまり感動・感涙の連続でした。

それは「都ぞ弥生」がある限り、寮歌は歌い継がれ、恵迪寮同窓生の絆も永遠に続くことが確信できた瞬間でもありました。

同様に、同窓生の憩いの場でもある会誌にもこれまでにない投稿、寄稿がありました。その年齢幅は、昭和初期の入寮生から、新々寮と言われる平成時代の若い仲間まで実に50余です。戦前の旧制高校系大学寮がほとんど消えた今、明治、大正、昭和、平成に生まれたOB・寮生の原稿が一堂に掲載される同窓会誌は、唯一無比の存在で北大の誇るべき伝統・文化だと思います。

百年記念合併号の編集方針として、「都ぞ弥生」に寄せるOBの想いをほぼ原文のまま掲載することにしました。また、6・9記念祭の感激をそのままに誌面に反映させようと締め切りを延期したことや、膨大なページ数のため編集作業が大幅に遅れ、発行日が8月半ば過ぎになるなど、数々の予定変更をお詫びします。

寮歌「都ぞ弥生」と恵迪寮、そして百年記念祭と会誌の事務局を一手に引き受けて頂いた佐藤静子さんに感謝しつつ次なる目標に向かって行きたいと思います。

会誌「恵迪」編集長 大隈 昭二（S40年入寮）

【編集委員】 氏平 増之（S38年入寮） 佐藤 市雄（S38年入寮）
内藤 春彦（S40年入寮） 白浜 憲一（S40年入寮）
八重樫幸一（S41年入寮） 岩本 栄一（S44年入寮）
淵上 玲子（H8年入寮）

会誌「恵迪」第12号

「都ぞ弥生」百年記念号

2012年8月

発行 恵迪寮同窓会

〒064-8610 札幌市中央区南13条西11丁目

株式会社アークス内

TEL & FAX 011-530-1186

E-mail: info@keiteki-ob.jp

同窓会ホームページ

http://www.keiteki-ob.jp/

発行者

恵迪寮同窓会会長

横山 清

印刷・製本 株式会社アイワード

〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5-91

TEL 011-241-9341

FAX 011-207-6178

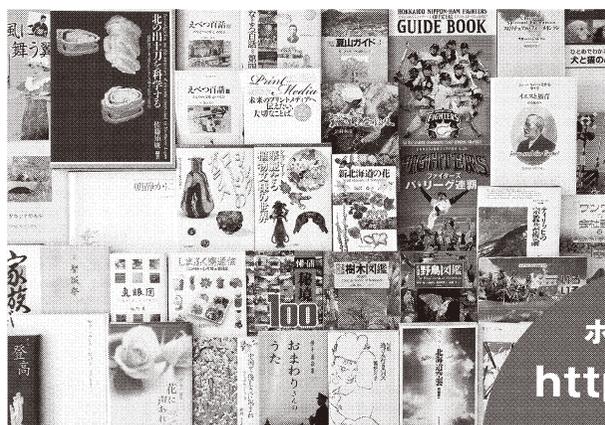
さまざまな想いがつまった本づくりは
実績豊かなアイワードにおまかせください

自費出版

自分史やエッセイ集、画集や写真集・作品集など自費出版から
記念誌、研究論文、報告書、出版物、辞書・事典まで

本づくり

原稿作成、リライト、工程、撮影、費用…、どんなことでもご相談ください。創業以来
40年以上にわたり蓄積してきた本づくりのノウハウと最新技術でお手伝いします。
お気軽にご連絡ください。詳しくはアイワードホームページでもご覧いただけます。



ホームページ

[http://www.](http://www.iword.co.jp)

iword.
co.jp

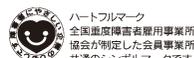
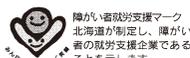


新時代の〈企画・情報処理・印刷〉企業

株式会社アイワード

本社：〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5-91
TEL(011)241-9341 FAX(011)207-6178

東京営業部：〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 高岡ビル6階
TEL(03)3239-3939 FAX(03)3239-3945



豊かな大地に輝く懸け橋に



北海道・北東北に広がる252店舗
ARCS アークスグループ

株式会社アークス 代表取締役社長 横山 清
札幌市中央区南13条西11丁目2番32号 TEL.011-530-1000

株式会社藤原商店

〈関連会社〉
株式会社エルディ
株式会社イワイ
株式会社ライフポート
ホテル福原
アークストラベル